

2020（令和2）年度
事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2020年度事業報告目次

	ページ
法 人	1
神戸聖隷歴史資料館	39
平生園	42
わらしべ	50
さくらの苑	56
恵生園	63
真生園	70
和生園	77
北但広域療育センター	86
エスポワールこじか	94
神戸聖生園	100
グループホームせいれいやまて	104
グループホームたいのはた東	107
神戸愛生園	111
すま障害者地域生活支援センター	115
神戸聖隷総合相談センター	120
神戸友生園	124
グループホーム南落合	130
神戸光生園	132
グループホームみなみたもん	137
グループホームふくだ	139
神戸明生園	141
ケアホームきたすま	144
神戸市立ワークセンターひょうご	146
じごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	153
ひょうご障害者地域生活支援センター	157
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	163
神戸市立自立センターひょうご	170
ワークセンターわかまつ	178
せいれいやさかだい	183
事業報告別表1（事業実績）	192
事業報告別表2（設備整備実績）	194

2020年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
理事長 水野 雄二

「言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」(ヨハネの手紙 一 3:18)

1. はじめに

2020年度、神戸聖隷福祉事業団（以下、「神戸聖隷」と表記）は創業45年を迎えました。しかし、記念すべきこの年は同時に新型コロナウイルス COVID-19によるパンデミックが世界の歴史に記録される年となり、神戸聖隷もこのコロナウイルスを巡り法人運営、施設運営に苦慮を迫られる一年となりました。

神戸聖隷は2017年度より第3期中期計画を実行し、実りある3カ年を過ごしてきました。当年度はこの第3期中期計画を受け継ぐ第4期中期計画（2020~2022年度）3カ年のスタートの年でした。「だれもがその人らしく輝ける地域社会の実現に尽くします」というビジョンに基づき、神戸聖隷に関わる多くの方々がそれぞれの「いのち」の輝きを感じることができる福祉を願って初年度の歩みを進めました。

「理念理解定着」、「職員育成」、「QOL」、「経営強化」、「地域貢献」、「人事・労務・危機管理」の6つの部門の事業を継続し、各施設でもそれぞれに計画された第4期中期計画を進めることで支援の業に励んできました。しかしながら、いくつかの事業はコロナ感染防止を優先し、中止や延期を余儀なくされました。通所施設への来園自粛をお願いする期間もあり、目標としていた利用人数や収入の決算額も数字的には未達成に終わりました。また、入所施設でご家族の面会制限のお願いや、地域貢献としてのイベント自粛などもあり、忍耐を強いる一年でありましたが、ご利用者、職員らの安心と安全を優先して事業が進められました。その中で、地域貢献の一環として、神戸市須磨区友が丘に「神戸聖隷オアシス」、朝来市和田山町竹田に「めぐみ」の新施設の建設が同時に進められ、両施設共に年度内に竣工することができました。2021年度からそれぞれに新しい事業がスタートすることは明るい出来事でした。

最も喫緊で重要な課題である人材の確保と養成は、コロナ禍の中、一層の難しさがありました。職員採用、職員研修もリモートによる新しい試みが始まり、今までにない新しい視点を与えられましたが、まだまだ実績が伴わず、しばらく工夫と努力が必要です。また、働き方改革が叫ばれる中、職員一人ひとりが多様な働き方を通してやりがいを持つことができるように、そしてその努力が報われるような制度設計についての取組が進められ、これも新しいチャレンジを与えられました。

神戸聖隷は、「だれもがその人らしく輝ける」ように、ふれあい、交わる人々がそれぞれに言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛し合うコミュニティです。コロナ禍だからこそ、お互いに「大切に思い合う」こと、「大事な人として接する」ことの理念が改めて強く感じられる時となりました。「誠実な行い」を伴って人を思い合う。それを福祉の原点として確認し、コロナ禍でも着実な歩みを進めた一年となりました。

2. 主な式典

(1) 辞令交付式

2020年4月1日(水)今年度の辞令交付式は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、但馬地区、神戸地区に分かれて開催しました。午前中部在宅障害者福祉センターにて、新採用職員13名(うち登用者8名)、昇任者4名、異動者3名(課長1名、理事2名)に、午後但馬総合事務所にて、新採用職員7名(うち登用者3名)、昇任者3名、異動者1名(課長)に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師、和田山地の塩伝道所小西直人牧師それぞれからメッセージ、祈り、祝祷をいただきました。

(2) 創業45年記念式典

2020年6月22日(月)神戸地区にて予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としましたが、但馬総合事務所、中部在宅障害者福祉センター、神戸聖生園、神戸愛生園、神戸友生園、本部、神戸明生園、神戸光生園の各拠点で理事長から永年勤続者に表彰状と記念品が授与されました。対象者は、勤続10年表彰者20名、20年表彰者16名、30年表彰者4名、40年表彰者1名、合計41名です。事業所によってはご利用者、そして日頃共に働く職員と共に祝うことができ、記憶に残る授与式となりました。

3. 主要会議

(1) 評議員会

ア) 第129回定時評議員会(2020年6月16日決議)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団 定款第13条4項に基づき書面による決議としました。

①2020年度社会福祉充実計画の変更承認申請の件、(報告①)2019年度事業報告の件、(報告②)2019年度計算関係書類及び財産目録の報告の件、(報告③)2019年度計算関係書類に係る独立監査人の監査報告書の報告の件、(報告④)2019年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の報告の件、(報告⑤)2019年度期中監事監査の記録の件、(報告⑥)2020年度会計監査人による監査計画等の件、(報告⑦)2020年度役員賠償責任保険加入の件、(報告⑧)2019年度第三者評価受審報告、(報告⑨)第3期中期計画(2017年度~2019年度)のまとめ

イ) 第130回評議員会(2020年10月23日決議)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団 定款第13条4項に基づき書面による決議としました。

①さくらの苑正面進入路土地の基本財産編入による定款変更の件

(2) 理事会

ア) 第212回理事会(2020年6月2日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③定時評議員会に報告する2019年度事業報告(案)の承認の件、④定時評議員会で報告する2019年度計算関係書類及び財産目録の承認の件、⑤定時評議員会に報告する2019年度事業報告及び計算関係書類に係る監事監査結果の件、⑥定時評議員会で承認を求める2020年度会計監査人選任と監事同意の件、⑦定時評議員会の開催の件、⑧昇任昇格規定の改訂の件、⑨真生園天井走行リフト更新工事(新館分)及び業者選定の件、⑩北但広域療育センター実地指導結果及び是正・

改善報告の件、⑪神戸市によるひょうご障害者地域生活支援センター実地指導指摘事項と改善報告の件、⑫小学校等の臨時休業に伴う保護者の休暇取得支援のための新たな助成金の活用の件（就業規則の改訂について）（報告①）第3期中期計画（2017年度～2019年度）まとめ、（報告②）2019年度第三者評価受審報告、（報告③）2019年度虐待防止取組報告、（報告④）満足度調査報告、（報告⑤）財務辞令発令について、（報告⑥）寄付金受入報告

イ) 第213回理事会（2020年10月6日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2021年度平生園大規模改修工事の件、④2021年度平生園特殊浴槽新規設置工事にかかる機種選定と助成金申請の件、⑤真生園本館2階男女トイレ及び厨房床改修工事にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑥神戸愛生園ナースコール購入設置にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑦神戸愛生園職員寮改修工事（窓枠改修、廊下非常照明）にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑧神戸光生園門扉新設及び旧門扉撤去に係る令和2年度共同募金（令和3年度事業費）受配要望書提出の件（6月15日提出済み）、⑨神戸市立中部在宅障害者福祉センター指定管理者申請の件、⑩さくらの苑正面進入路土地の基本財産編入並びに定款別表の改訂の件、⑪第130回評議員会の開催の件、⑫すま障害者地域生活支援センター（神戸市委託事業）公募の件、（報告①）平生園スチームコンベクションオープン整備事業への助成金決定の件、（報告②）第4期中期計画進捗状況報告

ウ) 第214回理事会（2020年11月25日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③共同生活援助グループホームめぐみと放課後等デイサービスめぐみの事業申請の件、④めぐみの事務備品等整備（事務備品、家庭用電気製品）に係る指名競争入札参加業者選定の件、⑤共同生活援助グループホームのぞみの事業申請の件、⑥定年後における役職継続による再雇用について（就業規則の一部改正の件）、⑦ハラスメント防止・対策規程等の一部改定の件、⑧育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則の改正による就業規則等の一部改正の件、（報告①）2020年度上半期事業報告、（報告②）2020年度中期決算報告、（報告③）真生園本館2階男女トイレ及び厨房床改修工事入札結果の件、（報告④）神戸愛生園入札結果（職員寮改修工事の指名競争入札業者選定）について、（報告⑤）神戸愛生園入札結果（ナースコール購入設置の指名競争入札業者選定）について、（報告⑥）第4期中期計画 第2回実現会議報告

エ) 第215回理事会（2021年1月16日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③多機能型施設めぐみの工事内容変更（追加工事）及び工事契約変更の件、④2021年度平生園大規模改修工事の設計・入札工程及び指名競争入札への変更の件、⑤神戸聖隷オアシスの事務備品整備事業に係る整備内容と入札方法の確認、指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑥あったかプラザ指定管理施設更新の件、⑦神戸聖生園せきもり従たる事業所廃止及び神戸聖生園定員変更の件、⑧専決規程の一部改定の件

オ) 第216回理事会（2021年3月19日開催）

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2020年度第2次補正予算案の件、④嘱託職員就業規則の一部改定の件、⑤役職嘱託職員（施設長・課長）の年俸について、⑥多機能型施設めぐみの補助金支払いまでの短期借入れ資金の件、⑦2021年度平生園大規

模改修工事にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑧2021年度平生園特殊浴槽更新工事にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑨2021年度平生園特殊浴槽新規設置工事にかかる指名競争入札参加業者選定ならびに予定価格決定の件、⑩真生園 天井走行リフト更新工事（北寮分）及び業者選定の件、⑪2021年度神戸市立中部在宅障害者福祉センター清掃業務委託の件、⑫ひょうご障害者地域生活支援センター相談支援システム（福祉見聞録）導入の件、⑬評議員選任・解任委員選任の件、⑭評議員候補者提案の件、⑮2021年度事業計画案の件、⑯社会福祉充実計画 2021年度事業の件、⑰2021年度予算案の件、⑱2021年度役員賠償責任保険加入の件、⑲2021年3月に満63歳に到達する施設長の嘱託施設長契約締結について、（報告①）2020年度期中監事監査の記録、（報告②）めぐみ入札結果（事務用品、家庭用電気製品）について、（報告③）神戸聖隷オアシス入札結果について、（報告④）障害者支援センター（兵庫区）、障害者地域生活支援センター（兵庫区・須磨区）事業名称変更について、（報告⑤）2020年度第4回理事の業務執行状況報告、（報告⑥）2021年度主要会議開催予定

(3) 第4期中期計画実現会議

ア) 第1回実現会議（2020年6月30日開催）

新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止し、実績報告資料共有

イ) 第2回実現会議（2020年9月30日開催）

テーマ「課長が主役」 Web開催（課長＋部長）

推進エンジンとして全課長から各5分で報告

ウ) 第3回実現会議（2020年12月23日開催）

テーマ「つながる力」 Web開催（課長＋部長、施設長はオブザーバー出席）

施設と推進部がつながることを目指して

エ) 第4回実現会議（2021年3月25日開催）

テーマ「2020年度を振り返る」 Web開催（課長＋部長）

全課長を5グループ編成し、「実践を通じて直面している悩み」「コロナ禍でもできたこんなこと」「できなかったけれど新年度には必ず達成するつもり目標」をWebで話し合っ
て発表、推進部長は課長グループの呼び出しで話し合い参加。

4. 新型コロナウイルス感染症対策本部の活動報告

(1) 当初の対応から対策本部設置まで

当法人では、2020年1月以降の新型コロナの感染増加への対応として、2009年に作成した「新型インフルエンザ対策行動計画」を基に、報道で得られる対策を取り入れながら、各施設が自主的に感染防護用品の確保を行うとともに、特に入所施設で感染予防のための備えが進みました。また時節柄、常任理事会名の職員向け「感染持ち込みブロック」文書を発出して、感染多発施設（ライブハウス等）の利用を自粛することとともに、施設・事業所の送別会開催をしないことを指示しておりました。

そして、身近な神戸市の保育園での複数保育士の感染、伊丹市の老健併設デイケア事業の集団感染での利用者死亡の報道等を受けて、2020年3月4日に開催した常任理事会で対策本部の設置を決定しました

(2) 第1回緊急事態宣言への対応

2020年3月11日にはWHOのパンデミック宣言に至り、4月7日には兵庫県にも1回目

の緊急事態宣言が発令されましたので、それを受け翌8日、県の対処方針に基づいて、通所事業の利用自粛への協力要請、短期入所受入れの制限、入所施設の機能維持を主とする法人の対応指針を发出し、あわせて各施設・事業所の工夫による在宅勤務もできることとしました。同時に、感染が疑われる者との接触が疑われる職員や紛らわしい発熱等の症状の職員を休業させた場合に休業補償を行うこととして、施設の判断で躊躇なく休業させることができるようにしました(4/17付通知通達)。その際には感染予防に関する相談や事態の経過報告用のメール用書式を制定、周知して、いつでも対策本部へ連絡、相談することができるように仕組みました。

「三つの密」の回避が喧伝され始めた4月下旬に、理事長名通知文書で労働衛生管理体制の構築を指示するとともに、4月27日には妊娠中の女性労働者や、高齢者、基礎疾患を有する職員への配慮として、上記4/17付の休業補償を受けられることを通知しました。また、6月2日の理事会で国が制定した小学校休業等対応助成金の活用による特別有休休暇(上限14日)を提案し就業規則の一部改訂を行い、子を持つ職員の活用を進めました。

(3) 次々と場面が切り替わる中での対応

5月21日の宣言解除に伴う対応として通所事業所の園外活動を一部緩和しましたが、国の「新しい生活様式」を踏まえつつ、会議の中止継続を含め、概ね宣言期間中の対応と同様の感染予防体制を続けました。感染者数の減少傾向を受けて5月26日に发出された県の対処方針を受けて、通所事業所では利用自粛のお願いを緩め、短期入所事業でも併設する入所施設への感染予防を厳格にしながらか受入れを再開するなどの当法人対応指針を发出しました。さらに6月下旬には、中止していた社会福祉士養成学校からの実習生の受入れをする基準を明確にして、通常化を図る通知を发出しました。

これらの指針の发出文書は全て、毎週木曜か金曜に定例開催する対策本部会議の協議に基づき決定してきました。その内容の決定に際しては、ご利用者やご家族の事態への適応力や、各施設で業務にあたる職員の様子を把握できてこそ可能ですが、その協議に5月下旬の第7回から加入した神戸光生園吉本施設長(理事)、その翌週から加入した神戸明生園山本施設長の現場ならではの情報や安全確保への鋭敏な感覚が、決定の判断に非常に有効でありました。

2009年の新型インフルエンザ対策のために当法人が独自に作成した行動計画は非常に先進的で、兵庫県当局からもモデルとして採用されたものでしたが、今回の新型コロナウイルスへの対応はそのまま応用ができるかというところではありませんでした。その中で、試みた対策法が感染レベル(フェーズ)に応じた施設・事業所機能の在り方をあらかじめ設定するロードマップ(事業継続計画)の作成でした。このことで先行していた神戸市内医療系福祉施設のロードマップを参照して入所施設を中心に作成を推進しましたが、作成過程では各施設での対応イメージング効果があり施設長以下の意識向上に有効でした。また、各施設・事業所が主体的に行っている防護具の備蓄状況については、対策本部としても捕捉しました。

(4) エssenシャルワークとしての福祉サービスの提供継続

8月には第2波が到来しましたが、社会福祉、介護サービスはエssenシャルワークとの言葉と共に、もはや利用自粛を依頼するといった感染予防の行動は指示されなくなり、厚生労働省から徹底した感染予防対策の実施の指示と、感染者が確認されたときの対応マニュアルが示されるようになりました。夏休みシーズンとなると自粛ムードの中でも、ご利用者家族のレジャー、職員の帰省、お墓参りなどの動きに関する相談が複数の施設長に

届き始めたので、対策本部では特に感染拡大地域への旅行の終了後の施設利用や勤務復帰へのケースバイケースの対応を行いました。このような多様な対応に関する協議でも対策本部の委員として施設長が加入していたことで情報をつかんだ協議が可能となり、都度悩みながら協議して決めた基準線がその後の取扱いの基本として活用できました。

ロードマップについては、フェーズごとに引いた感染者数や率が、現実の感染者等の変動に即さなくなる事態が簡単に生じてきたことで基準が無意味化すること、また神戸地区と但馬地区ではベースの感染者数と率に大きな違いがあって、感染者の総数が少ない但馬地区では県全体のフェーズの変化にマッチしないことなどがあり、現実には長期間活用には耐えませんでした。

(5) 発生時を視野に入れた体制整備

対策本部ではロードマップに続いて感染発生時初動チェックリストモデルを作成すべく全施設・事業所へ、感染過程の医療知識の探索、連絡エリアの特定、行政連絡網の整理、さらに感染発生時の保健所の疫学調査への協力資料としての利用者と職員の接触歴、それぞれの行動歴記録票の作成などを指示しました。ベースモデルは対策本部から示しました。それは、原案である神戸市の対策の手引きをより使いやすくすることで実用に堪えるようにとの意図で編集したのですが、その作成作業は対策本部の知識・技量向上に大きい貢献があり、また、その後の数名の関係者が感染した際の当該施設等との適切な連携が図れるなど初動に役立ちました。

PCR 検査の受検については、まず神戸市が政令市のさきがけとして、特養や障害者入所施設の希望する職員全員に対して 1 回だけ PCR 検査を受けることができる仕組みを始めたことから、現実には陽性者が判明した際の対応の難しさなどには戸惑いもある中でしたが、11 月に神戸明生園職員 20 名が受検し全員陰性でした。また神戸愛生園では 3 月に 27 名が受検して全員陰性でした。但馬地区も朝来市の検査費用助成制度を活用して、3 つの介護保険施設の職員が 3 月に受検し、平生園 31 名、わらしべ 15 名、さくらの苑 47 名が受検し、全員が陰性でした。

(6) ウイルスは避けてくれない

2 度目の緊急事態宣言下の 2021 年 2 月初旬に、神戸地区通所事業所において利用者 1 名、職員 2 名が別々に陽性であることが判明しました。幸いそれ以上の感染拡大はなく、個々に保健所と連携して宿泊施設等での療養を経て復帰することができました。

その際、対策本部では、当該施設の近隣施設との接触可能性を考慮して職員名を施設長にのみ伝えて接触の可能性がある職員に注意を促せるようにしつつ、地区内施設長、当該施設利用者家族、地区内利用者家族と、それぞれ別々に個人情報保護に配慮した広報を行うように指示しました。幸い、感染者を特定しようとする言動はなく、安堵するとともに関係者の理性に感謝した次第です。

何よりも感染が施設・事業所に侵入することを抑止したい一心で日々を送っているのですが、今後、感染拡大が市中から事業所レベル、家庭レベルに至ったときにどのような拡大抑止措置が求められ、どんな周知方法が適切であるのか、感染者の人権との関係で難しい判断が求められると思っています。

振り返りの最後に、対策本部会議は、設置以後 3 月末で 51 回を数えました。自粛疲れもささやかれる昨今ですが、一方で感染拡大の中でも責任者が陣頭に立ってたくましく施設機能を発揮している他法人も存在します。私たちもその例に学びつつ施設管理者や職員の不安に応えながら、2 月にはスーパーコンピュータ富岳の検証結果を受けて業務中は不織布マスク

を着用することを勧めたり、当初は弁別できなかった要警戒事項に関してここまでで得た知識あるいは感性を基にして、PCR検査が陰性であればよいか、あるいは14日間の健康観察が必要かの識別判断を積極的に行って施設・事業現場の便宜に供しております。

現在も、日々起きてくる感染拡大につながる可能性のあるあらゆる活動—それらは、コロナ前であれば施設機能の一部であったことが多いのですが—を収集し検討し、判断をし続けています。

5. 成年後見制度活用推進

(1) 成年後見制度活用推進委員会開催経過

支援課長を中心とした本会の存在意義を確認し、利用者及び家族の安心な生活を後押しする制度活用を継続する体制を大切にするために、コロナ禍でも2か月ごとの開催を実施しました。

第1回（書面会議）

- ・調査担当から前年度活動内容と2020年度活動内容案
- ・広報担当から2020年度の「みまもり通信」取組み案
- ・研修推進担当から神戸地区・但馬地区の研修案
- ・各事業所の取り組み状況報告

第2回（2020年7月29日 リモート開催）

- ・調査担当から、2019年度成年後見制度実績調査報告、但馬地区では高齢者事業所の制度活用実態調査を実施、神戸地区では制度の利用率10%について検証の方向
- ・広報担当からみまもり通信次号内容の報告
- ・研修・推進担当から但馬地区では権利擁護を主題の研修会、神戸地区では後見人インタビュー研修計画の予定
- ・各事業所の取り組み状況報告

第3回（2020年9月23日 リモート開催）

- ・調査担当から「法人後見」取組みについて
- ・広報担当からみまもり通信の項建て内容と掲載号の予定
- ・研修・推進担当から但馬地区11月末～12月中旬に对面型研修会計画、神戸地区後見人インタビュー研修11/27と12/3に開催（Web配信）
- ・各事業所の取り組み状況報告
- ・情報交換

第4回（2020年12月9日 リモート開催）

- ・調査担当から（神戸地区）「法人後見」について、（但馬地区）朝来市ケアマネ対象の成年後見制度活用アンケート実施
- ・広報担当からみまもり通信の記事イメージについて
- ・研修・推進担当から（但馬地区研修予定）12/17、聖泉社会福祉士事務所 高橋理恵氏講師（神戸地区研修報告）11/24・12/3 合計62名参加
- ・各事業所の取組状況報告

第5回（2021年2月26日 リモート会議）

- ・調査担当から（神戸地区）「成年後見制度の現状と課題から見た法人後見の可能性」レポート（但馬地区）①成年後見制度利用に関するニーズアンケート調査（ケアマネ）まとめ報告、②成年後見制度利用促進法に係る意見交換会（朝来市）報告
- ・広報担当からみまもり通信第22号ゲラ提出（3/1発行）

(2) 成年後見制度研修会実施

本年度も担当課長の努力で、両地区において意義深い研修が行われました。

(神戸地区) ※研修内容は2回とも同じ。内容は後述のとおり。

第1回 11月27日(金) 13:30~15:00 Web研修、動画研修 28名参加

第2回 12月3日(木) 16:00~17:30 Web研修、動画研修 34名参加

【内容】「成年後見制度について」：神戸市社会福祉協議会神戸成年後見支援センター
長 松木かおり氏、藤田育子氏 (Web研修)

「成年後見人へのインタビュー」社会福祉士 手嶋隆善氏 (動画研修)

(但馬地区)

12月17日(木) 13:30~15:30 但馬総合事務所

講師 聖泉社会福祉士事務所 高橋理恵氏による「成年後見制度の活用について」講義
と事例、グループワーク 主任・副主任、課長10名参加、理事3名参加

(3) 成年後見制度活用推進状況調査 (2021年3月末日現在)

ア) 調査主旨

今回、各事業所に調査協力していただきたい内容は、従来行ってきた「現時点での進捗状況・これまでの実績」に加え、これから必要と思われる後見人整備の規模・家族の支援(後見人の担い手)の有無を確認し、成年後見制度活用を進めるにあたり、調査内容から見えてくる将来予想を情報共有し、各事業所が備えていく機能(相談・手続きを含めた後見制度推進に必要な人材育成や人員配置など)をより具体的に検討し易くするための情報収集として行います。

各事業所において事情は違うと思いますが、上記説明にご理解をいただき、現状を踏まえながら調査・報告のほどよろしくお願いいたします。

イ) 用語の整理

「制度活用の必要性のある方」とは

① ご本人の判断能力が不十分で下記の状況にある方

・擁護者(親、兄弟、子等)或いは周囲から権利侵害を受けている

・親の判断能力が低下している、或いは高齢・病気がち等で且つ兄弟・姉妹がいない或いは疎遠

② ご本人が必要と思っておられる方

「緊急性を要す」とは

① 直ちに制度活用しなければ権利侵害に至る可能性が高い方

ウ) 調査結果

2020年3月31日の状況						2021年3月31日の状況						2020年 4月～ 2021年 3月に 後見等 が終了 した 人数	制度活 用の必 要性が ある方	特に 緊急性 を要す人
利用者 登録数	後見	保佐	補助	任意 後見	合計	利用者 登録数	後見	保佐	補助	任意 後見	合計			
2664	110	26	9	9	153	2842	117	27	9	11	163	20	129	31

2020年度末の制度利用率は全体で5.7%(対2842名)。神戸地区の相談支援事業を除く施設群での利用率は14.7%と高く、しかも入所施設(神戸愛生園、神戸明生園)での制度利用率は35.7%と非常に高い。但馬では恵生園が24.2%だが、その他の利用率は低い。

2020年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査

【神戸地区】

調査実施 2021年3月

事業所名	担当者	2020年3月31日の状況						各事業所の実態(今見えている状況)									
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2021年3月31日の状況					2020年4月～2021年3月～2021年3月～後見等が終了した人数	成年後見の必要性(職員見立て)			特記事項
								利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見		合計	制度活用 の必要性 がある方	特に 緊急性を 要する人	
1 神戸聖生園(GH含む)	岩城 州吾	67	4	0	0	0	4	67	4	0	0	0	4	0	1	0	認知症の母と二人暮らしの男性利用者。母と叔父に後見制度の説明をしたが、母からは通報は自己管理したいとの強い要望があり、話しが進んでいない。
2 せいれいやさかい	北場 恒彦	38	5	1	0	0	6	38	7	2	0	0	9	2	4	2	①親の高齢化。本人の状態に配慮が必要(T) ①親の高齢化。グループホーム利用(H)
3 神戸愛生園	山崎 浩司	48	16	2	0	4	22	49	16	2	0	4	21	1	9	1	本人の判断能力が低下した上で、身寄りの判断能力に低下が見られる方に緊急性を感じている。
4 神戸友生園	津々木謙一	44	1	0	0	0	1	42	1	1	0	0	2	0	4	1	女性62歳。言うろう者。高齢の母との二人暮らし。弟が明生園入所。今後計画相談の導入予定もあるので、その流れで成年後見も進めていければと考える。
5 神戸光生園(GH含む)	大川 博啓	100	9	1	0	0	10	111	10	1	0	0	11	2	21	8	後見終了2名(退所と死亡)、GHの入居者の後見が必要
6 神戸明生園(GH含む)	濱田 聖士	81	23	0	0	0	23	78	25	0	0	0	25	0	8	2	緊急を要する方 ・父、きょうだいなし。母高齢。理解力、判断力低下傾向。 ・ご本人が単身、高齢。
7 ワークセンターひょうご	岩本 康則	22	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	1	1	同居のきょうだい本人の行動(経済面も含め)への干渉を強めているケースがあり、本人の父とも話をしながら、今後の対応を検討している。 ※ただし、本人は就職により近日中に退所予定。
8 自立センターひょうご	佐原 義人	64	5	0	0	0	5	64	5	0	0	0	5	0	10	2	家族の高齢に伴い、必要性は高まっている。自立としても、全職員に成年後見の知識を持ち、モニタリング等で家族と話し合えるようにしていきたいと考える。
9 多機能型デイセンターひょうご	宮本裕佳子	88	4	2	1	0	7	84	5	2	1	0	8	1	6	3	・障害者同士の夫婦、世話をしてくれる方が高齢になりながらも財産管理を好意でしてくれているが、制度利用に繋げる必要性を感じている。 ・同居の母、本人それぞれ施設移行に向けて進めている。
10 インクルージョンひょうご	宮本裕佳子	21	1	0	0	0	1	20	1	0	0	0	1	0	1	1	高齢の両親の介護が困難になっている。入所移行に向けて進めているところで後見制度の必要性あり。
11 ワークセンターわかまつ	服部まゆみ	37	2	0	1	0	3	39	2	0	1	0	3	0	18	2	・必要性がある方について、ひとり親の家庭の方、片親が認知症の方、またかなりの高齢の方、兄弟、お住まいの方等がおられる。 ・緊急性の高い方について ①兄弟が金銭管理をしておられるが、本人の必要に応じて使えていない状況の方。 ②母が認知症で、入院状態であり、今後の生活の見通しが立てにくい状況で現在、後見の準備を進めている方。
		610	70	6	2	4	82	607	76	8	2	4	89	6	83	23	
12 すま障害者 地域生活支援センター	三木 卓也	602	14	7	1	1	23	698	5	7	1	2	15	9	10	1	
13 神戸聖隷総合相談センター	三木 卓也	282	4	2	1	0	7	289	18	1	1	1	21	0	16	1	
14 ひょうご障害者 地域生活支援センター	桜間 悦子	909	3	4	5	0	12	992	3	4	5	0	12	0	1	1	虐待事案としてコア会議を終ったケースの後見申し立てについて本人同意は得られているが、代理人(弁護士)より申し立て時期を再検討した方が良いと意見あり。(費用、相性、結婚等)
※支援センターは相談内容から必要と思われる数を挙げる		1793	21	13	7	1	42	1979	26	12	7	3	48	9	27	3	

【但馬地区】

事業所名	担当者	2020年3月31日の状況						各事業所の実態(今見えている状況)									
		利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2021年3月31日の状況					2020年4月～2021年3月～2021年3月～後見等が終了した人数	成年後見の必要性(職員見立て)			特記事項
								利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見		合計	制度活用 の必要性 がある方	特に 緊急性を 要する人	
15 恵生園	中島 龍太	62	9	5	0	3	17	61	7	5	0	3	15	2	13	3	死去により2名制度利用終了。 1名、親族が制度利用を希望。 家族、親族が制度利用に関してのご理解が得られにくい。
16 真生園	嵯峨山泰弘	60	6	1	0	0	7	60	5	1	0	0	6	1	3	0	・生活保護受給者で、義姉がおられるが、高齢で遠方で生活されている為、義姉確認後に市長申し立ての必要性のある利用者が1名
17 和生園(GH含む)	山根 由夫	48	0	1	0	1	2	45	0	1	0	1	2	0	2	2	<GH> ・68歳男性利用者→朝来市長申立てにより、成年後見選任手続が始まる(2021年度内には、選任が完了見込) ・56歳女性利用者→DV被害により、婦人保護施設よりGHへ入所。親族の状態が不明であり、将来を見越した任意後見制度の利用を進める必要がある。 ・68歳女性利用者→DV被害により、婦人保護施設よりGHへ入所。本人の所在を知らせているのは実兄1名のみであるが、実兄は遠方におられ、高齢のため直接的な協力を得ることは難しい。本人の後見制度の利用について、検討を行いたい。 <和生園> ・後見制度の利用を検討して頂きたい方はいらっしゃるが、緊急性を要する方は現時点ではなし。
18 平生園	奥田 勝	60	3	0	0	0	3	59	2	0	0	0	2	1	0	0	親族後見人1名、専門職(社会福祉士)1名 ※制度活用の必要性がある方、特に緊急性を要する方はおられない。
19 さくらの苑	越智 奏之	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	さくらの苑居宅介護支援事業所にて対応。
20 グループホームわらしべ	近藤 咲美	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	必要性のある方は特におられない。身元受入人は大半が50～60代の子であり、ほこんどの家族は今はまだ成年後見の必要性を感じておられないと思われる。
21 北但広域療育センター	稲津 慎也	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	
		261	19	7	0	4	29	256	15	7	0	4	26	5	19	5	

6. 出来した事案

2020 年度上期に出来した法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

- (1) 虐待が疑われる支援行為事案：なし
- (2) 利用者事故事案：なし
- (3) 利用者間トラブル：なし
- (4) 支援体制への苦情：なし
- (5) パワハラ通報事案：なし
- (6) 苦情事案；なし
- (7) 利用者金銭にかかわる事件・事案：なし
- (8) 職員との労務トラブル：1件

①神戸地区事案；有期雇用看護師が許可なく職務を離れ、勤務中に私用の電話、コピー機の使用等の不適切な行為が頻繁に見られたため注意と指導を繰り返したが、全く改善されず反省を求めたところ、反省文提出の後本人は退職届けを提出。その後、家族が介入して「職場都合」の退職の取扱いを要求してきたため拒否したところ、当人が離職理由をめぐって労働局にあっせんを申し入れた。当方は応じず。さらに3/9本人から労災申請が行われたが、これに対し法人は事業主証明拒否し、理由書を提出した。

7. 地域貢献・交流

- (1) 社会福祉充実計画地域協議会

(但馬地区) 2020年6月12日(土) さくらの苑 参加者13名

(神戸地区) 2020年6月17日(水) 神戸友生園 参加者9名

- (2) 各施設の事業計画「地域貢献の視点」の実施状況

(但馬地区)

・恵生園

- ・市民作品展「フランス刺繍」真嶋信子さん 4/3～4月末
- ・6月～アンケート調査実施(あったかプラザ)
- ・ちぎり絵展示(古段登美子さん) 7/1～7/31、10/1～11/30
- ・書道風信会展示 12/3～1月中旬
- ・真生園ご利用者作品展 1/18～
- ・竹田城グッズ販売開始 10/16～
- ・あったかプラザ運営会議, 振り返り会議の実施(4・5・6・9・10・11・12・1・2・3月)

・真生園

- ・ご希望外出(ドライブ外出・竹田地区外出)(4・5・6・7・8・9・10・11月)
- ・月1ポスター掲示・更新(4・5・6・7・8・9月)
- ・竹田外出MAP見直し(6・7・8・10・12月)
- ・HAL取材記事・新浴槽記事の機関誌掲載(9月)
- ・機関誌発行準備・発行(4・5・6・7・8・9・12・1・2・3月)
- ・Facebook原稿等検討・入稿(5・9・10・2月)

・和生園

- ・地域清掃活動実施(6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 毎週水曜日)
- ・地域の資源ごみ回収協力(車両提供と職員協力 6/28, 10/25, 3/25)

- ・地域集会所等周辺除草作業依頼（9/11、11/9、12/9）
- ・秋葉台地域の避難訓練協力(10/11)
- ・朝来市自立支援協議会発足に参画（7/15、8/13、10/9、）
- ・**平生園**
 - ・認知症サポーター養成:10/20 和田山高へ職員派遣, 3/22 朝来市役所へ職員派遣
 - ・Facebook・ホームページ更新準備:4~12月、1月
 - ・機関誌「ひなたぼっこ」作成実施:8・9・1・2月
 - ・施設内余暇活動実施:5月のみ（ボランティア活動自粛）
- ・**さくらの苑**
 - ・地域貢献学習会・総合職員研修発表準備実施(6・10/28・11・12/8, 15, 18)
 - ・地域サポート施設事例発表会（Web発表会 4名参加 9/18, 10/14）
 - ・「地域マップ」作り学習会の実施（4・5・6・7月・10/14・12・1・2月）
 - ・「さくら新聞」作成・配布:10・12月
 - ・機関誌「ひなたぼっこ」作成実施:8・9・1・2月
 - ・「地域サポート施設認定証とステッカー」受理、職員へ周知、機関誌へ掲載連絡
 - ・米屋町老人会へ25名分のマスク配布(5月)
- ・**わらしべ**
 - ・地域交流活動・地域ボランティアの受入れは感染小康期まで中止
 - ・ホームページ・facebook更新（4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2月）
 - ・機関誌「ひなたぼっこ」作成実施:8・9・1・2月
- ・**北但広域療育センター**
 - ・教師対象研修（オンライン）準備（8月12日実施）
 - ・支援者対象ASD講座開催(8/8・10/2・11/6・12/4・1/8・2/5実施)
 - ・保護者向けASD講座開催(11/5, 26・12/10, 26, 1/14・2/18実施)
 - ・1市2町福祉計画策定会議等出席:10・11・12・1・2月)
 - ・法人ホームページでセンター情報発信実施(10~3月)
 - ・らみい保護者会にて情報収集実施
- ・**エスポワールこじか**
 - ・園校訪問, 参観実施:6/25・7/2, 15, 16, 22・8/24・9/23・10/15
 - ・2市1町の自立支援協議会参画:5/22・6/10・7/15・8/12・9/9, 29・10/9, 14・11/11, 13, 18・12/9・12/6, 9, 14・1/22, 2/26・3/9, 10, 25, 26
 - ・オープン療育実施:10/30
 - ・パンフレット更新:9月完成、10・11月で関係者へ配布
 - ・こじか便り毎月発行:各月(次月の)「こじか便り」を発行
 - ・ホームページ活用:各月(次月の)「こじか便り」をアップ
- ・**神戸聖生園**
 - ・太極拳、ことぶき喫茶交流は自粛（4~3月）
 - ・ボランティア登録者へクリスマスカード送付（12月）
 - ・ゴミステーション清掃作業実施（4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月）
 - ・地域貢献検討会議・神戸聖隷オアシス工事協力（7・8・9・10・11・12・1月）
- ・**神戸愛生園**
 - ・地域行事への参加:5月地域の年間行事確認

- ・福祉避難所としての環境整備実施（4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 1, 2, 3月）
- ・夜間想定避難運連延期（8月A棟住民の参加自粛）
- ・広報活動充実（Facebook更新7・8・9・10・11・12・1・2・3月, 機関誌発行6・11月, Instagram投稿10, 11, 1月）
- ・**すま障害者地域生活支援センター**
 - ・制度の狭間にある生き辛さを抱えた方への対応、事例共有（4, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 2, 3月）
 - ・須磨区自立支援協議会の運営（全体会・運営委員会開催5, 6, 7, 11, 3月）
 - ・就労支援部会活動（定期部会開催7, 8, 9, 10, 11, 1, 2, 3月）
 - ・すまいんど部会活動（定期部会開催7, 8, 9, 10, 11, 12, 月、区民児協に自主製品 冬のギフトPRチラシ作成9月）
 - ・まなぼ一部会活動（定期部会開催8, 9, 1, 3月）
 - ・ともいき部会活動（定期部会, 研修会開催5, 6, 8, 10, 12, 3月）
 - ・親子部会活動（定期部会開催7, 8, 11, 12, 3, 12, 月 サポートブック「すまっこナビ」説明会準備と実施9, 10月）
 - ・相談支援部会（定期部会開催5, 6, 8, 12, 2, 3月、3区（兵庫, 長田, 須磨）合同部会議開催9月）
 - ・ピアカウンセリング（発達気になる子を持つ保護者向けグループピアカウンセリング）の実施（6, 7, 9, 11, 2, 3月）
 - ・ほっとかへんネットすま活動（役員会, 実務者会, コア実務者会出席7, 8, 9, 11, 3月）
- ・**神戸聖隷総合相談センター**
 - ・神戸聖隷オアシス事業に係る地域のよろず相談に対応（合同打合せ出席5~3月）
 - ・成年後見制度推進員会研修担当打合せ出席（5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月）
 - ・成年後見「本人情報シート」作成支援実施7, 8月
 - ・研修会に係る成年後見人（社会福祉士）へのインタビュー実施9月
- ・**神戸友生園**
 - ・地域支援学校との連携強化（播磨・青陽須磨支援学校との意見交換実施8・9・11・1月）
 - ・地域関係機関との協力体制構築（生保利用者支援について意見交換7・8月）
 - ・地域医療系専門学校との連携（主任教諭と意見交換実施7月）
 - ・地元自治会・各種団体イベントへの参加（参加可能なイベントには申請実施7・11月）
 - ・須磨区自立支援協議会「すまるしえ（作品販売会）・部会」（7・9・11・12・1・2月）
- ・**神戸光生園**
 - ・ミニバザー見直し検討準備・実施（4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2月）
 - ・防災イベント準備と実施（担当会実施, 企画書作成4・5・6・7・8・9・10・11月）
 - ・福祉避難所機能充実（マニュアル作成と訓練実施4・5・6・7・8・9・10・11月）
- ・**神戸明生園**
 - ・しあわせの村医療福祉部会との連携強化（部会出席6・10・11月）
 - ・短期入所稼働率維持：4, 5月緊急枠以外自粛, 6月段階的受入れ実施、6~11月受入れ範囲拡大 12月縮小傾向 1~3発熱者対応・リスク考慮の未達
- ・**ワークセンターひょうご・神戸市障害者就労推進センター・神戸障害者就業・生活支援センター・障害者雇用就業・定着拡大推進事業**
 - ・地域清掃活動（10~3月センター周辺のごみ拾い清掃実施）
 - ・中部ネットワーク会議・研修会の実施（年間計画策定6月、9・10・11・12・1月実施）

- ・地域の支援者支援(6者会開催:オンライン会議等 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月)
- ・就業支援基礎研修(6・7月準備,8・9月基礎研修5回開催,2月振返りとまとめ)
- ・ひょうご障害者地域生活支援センター・神戸市基幹相談支援センター・発達障害者中部相談窓口
 - ・身体知的相談員連絡会の開催(報告書回収7月 連絡会実施 12・3月)
 - ・ほっとかへんネットへの参画(役員会,実務者会,研修会出席 5・9・10・2月)
 - ・「こうべ医療者応援ファンド」に寄付依頼の案内あり
 - ・災害時基幹福祉避難所開設訓練を近隣特養と協働準備と実施(8・9・10・11月)
- ・ひょうごダイサービスセンター
 - ・地域へのアピールとニーズ把握:3中学からトライやるウィーク・ワークキャンプ申込 6月・須佐野中学職業インタビュー5名来所 11月・次年度ワークキャンプ受入連絡 1・2・3月,兵庫大開小交流プログラム企画準備 7・12月
- ・自立センターひょうご
 - ・よつば寄席と共に行うイベントについて検討継続 1・2・3月
 - ・神戸マツダ共同地域清掃の実施(年間計画作成 4月、コロナ対策の為清掃中止 5月、ポスター作製 6月,雨天清掃中止・神戸マツダから企業名入りビブス作製連絡 6月,神戸マツダからビブス贈呈 7月,猛暑月作業中止 7・8月,よつば寄席パネル用写真撮影 8月,地域清掃実施 9・10・11・12・3月,神戸マツダへ感謝企画と実施 1・2・3月
- ・ワークセンターわかまつ
 - ・大正筋商店街イベントに積極的に参加(まつぼっくり臨時休業 4月,営業再開 5月,長田育児アプリのショップニュースに新商品・夏メニュー掲載・商店街HP記事更新 6月,縁日・2階販売中止,臨時総会(大正筋)出席 7月,こうべ商店街・小売市場お買物券(10月~)の店舗登録及びPR活動実施 9・10月,イベント販売等中止 1月
 - ・イベントの企画・開催(商店街のイベントの歴史とHP確認 5月,長田区ボラセン連絡 6月,認知症サポーター研修参加 8月,認知症カフェ見学情報収集[2か所],認知症カフェ登録実施日確定等準備 11・12・2月)
 - ・HPの定期更新(HP,FBの投稿画像再チェック実施、定期更新については未整備 8月,Facebook原稿準備・投稿依頼 8・9・11・12月)
- ・せいれいやさかだい
 - ・芝生広場除草作業・ゴミステーション清掃・北須磨団地バスステーション清掃実施(5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月)
 - ・地域コミュニティ活用(年度中新型コロナウイルス対策の為自粛・次亜水提供の継続 6月~・感染予防対策を行い少人数で喫茶等参加 11・12月)
 - ・地域高齢者のニーズ収集(民生委員紹介いただく 5月,民生委員定例会議出席 6月,地域住民2名に聞き取り・地域掲示板活用 7・9・10月)
 - ・北須磨団地自治会道路のごみ拾い、林タオル事業所周辺の清掃実施(4・5・6・7・8・9・10・11・12・1月)

8. 広報他

(1) 洗足発行

ア) 第25号(2020年9月18日)

- ①巻頭言、②金附顧問を偲んで、③with コロナと神戸聖隷、④職員紹介、⑤社会福祉充

実計画、⑥ひがみ常務のエッセイ、⑦事業報告、⑧決算報告、⑨竹内牧師メッセージ「あなたがた（わたしたち）の間に」

イ) 第26号（2020年12月18日）

①巻頭言、②神戸愛生園看取り前支援の取り組み、③第4期中期計画の体制と展望、④勤怠管理システムとWEB真生園機能追加、⑤WLBの取り組み、⑥友が丘総合事業の進捗と高層、⑦常務のぼやき、⑧竹内牧師メッセージ（2020年12月18日）

ウ) 第27号（2021年3月19日）

①巻頭言、②金附洋一郎さんを偲ぶ会お礼とご報告、③特集01「全人的存在として活かされる」成年後見制度の活用を通じて将来へ向き合う、④常務のぼやき、⑤竹内牧師メッセージ「問のなかにとどまる～Dignity of riskをめぐって～」

(2) FacebookとInstagramによる各施設と各部会の情報発信

「自宅でできるリフレッシュ方法」や「施設・事業所の自慢（アピール）」を中心に、両SNSで合わせて160回の投稿を実施。登録者数462人。

以上

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標① 創業50年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

理念理解定着推進部担当

水野 雄二

2020年度は第3期中期計画を継承した上で、新しい試みを加えた第4期中期計画の初年度としての歩みを始めました。キリスト教に基づく基本理念について、分かりやすさ、親しみやすさを求め、基本理念の唱和、年間聖句の掲示などと共に、2019年度に改訂した「神戸聖隷ハンドブック」第2版を各施設において活用していただきました。また、法人マスコットキャラクターのデザイン展開を進め、今後の活用に向けて進めることができました。年2回発刊を目標としている職員報を継続発刊して、各施設のコロナ対策の取組を紹介し、コロナ禍にあっても法人で働く一体感の醸成に寄与することができました。

また、関係する多くの方々に基本理念に触れていただく機会を増やそうと計画しましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大に伴い、計画していました他法人での理念研修やタイ・チェンマイでの海外研修は中止をせざるをえなくなりました。しかしながら、各施設における理念研修やキリスト教福祉基礎研修については感染対策を施した上、対面形式で実施することができました。

2020年度は創業45年を迎え、来る2025年度の創業50年を念頭に、歴史資料の収集に努めました。創業に関わった先人のインタビュー収集、また職員やご利用者から支援活動を通して心に残ったマイストーリーのインタビュー収集は、年度内で13件実施することができました。この成果を通して、法人理念に触れ、また考える機会とすると共に、今後は職員への研修ツールとしての活用も図ろうと記録をまとめる作業を継続します。その中で語られるストーリーの根底に法人理念への豊かなコミットメントがあると確信しています。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、これからも法人全体として理念浸透に向けてアプローチを続けていきます。

1. 推進状況

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
分かりやすさ、親しみやすさを求め、日常化を推進	基本理念の掲示、唱和推奨	①全施設での掲示、唱和	ア) 全施設での掲示、唱和	◎
	年間聖句の掲示	①全施設での掲示	ア) 全施設での掲示	◎
	法人マスコットキャラクターの活用	①活用パターンの周知	ア) 活用パターンの周知に至らず イ) パターンデザイン化は一部完成	△
研修や集会でのツール作成	神戸聖隷ハンドブック活用	①第2版の活用促進	ア) 第2版の活用促進	○
幅広い関係者を対象とした理念表出	理念講演会の開催	①講演会の準備（2021年度実施予定）	ア) 講演会の準備（2021年度実施予定）	△
初級職員や臨時職員を念頭に置いた研修	各施設での理念研修協力	①3~5施設で実施	ア) 6施設で実施	◎
	キリスト教福祉基礎研修実施	①但馬、神戸で実施	ア) 但馬、神戸で実施	◎
キリスト教主義の他法人理念研修【社会福祉充実計画4】	他法人理念研修の開催	①神戸（6月）、浜松（1月）に実施	ア) 神戸（6月）、浜松（1月）に実施予定を中止決定	×
海外での理念研修【社会福祉充実計画3】	タイでの海外研修の開催	①タイ・チェンマイで実施（11月）	ア) タイ・チェンマイで実施（11月）予定を中止決定 イ) 今後の海外研修で使用するDVD作成に向けて準備開始	×
職員報の継続発行	職員報作成継続とデータ保存・活用化	①年2回の発行（8月、3月）	ア) 8月に第6号を発行、3月に第7号を発行（4月にずれ）	○
創業50年を念頭に置いた史料収集	創業者インタビューの保存		ア) 11組の収集	◎
	神戸聖隷My story収集		ア) My story募集案内及び収集の開始（インタビュー）2組の収集	○
海外研修将来検討	新規海外研修の研究		ア) アメリカ・サンフランシスコの団体に打診開始	△

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

職員育成推進部担当

有川 洋司

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により計画内容の多くについて見直しを余儀なくされました。特に上半期は社会全体が混乱する状況のなか大学構内への立ち入りも制限され、新卒採用にむけたキャリアセンターへの訪問が出来ないなか電話やインターネット等による情報収集に努めました。秋以降、訪問の受け入れが可能になり但馬地区出身者の確保を想定し、京都方面を中心にこれまで繋がりのあった学校はもとより繋がりのなかった学校などの新規開拓も含め積極的に訪問に取り組みました。採用の選考方法もオンラインによる面接に変更し、それに伴う課題の事前提出やWEBによる適性検査の実施など新たな体制の整備を行いました。しかし応募者の確保に苦戦し、選考日程を追加しましたが最終的に4名の高卒者を含め8名の採用にとどまり予定人数には届きませんでした。

内部研修についても従来のような対面型の集合研修の実施は困難なため、全てWEBで実施することに変更しました。当初は設定のための準備や調整および講師との実施方法等の打ち合わせに大変時間を要しましたが、次第に講師、参加者ともに慣れてきて1月より有償版のコンテンツを活用することで時間の制約がなくなり、グループワークも出来るようになるなどスムーズな運営が可能となりました。事業所ごとで設備や環境の差によって受講状況に影響がでるなどのデメリットもありましたが、研修のため移動の負担が減り、参加しやすくなったというメリットもあり、次年度にむけてさらに発展の可能性を感じました。

1. 推進状況

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
学生・就活者と現場で出会う機会の整備・充実	①各施設の現場実習受入れ体制確立と確認 受入体制の分かる一覧表の作成（6月） ②実習指導者（担当者）法人内連絡会の開催 （仮）実習指導者等連絡会の立上げ検討（6月） ③大学・各種学校訪問の充実 担当者の確定と訪問計画の作成 ④大学・各種学校の担当教員との繋がり強化 担当者の確定と関係強化と関係開拓実施	① ア)未作成 ② ア)未実施 ③ ア)6月末頃までは全ての大学が感染防止対策により学生含めて構内への立ち入りを禁止。7月以降、訪問可能となった大学から順次訪問を開始し35校訪問。 ④ ア)法人及び担当者と個人的に繋がりのある教員との連絡を継続	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人を知ってもらう機会の整備・充実	<p>①Web 求職サイトの活用 担当者の確定と役割分担</p> <p>②各種就職フェアへの出展 担当者と出展計画の策定 出展申請から出展準備、出展</p> <p>③学生・求職者の見学説明会の実施 担当者の確定と見学申し込みの受付、説明会の準備、開催</p> <p>④各事業所の仕事紹介イメージ動画作成 担当者の確定と就職フェアや説明会、実習等で活用を考 えて作成する</p>	<p>① ア) 昨年同様、マイナビ・キャリアタス UC を活用。22 採用に向けリクナビを追加</p> <p>② ア) 豊岡市主催「兵庫県北部オンライン企業説明会」に参加 (5, 11 月) イ) 兵庫県社会福祉協議会主催「福祉の就職説明会 in HYOGO」に出展 (8, 10 月) ウ) 但馬県民局主催「大学キャリアセンター担当者等との意見交換会」(11 月)</p> <p>③ ア) 但馬地区 3 名、神戸地区 20 名見学対応</p> <p>④ ア) 友が丘 3 施設で 5 分程度の PR 動画を作成</p>	○
採用試験エントリーに繋がる仕組み作り	<p>①採用試験受験エントリーページの作成と活用 法人ホームページ内に採用試験受験エントリーページを作成。エントリーが楽に行えるように工夫</p> <p>②選ばれる募集要項の作成 採用試験実施に関する変更点の要項への反映、試験日の増設と選考結果から募集人員の変更を即連動の実施</p> <p>③オリジナル就活応援グッズの作成 就職フェアや説明会等での活用の為、書類を挟み込む「オリジナルクリアファイル」の作成</p>	<p>① ア) ホームページ内でのエントリーシート作成は未実施。紙ベースでの応募を継続</p> <p>② ア) 選考日程を追加。当面、オンラインでの選考とし、選考日前の課題提出及び WEB による適性検査と面接に変更。上記変更事項について募集要項に記載しホームページ上にアップ。年間 24 回設定し 5 回実施</p> <p>③ ア) 未実施。グッズの作成については取り下げ</p>	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人内部研修の充実	<p>①既存各内部研修のブラッシュアップと報告・共有 研修毎にまとめ報告の作成</p> <p>②既存の法人内部研修に新研修の取入れ 一般職員研修として「安全運転と安全運転管理」の研修会 を組んで実施 前半期に研修組みをして後半期に実施</p> <p>③研修コンサルタント会社の研修の取入れ 施設長研修又は一般職リーダー育成研修を年間3回のシリーズ研修を基本スタイルとして組上げ（5月）</p> <p>④各研修に理念研修プログラムの取入れ 各研修のプログラムに取入れ継続</p> <p>⑤各研修の理念定着部会との協働実施 研修組立や研修事務局担当を含めた協働体制実施</p> <p>⑥自主研修参加助成の継続 社会福祉充実計画の継続実施</p> <p>⑦神戸常盤大学との協働 研修講師やリード役、総合職員研修審査員等の提案 同学の先生に依頼予定</p>	<p>① ア)未実施</p> <p>② ア)内部研修について集合研修の実施は困難であるため全て WEB による研修に変更。総合職員研修も午前・午後の2部制にしてWEBで実施。入団前研修についても同じくWEBでの実施。</p> <p>③ ア)上記を踏まえ、今年度は新規研修を行わず既存研修も階層別研修のみを実施。</p> <p>④ ア)プログラムとしての枠取りはせず、各研修の冒頭に実施する開会礼拝および理事長のメッセージにて理念理解に繋げる</p> <p>⑤ ア)未実施</p> <p>⑥ ア)①について8名、②について6名 助成実施</p> <p>⑦ ア)未実施</p>	○
各研修への参加し易さの追求	<p>①研修実施場所の検証 新規研修会場の提案</p> <p>②各研修年間計画の共有 内部研修一覧表の完成と共有</p> <p>③研修実施方法の新提案 参加しやすい研修実施方法の提案</p>	<p>①～③ ア)全研修をWEBで実施。基本的に各職場での参加となり、移動時間がなくなったことなども含め参加はしやすくなった。1月以降、Zoomの有料版を活用することで実施方法等が改善できた。環境整備について事業所ごとに違いがあり、課題あり</p>	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
Live On システムの活用	①会議等の活用推進 Live on システムの継続活用と検証 ②周辺機器の充実 拠点メインノート PC の購入と設定 (9 月) ③利用範囲の拡大 但馬・神戸で 2 拠点増設 (9 月)	① ア)従来通りの Live On のシステム活用と Live On の機器と Teams などの新たなツールを組み合わせた WEB 会議の併用 ② ア)但馬、神戸の各拠点に 1 台ずつ専用の PC を購入 ③ ア)未実施。Teams や Zoom など WEB システムの活用の幅が広がったことで次年度は Live On については解約	○

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標③ すべての人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を目指します

QOL 推進部担当

種谷 啓太

QOL 推進部は第4期中期計画の目標として3項目の実行計画を推進しています。その目標は各施設がサービス提供の自己評価をおこない支援・介護の改善が出来ること。そして評価結果を通して利用者のQOL向上のためのサービス提供技術や寄り添える気持力アップすることを目指しています。

当該年度は訪問や学習会などがおこなえず、推進部として支援や介護の場面と現場を共有することがなかなか出来ませんでした。

しかしながら第3期中期計画から実施しています虐待防止チェックリスト、虐待防止基準表・判定表の運用、満足度調査の継続実施、介護支援現場に即したマニュアル整備、接遇力アップへの取り組みを通して、職員が現状の不安や制限に対し工夫や企画力、また配慮する事で、利用者の方への高いレベルでのQOLが維持できていたと感じます。

2020年度進捗報告をいたします。

- ①「サービスの評価」につきまして、真生園、和生園が第三者評価を「はりま総合福祉評価センター」で受審しWAM ネットに公表されています。受審予定の神戸光生園はコロナ禍のため来年度に受審が延期されています。これまで出来ていなかった受審後のアプローチとして評価達成度集計表シートを作成し、第三者評価結果を次のステップに活かす取り組みをおこないました。

満足度調査においては共通項目を設定し実施しました。これまでの3年間の調査方法結果について来年度にまとめる予定です。各施設マニュアル18項目につきましては、10月に配置できました。

- ②「虐待防止への取り組み」は、年2回の虐待防止チェックリストの実施をおこないました。下期実施分より評価対策シートの記入を通し、課題点に気づけるように依頼しました。虐待防止基準表・判定表は各施設独自に実施し、事例に基づき不適切ケアや虐待行為、言動への気づきを学習しました。また全施設より判定結果の提出を受け、推進部より結果に対する所見回答をおこなっています。

- ③「高齢化への取り組み」は神戸地区通所利用者の高齢化率（障害区分・年齢分布）の調査をおこない検討材料としています。

事故ヒヤリハットへのアプローチにつきましては記録システム機能の活用のため経営強化推進部との協議、全施設への事故ヒヤリハット調査を実施しています。

1. 2020 年度推進状況 (QOL 推進部)

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
サービスの評価 (自己チェック体制の確立)	①真生園、和生園、神戸光生園第三者評価受審 ②満足度調査実施 1 接遇について 2 支援内容について 3 環境について 4 食事について 5 情報交換、説明について ③自己チェックリスト検討 ④標準マニュアルより各施設マニュアル完成 ⑤接遇ハンドブック年 4 回のキャンペーン実施	① ア) 真生園、和生園受審結果は WAM ネットに掲載済 神戸光生園の受審は来年度 4 月 (コロナのため) イ) 受審結果につき自己評価のため評価達成度集計表シート記入依頼 ② ア) 3 年目の調査実施済 3 年間の集計結果報告を予定 現状調査の評価を予定 ③ ア) 検討中 ④ ア) 10 月に 18 項目各施設マニュアル完成し配置 ⑤ ア) キャンペーンテーマ「健康管理」(7 月)「話し方」(9 月)「with コロナ」(12 月)「接遇の振り返り」(3 月) 実施	◎
虐待防止への取り組み	①年 2 回の虐待防止チェックリスト実施 ②虐待防止基準表・判定表に基づく事例学習会の実施	① ア) 年 2 回実施 イ) 下期実施分より各施設に評価・対策シート記入を依頼、回収 ② ア) 全施設で事例検討会実施し判定表回収。総合所見、コメントを推進部より返信	○
高齢化への取り組み	①利用者高齢化率等の状況確認と対応につき検討 ②法人内ヒヤリハット報告、事故報告の集約	① ア) 神戸地区通所型での高齢化率 (年齢分布) 調査実施 ② ア) 経営強化推進部と記録システム機能での事故報告活用につき協議 (7 月) イ) 全施設に事故ヒヤリハット調査実施	○

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

経営強化推進部担当

西山 充

新型コロナウイルス感染拡大による4月、1月の二度にわたる緊急事態宣言の影響を受け、特に通所・短期入所ご利用者の受け入れ見合わせや利用自粛などにより、利用延人数は対目標値-3.8% (▲12,709人)、給付費収入も同-3.1% (▲88,690千円)と大きく下回りました。2021年度も引き続き厳しい状況が見込まれますが、感染予防対策を徹底した上でのご利用者受け入れによる利用率アップが大きな課題となります。

このような状況の中、現在2ルート運行している神戸地区の送迎サービスのルート追加計画を見合わせざるを得ず、2021年度に改めて検討することとしました。

支援記録システム機能の更なる活用を図るため、電子印鑑機能は真生園を、食事・入浴・排泄等の統計機能は平生園をモデル施設に選定し取り組みました。システム導入施設を対象に報告会を開催し、それぞれの活用状況の共有と機能習得に努めました。

決裁期間の短縮と業務の効率化を図るため、決裁を電子化する2つの取り組みを進めました。一つは稟議書の決裁、もう一つはエクセル形式で作成したご利用者のケース記録の決裁です。稟議書の決裁については、人事・労務・危機管理推進部と連携して取り組み、(株)ネオジャパンのワークフローシステム「desknet's NEO」を導入しました。2020年度決算事務終了後の稼働に向け準備を進めています。

ケース記録の電子印鑑決裁については、和生園と神戸友生園をモデル施設に選定し取り組みました。大変順調に進捗しており、ペーパーレス化も含めた本格稼働を目指しています。2021年度は両施設の実践事例をモデルに、他の通所施設にも積極的に推進していきます。

1. 推進状況

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
各事業の年度目標値達成に向けた働きかけ	各事業の目標値(利用延人数・給付費収入)に対する月次実績チェック	①利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成状況を把握 ②各施設(事業)に目標値達成状況をフィードバック	①②共通 ア)全拠点・事業の目標値達成月次チェックを実施(毎月) イ)目標値達成状況にコメントをつけフィードバック(毎月) ウ)新型コロナウイルスによる利用自粛等給付費収入への影響額を把握しフィードバック(毎月) エ)2020年度中間決算ヒアリングシート提案・配信(9月) オ)2021年度予算ヒアリングシート提案・配信(11月) カ)2021年度目標値(利用人数・給付費収入)入力シート配信(3月)	◎

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
各事業の 年度目標 値達成に 向けた働 きかけ	ヒアリング シートの 配信、ヒア リングに よる改善 策の共有 と提案	①実績が思わしく ない施設（事 業）を把握 ②ヒアリングシー ト配信等によ り、目標値未達 原因の把握と 改善策の共有・ 提案実施	①②共通 ア) 新型コロナウイルスによる影響 が大きく、第1四半期実績による ヒアリングは実施せず イ) 全拠点の過去5年（2015～2019 年度）の経営指標に基づくレポー トを作成し配信（5月） ウ) 全拠点・事業の利用延人数・給付 費収入推移（2016～2019年度） を作成し配信（7月） エ) 理事による経営強化ヒアリング を実施し課題・対策を共有 （8月：5施設） オ) グループホームわらしべ要望の 「収支の理解」について、2018年 度決算書を基に同業者の全国平 均値との比較レポートを作成し 共有、経営改善策を提案（1月）	○
	各種加算の 算定要件 のチェッ ク	①各事業所が取得 している加算算 定要件の確認	ア) 2020年度基本報酬単位・加算算 定要件の確認調査を実施し、各施 設での加算算定要件の継続した チェックを依頼（4月） イ) 内部監査Bチームにて加算算定 要件確認（10月：4施設）	◎
	※神戸地区 で独自の送 迎サービス の実施 【社会福祉 充実計画 12】	①送迎車両の追加 購入 ②ルート追加によ る3ルート運行 実施	① ア) 新型コロナウイルス感染拡大防 止のため、当面の間、新規ルート の追加について見合わせることを 確認（5月） ② ア) 上記により未着手 イ) 2021年度に関係施設で再検討す ることを確認（1月）	×
計画的な積 立金の計上	予算ヒアリ ングにて目 標額を計 上、中間決 算ヒアリン グにて見込 額確認	①積立目標金額 1.3億円	ア) 当初予算の積立金計上額 1.3億円 イ) 3月最終補正積立見込額 1.8億円	◎

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
ロボット等 先進福祉機 器整備、 AI・ICT化 の推進 ※先進福祉 機器の整備 【社会福祉 充実計画 No10】	各事業所の ニーズ調 査	①分からない・詳 しく知りたい情 報・活用法等に ついて調査・集 約 ②各事業所におけ る福祉先進機 器、AI・ICTの活 用構想（イメー ジ）・アイディア の確認と共有	① ア) ニーズ調査について、新型コロナ ウイルスによる影響が落ち着いた 時点で行うことを確認（6月） イ) ロボット等先進福祉機器整備に 向けたアンケート調査実施 （10月） ② ア) 上記アンケート調査結果を配信 し、各事業所の福祉先進機器、AI・ ICT活用構想を共有（12月）	○
	情報収集と 提供	①展示会等に参加 し情報収集・発 信 ②先進福祉機器等 導入施設の見 学 ③各事業所のニー ズ調査に基づき 情報提供	① ア) 新型コロナウイルスの影響によ る展示会等自粛により未着手 ② ア) 同上 ③ ア) オンラインイベント「福祉機器 web2020」に関する情報提供実施 （10月） イ) 介護ロボットひょうご KOBE フォ ーラム「兵庫県の介護ロボット導 入支援の取組」に関する資料を全 施設に配信（2月）	△
	具体的な 導入への 提案とサ ポート	①導入希望施設に 導入に向けた提 案とサポート	ア) 業者と価格交渉を行い、神戸地区 は眠りスキャン同一単価で整備 決定（6月） イ) 神戸地区（神戸愛生園・神戸明生 園）、神戸市へ「ロボット等導入 支援事業」補助金（補助率 10/10） 申請（6月）、採択内示（1月）、 神戸愛生園 8 台、神戸明生園 3 台 整備完了（3月） ウ) 真生園眠りスキャン 2 台整備完 了（7月） エ) 2021 年度介護用ロボット等の整 備に関する調査実施（1月）	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
記録システム機能の活用	記録システム活用推進学習会の開催	①記録システム整備施設の機能活用状況を把握 ②ND ソフトウェアによる学習会の開催 ③学習会開催後の効果を検証	① ア) 記録システム整備施設の機能活用状況調査等を実施 (6月) イ) 機能活用に関する ND ソフトウェアからの回答を配信 (7月) ② ア) 記録システム個別学習会 (web) 実施 (8月:平生園・さくらの苑・神戸明生園、9月:恵生園・真生園・神戸愛生園・神戸光生園、10月:わらしべ) 学習会実施後の報告書 (意見・要望・気づいた点等) 配信 (11月) イ) 2021 年度記録システム個別学習会に関する打合せ実施 (2月) ③ ア) 未実施	○
※記録システムの運用拡大 【社会福祉充実計画 No13】	モデル施設での実践と共有	①システム機能活用モデル施設の選定と実践 ②機能活用状況の共有 (報告会実施)	① ア) 恵生園クライアント 1 台追加 (6月) イ) 記録システム整備施設の機能活用状況調査等を実施 (6月) ウ) QOL 推進部と合同会議を開催し、統計処理機能を共有 (6月・7月) エ) 記録システム機能活用のモデル施設を決定 (7月) ・介護保険施設 (NEXT) 平生園 「食事・入浴・排泄等に関する統計機能の活用」 ・障害者施設 (more) 真生園 「電子印鑑機能の活用」 オ) モデル施設に依頼・実践 (8月) ② ア) 支援記録システム機能活用状況等報告会実施し、モデル施設の真生園・平生園より実践報告・共有 (web 開催:システム整備 8 施設より 17 名参加) (1月) イ) 2021 年度支援記録システム整備に関する調査実施 (1月)	◎

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
各種様式等の見直し	出張報告書・旅費精算書等の届出様式の見直し	①各種届出様式の見直しに向けた調査実施 ②出張報告書・旅費精算書の改訂案を提案	① ア)出張報告書・旅費精算等についての現状調査実施(11月) ② ア)未着手	△
	稟議書や理事長印捺印依頼書等の電子印鑑決裁の導入	①電子印鑑決裁システムに関する各メーカーの情報収集実施 ②電子印鑑決裁導入に向けた法人本部との意見交換実施、導入案を検討	① ア)㈱コラボスタイルより「コラボフロー」の説明会実施(6月) イ)富士ゼロックス㈱より「ドキュワークス」の説明会実施(7月) ウ)㈱ネオジャパンより「desknet's NEO」の説明会実施(10月) エ)常任理事会に㈱ネオジャパンの決裁システム「desknet's NEO」を提案・承認(12月) オ)3社見積合せの結果「desknet's NEO」購入先をリコージャパン㈱に決定(1月) カ)稟議書決裁フォーム検討(2月) キ)ケース記録等サービス提供記録の電子印鑑決裁・ペーパーレス化について兵庫県(豊岡健康福祉事務所)・神戸市に確認、双方よりいずれも可との回答あり(8月) ク)常任理事会にケース記録等利用者処遇に関する各種帳票の電子印鑑決裁、ペーパーレス化の推進について提案・承認、全体施設長会にて説明(11月) ケ)エクセル帳票の電子印鑑決裁、ペーパーレス化に関するモデル施設(和生園・神戸友生園)を選定し、打ち合わせ実施(1月) コ)モデル施設(和生園・神戸友生園)にて、エクセルで作成したケース記録の電子印鑑決裁開始(2月) ② ア)実行管理会議にて報告・検討	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
会議システム（準備・開催・記録）の見直し	会議資料・記録作成の効率化	①法人内各会議における資料・記録作成等に関する現状把握 ②効率化の可否、効率化に向けた対策を検討	①②共通 ア)複数の「ワークフロー」システムを検討し、情報を共有することを確認（6月） イ)上記ワークフローシステムの提案により引き続き他社も含めた検討を継続 ウ)神戸地区施設長・所長連絡会で Teams を経由した OneNote 活用により、資料・記録のペーパーレス・効率化を試行（6月） エ)但馬地区施設連絡会で Teams を経由した OneNote 活用により、議題収集・レジメ・議事録作成等、資料・記録のペーパーレス・効率化を試行（2月）	○
	ペーパーレス会議の実施	①ペーパーレス会議システムに関する各メーカーの情報収集実施、導入案を検討 ②法人内各会議へのシステム導入に向けた調整実施	①②共通 ア)同上	○

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標⑤ 誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる

地域貢献推進部担当

加藤成久

2020年度は部会の構成メンバーが部長の交代も含めて大きく変わる中、計画内容の確認や共有機会を経て、第3期中期計画で具体的な取り組みに至らなかった課題をそれぞれ継承しながら、中期事業目標である「誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる」を目指した第4期中期計画の1か年度目をスタートしました。

前年度末から新型コロナウイルス防止対策の為、地域に係る行事やイベント、ボランティアの受入等が全て自粛や中止となり計画の第一歩すら踏み出せない状況になりました。上半期を過ぎるころには少し先が見える状況になるかと思われましたが、新型コロナウイルスの波は重ねてやってきてそれぞれの地域の人々の生活を大きく変え、年度末に至っています。各施設・事業所では、これまで経験したことのない状況下でできる限りの利用者支援サービスの提供が行われました。

このようなコロナ禍の中、但馬地区では放課後デイ・グループホームめぐみ、神戸地区ではグループホームのぞみの神戸聖隷オアシスがほぼ計画通りに竣工し、各地区の地域とつながる新拠点としてそれぞれの事業が開始されていきます。部会としてもしっかりと協力するとともに地域への拡がりにつなげていきます。

これまで地域のみんが“あたりまえ”のようにできていた、感じていたことが、できなくなった、“あたりまえ”でなくなったと部会内報告で確認しました。多くの場面で変化することが必要となり、生活を変えていかねばならない、地域の皆さんが施設や事業所との関係についてもこれまでのようにいかないのではと思わざるを得ないような状況となっていることに気づくことができました。ここに取り組むべき課題が見えてきました。

具体的な取り組みが困難な中でも、対策を十分にすることで「できること」はないのか、またこれまで作り上げてきたそれぞれの関係が今はどうなのか、その関係を持続するための対策はどうなのか、活動の再開をどのように迎えるのか、そしてそこに至るまでどのように私たちの事業、取り組みをどのように持続させていくのかという課題です。

新年度に向けて各課題について具体的な提案をもって各計画を進め部会間の協働を得てチャレンジしていきます。

1. 推進状況

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
災害時要援護者に対する支援体制の構築 (充実計画⑱)	福祉避難所の体制整備	受入マニュアルの各施設版作成	ア)福祉避難所の体制整備、各施設版作成に向けた提案に至らず イ)課題共有=留まった。	△
	各地区、施設の災害時の体制等の整備(もの・ひと)	災害時の法人内連携体制の検討	ア)連携体制の検討には至らず。 イ)現況確認に留まった。 ウ)但馬地区で近隣地区の1次避難場所受入マニュアル作成に共有	
制度の狭間にある支援の実施	生活環境改善(ゴミ屋敷清掃)・生活困窮者支援(フードバンク等)への取り組み	ニーズ把握と支援体制の確立	ア)高齢化に伴うゴミ出し、清掃に係る支援ニーズ共有 イ)引きこもり事例に係る関係機関(行政・社協)会議参加共有 ウ)「引きこもり事例」「フードバンク」「ヤングケアラー問題」等に係る行政との意見交換を部会で共有	△
法人外関係機関(ほっとかへんネット等)との連携	各ほっとかへんネット・自立支援協議会の取り組みを法人内に情報発信	朝来市の関係会議等への参加と活動情報の共有	ア)高齢者施設合同連絡会参加 イ)市内相互の支合い活動の情報収集 ウ)朝来市自立支援協議会発足(8月) エ)朝来市高齢者施設合同連絡会参加 オ)部会内での情報共有=留まった。	△
		神戸市の各区ほっとかへんネット・自立支援協議会への参加と活動情報の共有	ア)各区ほっとかへんネット・自立支援協議会の活動状況を共有 イ)各区の役員会・部会が一部再開の状況共有 ウ)部会内での情報共有	
地域のニーズに応える体制の構築	地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極め	情報収集フローチャートの作成・介護者の集いの実施	但馬地区「家族介護者の集い」は中止、実施に至らず。	△
		地域ニーズの把握と整理(総合相談センターを中心に)	神戸地区の事業・会議等に可能な限り参加。情報収集するも、整理、支援内容の見極めには至らず。	
	支援体制の検討と構築	支援体制の検討	地域ニーズの整理～支援体制の検討・構築には至らず	

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域活動への積極的参画	地域のイベント等への参加	イベントの把握・参加 (法人支援イベントの検討)	但馬地区・神戸地区共に予定されていた地域の行事への参加は自粛	△
地域との交流機会の提供	地域向けイベント等の実施	グラウンドゴルフ・感謝祭等の開催	ア) 法人主催グラウンドゴルフ大会 年度中止確認(5月) イ) 法人感謝祭中止確認(8月)	△
		おいでやすカーニバル・防災イベント・落語会等の開催の協力	ア) おいでやすカーニバル定例開催 中止確認(5月) イ) 地域自治会のイベント準備と片付け協力、イベント参加は見合わせ決定確認 ウ) おいでやすカーニバルに代えて地域への感謝をコロナ防止対策「マスク配布」を通じて実施(補助金使用)(11・12月) エ) 落語会の前・後期とも中止確認	
	交流スペースの地域開放	さくらの苑を中心に地域への交流スペース開放継続	ア) 「さくらカフェ」「いきいき百歳体操」共に中止確認(4～3月)	
		友が丘の交流スペース内容検討	ア) 担当者会立ち上げ(7月) イ) 担当者事業準備確認(7～3月) ウ) 神戸聖隷オアシス会議(工事関係者・法人内部)に出席(Online会議)(7～3月) エ) 部会としての新たな提案には至らず	
ボランティアの確保	ボランティアの積極的な受け入れと仕組みづくり	①各施設の希望Vの把握 ②神戸常盤大学との共有	① ア) 各施設ともボランティア受け入れ自粛 イ) 法人内各施設のボランティア活動自粛の中での現況確認と次期へ向けた小アンケート実施(2～3月) ② ア) 大学とのボランティア活動等について確認も積極的な動きがとれてないことの確認。	△

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
福祉教育、福祉体験等を通じた理解の促進	福祉体験学習等の継続を積極的に推進	福祉体験学習の実施	ア) 新型コロナウイルス対策によりスケジュール見直しとなり未実施(4~8月) イ) 但馬地区で再開模索 Web 学習の場の提供検討 ウ) 神戸市長田地区 1.17 集いでの体験学習会等の打合せ実施も別日に変えて実施計画 エ) 但馬:1月に中学での体験学習会実施予定確認も結果は中止	△
広報の充実・活用	HP、SNS 等を活用した情報発信	広報委員会の開催と各施設の HP 活用の推進	ア) 各施設の本年度 HP 担当者選出依頼(6・7月) イ) 各施設のホームページ担当者確定(7・8月)ウ) 法人ホームページ規定を再配信(但馬)(9月) エ) 法人 HP の更新に向けて部内で更新方法・ルール等確認(10月) オ) GH めぐみの募集情報チラシを HP 掲載(11月)、神戸聖隷オアシス関係情報を Facebook を通して発信	△

第4期中期計画の1か年度目として

中期事業目標⑥ 持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します。

人事労務危機管理推進部担当

吉田 和夫

正規職員の体系見直しのテーマは、正規職員のキャリアラダーは、中核の福祉専門職と並列する管理職及び経営職のそれぞれのラダーが必要と認識したものです。特に、社会福祉法人の経営環境がどんどん難しくなっているなか、中長期の財務管理と永続性のための事業展開を担う経営者育成課題に直面しています。

能力と意欲のある非正規職員を限定正規に、パートタイマーで職能を生かすことができる人をサポートスタッフにと人事制度の多様化へ基礎検討ができましたが、「働き方改革」で求められる待遇の公平性に関して、ひょうご仕事と生活センターの指導を得ました。その結果、大企業と比べてもそんな色のない正規職員の待遇の一方、非正規職員の待遇との格差が大きいとの評価を受け、正臨間ギャップを認識いたしました。

別の角度の「働き方改革」、つまりワークライフバランス（WLB）の推進の面では、その推進自体が人手不足感を一層強めているという現場の悲鳴が一部から聞こえてきました。各施設・事業所の実態に即した取組みと、WLB の考え方を全ての職員に理解してもらう取組み双方が必要であることを痛感しました。

危機管理面では、幸いにも法人のガバナンスが問われる事案は発生しませんでした。しかし部分的には職員のモラルの底が抜けたような事柄が数件発生しました。当方で遅滞なく対応しましたが、全体に弛緩しているような不安があります。人材確保、育成、経営、モラル、働き甲斐などを高いレベルで揃えるため、これまで不十分であった各推進部活動間の連携に専任理事全員で取組みを始めました。

1. 推進状況

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
(正規) キャリアアップ推進	正規職員の就業体系再整備	①正規スタッフ体系見直し	ア)人事制度新体系イメージ案(キャリアパスフレーム表等)に基づき継続して検討(7月～) イ)就業規則改定案の検討(8月)	△
(正規) キャリアアップ推進	賃金改善・給与体系再構築	①基本給・手当の検討	ア)能力給表、賞与支給率改訂についての人件費シミュレーション結果の確認(5月) イ)2019(令和1)年度特定処遇改善手当の支給実績集計結果を確認(11月) ウ)定年延長に向けた財務的試算結果を検討(12月)	△

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
(正規) キャリアアップ推進	人事考課制度の拡充	①昇給シミュレーション	7) 2020年度目標管理制度の課長～副主任の目標設定の適切性を、部員が分担して評価、全施設へWebまたは訪問検討会実施(6, 7月) ｲ) 人事考課・目標管理を非正規職員へ拡大するための考課表及び目標管理手法の試案検討 ｳ) 人事考課情報付帯の年齢順等級別職員情報調査表作成(計画的昇任・昇格の必要性、入所施設への総務課長配置、人事部創設の必要性提言) ｴ) 人事考課結果の検証と課題の整理(1, 2月)	○
(「準正規」) 限定正社員等の多様な雇用形態の導入	新型正規の就業体系構築	①雇用形態の定義確定	7) 新雇用形態(限定正規)への移行パターン継続検討(5月～) ｲ) 現行臨時職員を勤務地限定職員、勤務時間限定職員と契約職員(現臨時)に区分し、勤務時間、異動範囲、賃金構造、技能・職務手当、退職金制度等整理案提出(1月) ｳ) 職務基準書・共通要素評価基準を活用して、職責に明確な格差を表現する方向を提言(3月)	○
	給与体系構築	①給与体系の確定	7) 限定正規職員、契約職員(臨時職員)、サポートスタッフ、定年後嘱託職員の賃金(勤続0年次)案(人件費シミュレーション)	△
	限定正社員制度の運用	①就業・給与規則策定	7) 限定正規職員就業規則案と処遇についての提案・検討(8月) ｲ) 定年後嘱託課長制の決定に伴う嘱託職員就業規則改訂 ｳ) 上記年俸額の決定、施行	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
(「非正規」) 多様な「サポート(非正規)スタッフ」の活用	「非正規職員」への人事考課制度の拡大	①共通様式作成	ア) 臨時職員用人事考課表案の継続検討(7月～) イ) 人事考課の拡大計画(2021年度試行、2022年度実施)を(2021年度様式作成、2022年度施行)のへ変更を確認(2月) ウ) 施行計画(試行事業所を複数選択して実施・案)、新人事制度案との連携の必要(2月)	○
	活躍の場の多様化と賃金改善	①基本構想策定	ア) サポートスタッフの職務、ジョブ評価=(種別ジョブ要素+資格+経験+帰属・理念性評価など) イ) サポートスタッフの処遇(給与、手当、賞与)検討(3月)	△
働き方改革の更なる推進	有給休暇取得の推進	①有給取得70%	ア) 2020年(～3/10)取得率:68.03%(前年同期:67.68%)	△
	時間外労働時間の実態管理と改善支援	①課題分析と改善計画の策定	ア) 2020年度超過勤務総時間 18204時間(2019年度同 22,463時間) イ) 20時間/月超人数累計 164人(2019年度同 271人)	○
	WLBの更なる推進	①指標の選定(またはアレンジ)	ア) 公益財団法人ひょうご仕事と生活センター「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言書」承認(11月) イ) ワーク・ライフ・バランスWEB自己診断実施依頼(1月) ウ) 施設長・課長対象WLB基礎セミナー(ひょうご仕事と生活センター、2月) エ) 上記セミナー受講者アンケートから課題発見、初動(3月)	○
	生産性向上への取組 ①(支援現場業務改善への取組)	①モデル事業所の選定と取組の開始	ア) 自立センターひょうごの2021年度「業務に関するムリ・ムダ・ムラの業務改善」取組みに参画	△

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
	生産性向上への取組 ②(ペーパーレスの推進)	①課題の洗い出しと導入システムの決定	ア)「Desknet's」ワークフローシステム採用決定	○
勤怠管理システム機能活用による勤怠管理	システム定着、運用サポート	①システム機能運用拡大	ア)Web申請導入 イ)専決規程上の対応完了	○
職員就業満足度の把握	第2回職員意識調査の実施	—(次年度)	ア)ひょうご仕事と生活センター意識調査を活用検討	—
働きやすい職場環境改善とアピール(ユースエール・くるみん・えるぼし認定)	女性の活躍推進に関する取組の実施	—(次年度)	ア)育児休業、介護休業等施行規則改正 イ)看護休暇と介護休暇の時間単位取得化(2021年1月)に伴う就業規則等一部改訂	—
	次世代育成支援に関する取組の実施	—(次年度)		—
	若者雇用促進法に基づく若者の採用・育成取組み実施	—(次年度)		—
経営者育成	施設長コースの設定・運用	①キャリアラダー構築、教育体系策定		×
法人経営者選抜育成	執行役員制度の設置	①制度設計、研修制度検討、人選	ア)検討保留	△
	法人経営者選抜育成	①執行体制設計研究・次期役員人選	ア)「付箋会議」(9月から) ・経営者としての在り方の勉強 ・他法人リーダーの講演 ・推進部の協働事案の明確化	○
人手不足解消	「人事部」の創設	①体制構想(～9月)、試行(10月～)		×

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
コンプライアンス意識の強化	体制強化	①ハラスメント防止研修会（福祉村サミット）、諸規定見直し、危機管理室検討	ア)ハラスメント防止・対策規程の一部改訂（11月）	△
	情報共有・初期対応	①共有ルール・ツールの検討、導入提案	ア)コンプライアンス・リスク報告書式 イ)初期対応事案2件	○
危機対応を体系化する取り組み	全国福祉村サミット開催（テーマ：法人経営リスク）	①開催、研究報告要請、座長役割、共同取組提案	ア)「延期」方針決定、加盟法人へ通知（6月）	×
	法令遵守委員会の活性化	①委員会開催、事例検討、リスクヘッジ研究	ア)法令遵守委員会開催（7月） イ)過去（2016～2018年）リスク事例資料データ化	○

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸聖隷歴史資料館
 管理者 吉田 和夫

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた計画を一部進めることができず、広報活動等に課題が残りました。

理念の視点では、資料の収集・保管・展示を主に進めて参りました。各施設が発行している広報誌を法人の歴史資料として保管する為、各施設に提供依頼を行い、創刊号から最新号まで揃えました。施設毎にファイリングを行い、歴史資料館内に「広報誌・記念誌コーナー」を新たに設置し、職員・一般来館者が各施設の歴史を知ることができる環境を整えました。又、工事関係書類、旧さくらの苑に保管している本部書類の整理を行いました。次年度以降も法人資料の保存管理を適切に進めて参ります。

ギャラリーの利用促進については、新型コロナウイルス感染症の影響で積極的な広報活動ができず、利用申込みもない状況でした。9 月より徐々に利用申込みを頂き、但馬年金者組合朝来班・たじま医療生活協同組合朝来支部様による作品展（第 3 回あさご文化作品展）を開催し、朝来市ケーブルテレビの取材を受けました。9 月には恵生園利用者作品展、10 月には真生園利用者作品展を開催するなど、利用者の活動も発信しております。

人材育成の視点では、恵生園にて新入職員向けの歴史資料館見学学習会を計 2 回開催され、法人歴史の学習機会を提供しました。

地域貢献の視点では、指定緊急避難場所に関して中町区長と災害時の備蓄について話し合いを行い、衛生用品の保管を始め、非常食等の保管についても今後話し合いを行っていきます。9 月に予定しておりました朝来市一斉避難訓練は新型コロナウイルス感染症の影響で延期となりました。但馬よろず福祉相談所については、施設入所に関する相談、サービス付き高齢者向け住宅設置に関する相談、他法人の対応に関する相談（複数回）等を受け付けました。さくらの苑居宅ケアマネに相談するなど相談体制を構築しております。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットの設置、広告を掲示	ア) 両施設に展示に関する広告を掲示	○
	①両施設の担当者が情報を共有 ②出展者に互いの施設を紹介し、両施設で同様の展示を実施	① ア) 未実施 ② ア) 未実施	×
法人主催行事の開催	①理念部会等と協力し、クリスマス会等を開催	ア) 新型コロナウイルス感染症防止の為、クリスマス会は中止	×

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ギャラリーの利用促進	①地域住民・関係者への広報活動 ②施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信	① ア) 新型コロナウイルス感染症防止の為、広報活動を自粛 イ) 但馬年金者組合等による作品展(第3回)を開催/朝来市 CATV 取材(9~10月) ② ア) 恵生園利用者作品展を開催(9月) イ) 真生園利用者作品展を開催(10月)	○
インターネットを活用した広報活動	①ホームページにて最新情報を発信	ア) ギャラリーの展示案内を発信 イ) 広報誌・記念誌コーナー設置の案内を発信	○
試供(物販)の充実	①試食・試供品の種類の増加	ア) 新型コロナウイルス感染症拡大により来館者減の為、未実施	×
観葉植物の設置	①入りやすい雰囲気を作る為、入口に観葉植物を設置	ア) 真生園利用者より寄贈の花のプランターを設置(7~8月) イ) 水耕栽培キットを設置(4月~)	○
映像コーナーに新しい映像を追加	①施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加	ア) 未実施	×
資料の一元的管理	①理事会/評議員会議事録・決算報告書などの事業の基本となる資料を法人本部より移管	ア) 旧さくらの苑に保管している本部書類の整理を行う	△
工事関係書類の整理	①各施設の工事関係書類(契約書等)を整理し、適切に保存管理を行う	ア) 工事関係書類の整理を行い、リスト一覧データを作成	○
閲覧用機関紙の設置	①各施設の機関紙を施設毎にファイリングし設置	ア) 各施設より提供頂いた広報誌を整理し、館内に「広報誌・記念誌コーナー」を新たに設置(7月)	◎

(2) 人材育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人の歴史勉強会等の開催	①歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供	ア) 恵生園新入職員向け（8名）に歴史資料館見学学習会を計 2 回開催（8・9月）	○

(3) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域防災への協力	①「指定緊急避難場所」として朝来市一斉避難訓練等に協力	ア) 新型コロナウイルス感染症防止の為、朝来市一斉避難訓練は延期 イ) 中町区長と災害時備蓄について話し合いを行い、衛生用品を会議室に保管（9月）	△
「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	①相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ②地域住民への広報活動	① ア) 施設入所に関する相談、 イ) サービス付き高齢者住宅設置に関する相談、 ウ) 他法人の対応に関する相談（複数回） エ) 受付内容を担当ケアマネジャーに相談 オ) 障害者相談支援事業への要望について担当施設長と協働対応 ② ア) 新型コロナウイルス感染症防止の為、広報活動を自粛	○

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 平生園
 施設長 太田 敦子

第4期中期計画のビジョン

利用者とその方を取り巻く皆のしあわせを追及いたします

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、日々緊張の一年でした。また人材不足に非常に苦しんだ年でもあります。特に新規入居者に関しては、面会ができず確定ができにくかったことは収入への影響に繋がり、また、感染防止の為に病原体検査後の入居や個室対応といったことなどは、今までにない対応で苦慮いたしました。

年間計画の取組みについては、コロナ禍でスタートさせた毎月のご家族への近況報告は、ご利用者の生活の様子が確実に伝わり、感謝の声を頂くことができました。また地域との交流、外出等に変わる楽しみの提供として、感染拡大防止も含め各ユニット単位でできる行事、レクリエーションとし創意工夫を行い、多くの機会と今までにない楽しみの提供となりました。エルダー制度の再構築についても書式、進め方等の再確認が実施でき次年度に繋がる準備に取り組むこともできています。

今年度は24名の方が永眠され、内15名の方の看取りを実施いたしました。看取りをさせていただいた方の中にはご本人、ご家族のご希望で、入所時から看取り対応をさせていただいた方もあり、感染防止をした上で面会制限を緩和し、ご本人の意思を尊重した短期間のご家族が寄り添う看取りや、ご家族のご協力が得られたことで食事摂取が可能となり、今では自ら摂取できる状態まで回復されたご利用者がある等、施設ならではの看取りをすることができました。

また課題としては、下半期に重大な事故や同じ方が事故を繰り返すといったことがありました。発生当日中の検証、介護方法の見直し等を行ない繰り返さない為の情報共有と、対策を確実に実行に移すなど再発防止に努めました。

次年度は、利用者の生活環境の改善や職員の働き易さに繋がる大規模改修工事を実施いたします。ご利用者への影響を最小限とし安全安心を心掛け、丁寧な支援を継続していきます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
理念勉強会の開催	①地の塩伝道所牧師を講師に招き、上半期・下半期各3回(年6回)の勉強会を開催	ア)小西牧師を講師に招き理念学習会を実施(6月:4名 7月:3名 8月:4名 10月:3名 11月3名 12月:3名) イ)理事長による講話(12月)	◎
理念研修へ職員派遣	①キリスト教福祉講座、法人理念研修等へ職員派遣(3名以上/年)	ア)キリスト教福祉基礎講座へ職員派遣(9月/2名派遣 10月/2名派遣 11月2名派遣)	◎

(2) 人材育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
計画的な研修の実施と参加	<p>①職員会議にて各学習会を開催（10回以上/年）</p> <p>②外部研修参加者の年間計画作成と、派遣実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 新任オリエンテーション実施(理念・身体拘束・虐待・事故・感染症・食事・接遇・介護の基礎等/4月)</p> <p>イ) 身体拘束勉強会実施(6月)</p> <p>ウ) 水害夜間想定避難訓練実施(6月)</p> <p>エ) ターミナルケア勉強会実施(7月)</p> <p>オ) おむつの当て方勉強会(7月)</p> <p>カ) 事故防止勉強会実施(8月)</p> <p>キ) 避難訓練実施 虐待判定基準表活用勉強会(9月)</p> <p>ク) 感染症勉強会(10月)</p> <p>ケ) 身体拘束勉強会 虐待不適切ケア判定基準表事例検討会(11月)</p> <p>コ) 総合研修プレ発表(12月)</p> <p>サ) 感染症勉強会(1月)</p> <p>②</p> <p>ア) 研修計画書作成、研修計画、報告書の見直し実施</p> <p>イ) 一般職員 Web 研修 2 名参加(8月)</p> <p>ウ) 移乗介助基礎研修参加(9月)</p> <p>エ) 主任・副主任・エキスパート Web 研修 1 名参加(9月)</p> <p>オ) 虐待 Web 研修会参加 1 名</p> <p>カ) モルテン褥瘡対策 Web 研修参加 1 名(2月)</p>	○
エルダー制度の再構築	<p>①職制者が中心となり、中堅職員を対象に知識、技術を指導し、エルダーに育成(1名/年)</p>	<p>①</p> <p>ア) 職制者による新任職員のエルダー制度開始(4月開始1名、7月開始1名、9月開始1名)</p> <p>イ) エルダー書式の見直し案 試行開始(7月)</p> <p>ウ) 次年度エルダーの決定(2名)</p> <p>エ) マニュアル・書式活用方法の伝達(3月)</p>	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
エルダー制度の再構築	②リーダー養成研修などへの職員派遣 ③毎月の振り返り実施	② ア) コロナウイルスにより未実施 ③ ア) 振り返りの実施 (1回/月) イ) 職制会での進捗状況の情報共有 (1回/月)	○
ノーリフトケアの実践	①委員会および学習会の開催 (4回/年) ②指導者の育成 (1名/年) ③長寿の郷による人材派遣事業の活用 (4回/年)	① ア) ハイローストレッチャー使用した移乗方法学習会実施 (5月) イ) 新任職員を対象としたノーリフト学習会実施 (5月) ② ア) 未実施 ③ ア) 長寿の郷人材派遣事業受講(ノーリフトケアについて講義、実技) (7月・9月)	○
先進福祉機器の導入検討	①会議の開催 ②先進福祉機器の情報収集(バリアフリー展等見学) ③機器の選定、デモ機の活用	① ア) 会議開催 (9月) ② ア) 新型コロナウイルスにてバリアフリー展の見学未実施 イ) ND ソフトのベッドセンサーデモ機体験 (8月) ウ) モルテン センサー付エアーマット、マットレス、車椅子デモ機体験 (3月) ③ ア) 入浴機器(特浴)の選定 2台	○
記録システムの有効活用	①記録支援システム活用推進者育成 (各フロア1名) ②マニュアルの更新、作成	① ア) 記録支援システム活用推進者選定 (各フロア副主任) ② ア) ほのぼの Next ケース記録、事故、ヒヤリ、入浴入力マニュアル作成 (8月・9月) イ) iPad/ほのぼのケアパレット使用マニュアル作成 (9月) ウ) 包括的自立支援プログラム使用マニュアル作成 (9月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
記録システムの有効活用	③学習会開催 (2 回/年) ④記録時間の確保	③ ア)NDサポート Web 学習会実施(8月) ④ ア) 検討未実施 イ) 記録時間の確保検討実施	○

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
看取り介護の充実	①委員会の開催 (デスカンファレンス含む) ②研修会へ職員派遣と学習会の開催 (1 回/年) カンファレンスの実施 (一人 1 回以上/年)	① ア)デスカンファレンスの実施 (7 月 : 1 名) イ)「看取りに関する指針」の見直し ウ)マニュアルの更新 (11 月) ② ア)看取り学習会の開催 (7 月)	○
個々のニーズに着目したアセスメントと充実した支援の実施	①ケアマネジャーおよび担当介護員によるアセスメントの実施 (1 回/年もしくは状態変化時) ②ニーズに合わせた計画的なオンリーワン支援の実施 ③アセスメントツール検討 (ほのぼの含む)	① ア)新規入居者アセスメント実施 12 名 イ)新規入居者アセスメント実施 10 名 (22 名実施) ② ア)オンリーワン支援 (6 回) ③ ア)包括的自立支援プログラム使用 マニュアル作成 (9 月)	○
マニュアル (手順書) の更新及び共有と実践	①更新マニュアルに基づく、マニュアルの更新 (作成) (エルダー制度・看取り・災害) ②各種マニュアルの整理、管理方法の検討	① ア)神戸聖隷標準化マニュアル(リスク版) 作成 イ)看取りマニュアルの更新 (9 月) ② ア)未実施	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
<p>接遇の向上</p>	<p>①委員会の開催（6回/年） ②接遇ハンドブックの活用（1回/月 職員会議にて輪読） ③月間標語の案を職員より募集し、検討・作成・掲示 ④研修会へ職員派遣および学習会の開催（1回/年）</p>	<p>① ア)未実施 ② ア)接遇ハンドブックの活用(7・9月 3月朝礼時) ③ ア)標語の募集（9月） イ)「接遇アップキャンペーン」の実施とポスター掲示 ウ)毎月の標語の掲示 ④ ア)未実施</p>	<p>○</p>
<p>リスクマネジメント</p>	<p>①研修会へ職員派遣および学習会の開催（2回以上/年） ②事故・ヒヤリハットの検証と情報共有 ③虐待・不適切ケア・身体拘束の検証と共有</p>	<p>① ア)虐待拘束事故防止委員会の開催（6月） イ)身体拘束勉強会の開催(6・11月) ウ)事故防止勉強会の開催(8月) エ)高齢者虐待ゼロポスター掲示による啓発の実践（10月） オ)虐待防止 WEB 研修会参加（1名：2月） カ)伝達研修の実施（2月） ② ア)事故・ヒヤリハットの検証と情報共有の実施(1回/月) イ)重大事故発生時の当日検証会実施(5・11・12月) ウ)介助方法の見直し及び2人介助の実施（12月～） ③ ア)身体拘束解除検討委員会開催（5・9・12・3月） イ)虐待不適切ケア判定基準表 勉強会開催(9月・11月) ウ)虐待セルフチェックアンケートの実施(9・2月)および情報共有</p>	<p>◎</p>
<p>サービスの評価</p>	<p>①サービスの評価の共有及び改善案の検討、実施</p>	<p>ア)未実施</p>	<p>×</p>

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
改修計画に基づいた計画の実施	①修繕・改修案の確定 ②施設整備計画の立案（設計事務所との打合せ） ③青写真（図面）の完成 ④補助金の調査と申請準備	① ア)修繕、改修案の確定（8月） イ)汚水・雑排水管洗浄工事、給水圧測定実施（9月） ② ア)打合せ(8月)・情報共有(4回) ③ ア)改修図面最終案完成および概算費用確定（9月） ④ ア)2階特浴機導入に補助金申請を決定（9月）	○
安定した収入の確保	①空床期間の短縮および短期入所利用者の積極的受入れ ②市内各関係機関との連携、情報収集の実施 ③適正介護度の確認および必要に応じて変更申請提出 ④口腔ケアの実施による肺炎予防、機器を活用した見守りによる転倒事故の減少、早期受診対応による入院者の減少	① ア)新型コロナウイルスの影響で、ショートステイの受入自粛（4月～9月） イ)昨年上半期利用率比較 2.8%増 ② ア)市内各居宅介護支援事業所及び医療機関と情報交換実施 イ)入居希望者面談実施 26名 ③ ア)要介護度変更申請 2名実施(8月) ④ ア)早期受診対応にて入院者昨年比較延べ 177日減	◎
加算要件の確認	①加算要件の確認（1回/月） ②加算要件チェックシート一覧の作成	① ア)請求時に確認実施（4～3月） イ)新規加算申請実施（看護体制加算Ⅱ(ロ)4月～） ② ア)未実施	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
経費削減	①職員会議での報告、経費削減の意識づけ ②物品の在庫管理 ③修繕費の取捨選択	① ア)未実施 ② ア)新型コロナウイルス対策の為、衛生用品の在庫確認と確保 (4月～9月) ③ ア)次年度の大規模修繕時に検討	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズへの協力	①せいい介護者の集いへ職員派遣 (6回/年)	ア)新型コロナウイルスにて「せいい介護者の集い」中止	×
認知症サポーターの養成	①キャラバンメイト1名(講師)の育成 ②認知症サポーター養成講座開講 (4回以上/年)	① ア)新型コロナウイルスにて研修への職員派遣を中止 ② ア)新型コロナウイルスにて未実施 イ)認知症サポーター養成講座実施 (3月)	△
ホームページフェイスブックの活用と機関紙発行	①ホームページの更新 ②フェイスブックの更新 (4回/年)	① ア)ホームページの更新 (6月・8月) ② ア)フェイスブック更新3回 (4月・7月・9月・11月・1月・3月)	○
新規ボランティアの開拓と定着	①ボランティアの情報収集 ②新規ボランティア開拓 ③ボランティア受け入れと継続依頼	①・②・③ ア)新型コロナウイルスにて未実施	×

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇 5 日以上取得	①有休取得年間計画表作成と確認	ア)有休休暇 5 日以上未取得者の確認 (9月) 全員取得 イ)計画的取得の啓発および取得予定日の聞き取り実施	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ノー残業の推進	① 残業時間の確認と業務改善の実施	ア) 残業時間の確認およびノー残業の啓発 イ) 支援が必要な時間に職員を配置	○
災害及び防犯訓練の実施	① 避難訓練実施 (2 回/年) ② 防犯訓練実施 (1 回/年)	① ア) 夜間想定風水害避難訓練 (6 月) イ) 火災想定避難訓練 (9 月) ② ア) 防犯勉強会 (7 月)	◎

2. 出来した事案

(1) 利用者の移乗介助中に発生した転落事故の件

要介護 5 (全介助) のご利用者を入浴の為、3 人(3 方向)で居室ベッドから移動用ストレッチャーに移乗介助中、ストレッチャーのブレーキ確認を怠り転落事故(後頭部と腰背部を強打)が発生。ご家族へ連絡し朝来医療センター受診。内科触診異常なし。頭部 CT 実施し異常なし。更に整形外科にて診察。触診の際、右大腿骨、骨盤辺りで顔をしかめられること有り、大腿骨、骨盤周辺の XP・CT 検査実施。

結果、現時点では異常なし。念のため翌日再度頭部 CT 検査指示有。右大腿骨、骨盤については 1 週間後に再診の指示と暫く様子観察の指示があり、施設内にて経過観察実施。1 週間後の再診 異常なし。

(2) 利用者をストレッチャーから浴槽へ移動する際に発生した転落事故の件

3 階浴室にて要介護 5 (全介助) の利用者を入浴用ストレッチャーに移乗し特浴浴槽に移動する際、排水溝の蓋の隙間にストレッチャーの後輪が落ちたことで横転し、ご利用者が転落する事故(頭部、顔面、左半身を強打と左頬表皮剥離による出血。)が発生。

朝来医療センター受診し全身 CT、左上肢 XP 検査実施。画像上現時点では頭蓋内出血、骨折所見なし。左頬表皮剥離部処置。頭部打撲している為経過観察し翌日再診の指示有。

翌日 11 日(水) 9:00 朝来医療センター整形外科再診。頭部 CT 結果、脳内出血認め豊岡病院へ救急搬送。検査結果、家族等への説明では外傷性頭蓋内血腫によるレベル低下・心停止の可能性はない。左頬骨の骨折による経口摂取困難な事、全身打撲によるダメージ等により状態悪化・心停止は近いうちに来るであろう。今後は朝来医療センターでの治療が必要とのことで朝来医療センターへ入院となる。

12/10(木) 10:00~医療センターにて今後の対応についてのカンファレンスが実施され、出血も 12/2 現在治まっており、吸収。頬の骨折、擦過傷も治癒傾向にあり、問題無い。血液検査の結果も、貧血と栄養状態(低栄養)の数値に異常があるが、肝臓、腎臓機能とも大きな問題は無い。今後の気になる点について、傾眠強く食事摂取量にムラがあり結果脱水となる。事故による後遺症というよりも認知症、高齢による機能低下によるものと思われると医師より説明。

12/17(木) 退院。入院前と同様の状況にて経過。(2021 年 2 月 4 日老衰にて永眠)

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 わらしべ
 施設長 太田 敦子

第4期中期計画のビジョン

「安心・笑顔・自由・その人らしい暮らしの実現」

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、ご家族との面会、地域との交流など人のふれあいが大きく減少し、特にご家族にとっては家族を忘れてしまうのではといった不安を増加させ、あたりまえにできていたことのありがたみ、必要性、重要性を強く感じる事となりました。

そのような中でも力を入れたことは個別支援の充実です。カンファレンスを確実に開催し、支援方法の検討と統一した支援をチームで取り組み、コロナ禍で行動が制限されていても本人や家族のニーズに向き合い、ケアプラン達成にこだわった支援を実施しました。また、事故防止強化については事故後の対策をモニタリングし、事故を繰り返さない為の意識付けの実施、虐待・不適切ケアへの取り組みとしては、委員会活動、内部研修、事例検討会やユニット会議での共有・確認など支援を振り返る機会を多く持つことができました。コンプライアンスについても、職員会議にて法人の規則集に触れる機会をもち、浸透に向けた取り組みを始めています。

しかし、残った課題もあります。看取りについては常に対象者がいないことから、実体験として取り組みにくくコロナ禍の影響もあり、特に今年度は研修等による情報収集の機会がもてず、内部研修だけでは知識は乏しくあまり進捗していません。収入に関しても、入院等による空床が発生いたしました。感染症の対応にて受け入れができていません。更に、昨年3月に空調設備を更新し快適な生活でスタートさせたのですが、新たに給湯設備に不具合が生じ、大切なお湯が漏れてしまうといった状況となり応急処置を実施。現時点では生活に支障がない状態になっていることから現状を維持させ、時期を見極め、修繕を検討していきたいと考えています。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人理念の理解と共有	①職員会議時の牧師によるメッセージの実施（1回/月） ②ハンドブックを活用した理念の理解（偶数月）	① ア) 毎月、職員会議時に小西牧師によるメッセージの実施 ② ア) 職員会議時の神戸聖隷ハンドブックの読み合わせと話し合い（偶数月）	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉基礎研修への参加 ②法人理念研修への参加	① ア)キリスト教福祉基礎研修 2 名参加 (9 月・10 月・11 月) ② ア)理事長による理念研修参加 (12 月 平生園にて)	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
内部・研修の情報収集と計画的な研修参加	①専門の基礎研修等への参加 ②認知症介護実践リーダー研修への参加 (1 名)	① ア)但馬長寿の郷介護技術研修参加「認知症対応」(9 月・10 月・11 月) 「高齢者に多い疾患」(10 月) 「ストレスコントロールについて」(11 月) イ)他施設研修「感染症研修会」(10 月 平生園) ウ)グループホーム連絡会研修会「事例検討会」(11 月) エ)法人成年後見制度研修会(12 月) ② ア)新型コロナウイルスの影響により、参加予定の認知症介護実践リーダー研修中止、本年度の参加見合わせ	○
伝達研修の充実	①内部研修会の開催	ア)新採用職員研修 (4 月) イ)認知症プチ勉強会 (5 月・8 月) ウ)身体拘束廃止研修会(6 月) エ)看取りに関する研修会 (7 月) オ)新着職員への虐待防止・身体拘束廃止研修 (2 月) カ)伝達研修 (11 月・12 月・1 月)	◎

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
カンファレンス	①カンファレンスの実施 (一人1回以上/年)	ア) 毎月 2～3 名のケアカンファレンスの実施 (4 月～11 月・3 月実施) イ) 状態の変化に伴うタイムリーなカンファレンスの実施 (支援方法の検討、確認、統一した支援の実施)	◎
各ユニットでの取組み 両ユニット協働による支援の実践	①年間計画の立案と実践 ②活動メニューの選択肢を増やし、個々のニーズの聞き取りとプランへの反映、実践	① ア) 年間計画表に基づき各ユニットの計画を実践 (毎月) イ) 毎年恒例の市内グループホーム 対抗風船バレーボール大会は、新型コロナウイルスの影響で中止 施設内ユニット対抗風船バレーボール大会を実施 (5 月) ウ) 市内小学校、こども園との交流会 中止 エ) 家族交流会 (清掃作業) 中止 (9 月) ② ア) 個別支援充実委員会開催 (5 月・8 月・12 月・2 月) イ) ケアプランに基づいた個別支援と個別外出の実施 (上半期 10 名・下半期 11 名)	◎
防災・防犯への取組み	①毎月避難訓練の実施 ②避難確保計画の更新 (5 月) ③防犯訓練の実施 (1 回/年)	① ア) 防災委員会開催 (5 月) イ) 避難訓練実施 (4～7 月・2 月) ウ) 災害食体験 (7 月・9 月・11 月) エ) 通報訓練 (10 月・11 月) オ) 災害に備えた施設周辺の清掃 (10 月) ② ア) 避難確保計画更新と朝来市への提出 (7 月) イ) 避難確保計画の職員への周知 (8 月) ③ ア) 外部講師による防犯研修 (7 月)	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
事故防止強化	①委員会の開催 ②各マニュアルの更新	① ア) 毎月事故防止強化委員会開催 (12月～3月は業務の都合で未開催) イ) 事故・ヒヤリハット後のモニタリングと各ユニットへのフィードバック (毎月) ウ) 職員会議にて事故・ヒヤリハット報告の共有と事故後の対策の周知 ② ア) 第2期前期分法人標準マニュアル作成と提出 (6月) イ) 第2期後期分法人標準マニュアル作成と提出 (8月)	○
虐待不適切ケアへの取り組み	①年2回以上の身体拘束廃止研修会の開催 (6月・10月) ②年3回以上の委員会開催 (4月・7月・9月・2月)と記録の共有	① ア) 身体拘束廃止研修会 「身体拘束廃止に関する指針について」 (6月) 「環境ロック」について (11月) イ) 虐待防止事例勉強会 (11月) 虐待防止評価表の活用 ② ア) 委員会開催 (4月・5月・7月・8月・9月・10月・2月) イ) 虐待防止チェックリストの実施と集計 (9月・2月)	◎
看取り支援体制の構築	①委員会の開催 ②研修会への参加 ③情報収集	① ア) 看取り委員会開催 (5月・6月・8月・2月) ② ア) 看取りについての自主勉強会開催 (7月) イ) 委員会による看取り研修会開催 (9月) ③ ア) 職員アンケート実施 (5月) イ) アンケート結果の活用: Q&A表を作成	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
関係機関との連携による収入確保	①入所申し込みの再調査(5月) ②関係機関及び家族との連携強化	① ア)入所申し込み再調査実施と集(6月・7月) イ)入所申込書様式更新(3月) ② ア)次期入所者選定のための関係機関への訪問と連絡調整(7月・8月) イ)申し込み本人及び家族との面談(8月) ウ)新型コロナウイルス感染拡大防止のための短期入所受け入れの自粛(4月・10月・12月・1月)	△
収支の理解	① 経費削減の周知と実践	ア)職員会議にて毎月の収支に関する説明(光熱費、食費等) イ)前年度の消耗品使用量集計報告(5月) ウ)職員会議にて 2019 年度決算・2020 年度予算の説明(5月・6月) エ)毎月の消耗品使用量確認・報告・周知による経費削減意識の向上	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域交流の充実	①こども園、小学校等との交流 ②地域ボランティアの受入れ ③ホームページ・フェイスブック・機関紙発行	① ア)新型コロナウイルスの影響により、今年度の交流会中止 イ)東河小学校 3 年生より手作りカレンダー、5 年生より体操の DVD のプレゼント(3月) ② ア)新型コロナウイルスの影響により、ボランティア受入れ中止 ③ ア)毎月ホームページ写真更新 イ)機関紙「ひなたぼっこ」発行準備と発行(7~9月・1~3月) ウ)フェイスブック投稿(1月)	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域活動への参加	①キャラバンメイト活動への参加 ②地域行事への参加	① ア) 新型コロナウイルスの影響により、活動への参加未実施 イ) キャラバンメイト活動 1 名参加 (3 月) ② ア) 新型コロナウイルスの影響により、地域への外出は自粛中	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
働き方改革の理解	①職員満足度調査の実施 ②生産性向上のための事業計画進捗のチェック	① ア) 職員満足度調査準備 (9 月) イ) 職員満足度調査は未実施 ② ア) 事業計画進捗チェック (毎月)	△
コンプライアンスの浸透	①サービス規程(規則集)を学ぶ機会の提供	ア) コンプライアンス勉強会開催 5 月：法令遵守規程 7 月：苦情解決規程 9 月：ハラスメント規程 10 月：サービス規程 12 月：個人情報管理規程	◎

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 さくらの苑
施設長 小山 哲也

第4期中期計画のビジョン

垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！

2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら事業を継続した1年となりました。幸いご利用者やご家族、職員に発症者はなく各事業の休業や感染症でご利用者が長期に渡るお休みをされるなど影響は少なくほぼ通常の営業ができました。地域との交流やさくらの苑の行事、ご家族との面会、ボランティアの受け入れなど制限を行いながら地域とのつながりの継続とご利用者の楽しみを絶やさない、減らさないようにさくらの苑職員全員で日々検討、実施してまいりました。

① 理念の視点 法人基本理念の理解を深めるため職員会議やユニット会議にて勉強会や理事長による講話、小西牧師からのメッセージを年間で計画実施しました。また、さくらの苑では看取りを実施しているので看取りについての勉強会も全職員を対象に実施しました。

② 人材確保育成の視点 高卒新規採用者の育成プログラムを見直し新規採用者が介護知識と技術の習得だけでなく、社会性も学び独り立ちできるように検討しました。また、研修委員が主となり資格取得の推進と研修参加を計画し職員個々のスキルアップを図り、今年度は介護福祉士やユニットリーダーなど多くの職員が資格を取得することができました。

③ QOLの視点 24時間シートを活用することで、ご利用者個々の生活リズムを把握しご利用者に合った支援を行い、元気で生き活きとした生活が送れるように取り組み、大幅な入院者数の減につなげることができました。

④ 経営強化の視点 コロナ禍でご利用者の利用減が予測されましたが、新規ご利用者を確保しながら利用率の維持と介護報酬の増に努めることができました。

⑤ 地域貢献の視点 当初計画していたさくらカフェや出前講座などコロナ禍にあり中止となってしまいましたが、地域とのつながりを継続していくために「さくら新聞」を発行、地域へ配布することで情報を発信、地域ニーズの把握に取り組みしました。

⑥ 人事・労務・危機管理の視点 虐待と事故予防のための会議を開催し情報共有を図り、勉強会を定期的実施し職員の意識向上に努めました。有給休暇では計画目標には達しませんでした。年間5日有給休暇取得を促進することができました。

コロナ禍にあり2020年度計画で取り組みができなかったことが多くありましたが、2021年度はより具体的な実行計画を立てコロナ禍でも実施可能な取り組みを行い、職員一人一人のスキルアップを図り、ご利用者の安心・安全で楽しみを持った生活ができること、地域の方とのつながりをより一層強いものになるよう取り組んでまいります。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
基本理念ハンドブックを使用 理念研修への取り組み キリスト教福祉への取り組み	①神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施 ②牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講（1回/月） ③他法人研修へ参加 ④歴史資料館の見学 ⑤キリスト教福祉基礎研修へ参加	① ア) 新人職員・各ユニット会議にてハンドブックを活用した勉強会の実施（4月～8月） ② ア) 毎月職員会議にて牧師によるメッセージ聴講（4月～3月） イ) 11月理事長による理念勉強会（講話）実施 ③ ア) コロナ禍にて未実施 ④ ア) 新人職員対象とした神戸聖隷歴史資料館見学実施（4月） ⑤ ア) 職員2名参加（9月～11月）	○
理念に沿った学習会に参加	①事例検討会議実施 ②ターミナル勉強会実施	① ア) 看取り対象者について各ユニット会議にて実施 ② ア) 5月各ユニット会議にてターミナルケア事例勉強会を実施	○

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
教育システムの見直し 役割を担う職員の仕組み作り 資格取得への取り組み	①エルダー制度を含めた教育システムの見直し ②オリエンテーションプログラムの検討・作成・実施	① ア) 職員育成方法再検討（1月～3月） イ) 2021年度新規採用職員から運用開始 ② ア) オリエンテーションプログラムを再検討（1月～3月） イ) 2021年度新採用職員から取り組み開始	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
教育システムの見直し 役割を担う 職員の仕組み作り 資格取得への取り組み	③研修年間計画に沿った研修への参加（一人1回以上） ④専門研修への参加 ⑤伝達研修のあり方検討と実施 ⑥研修のルール作り ⑦受験資格対象者のリストアップ ⑧資格取得に向けた協力体制作り ⑨各試験の勉強会開催	③ ア)年間計画に沿い研修に参加 イ)コロナ渦により中止研修あり、未参加者3名 ④ ア)介護福祉士実務者研修2名、認知症介護実践研修1名、介護実習指導者研修1名、ユニットリーダー研修2名参加 ⑤ ア)研修委員会伝達研修の方法について検討実施（2回） ⑥ ア)資格取得・スキルアップ・経験年数にあった研修参加へのルール作り検討実施（4月～3月） ⑦ ア)資格取得状況と受験資格対象者をリストアップ実施（5月） ⑧ ア)資格の種類、取得方法、助成について職員会議で伝達、取得を奨励（6月） ⑨ ア)介護支援専門員受験での模擬試験の実施（8月～9月）	○
業務改善に向けた取り組み 記録方法を学ぶ 職場環境改善への取り組み	①勤務時間の見直しと検討 ②業務内容の見直しと検討 ③会議の進め方の内容検討と実施 ④記録委員会を中心に記録の書き方の情報収集	① ア)新しい勤務時間を実施、非正規職員へも勤務時間選択拡大（1月～3月） ② ア)リーダーと業務内容の見直し実施（4月～3月） ③ ア)委員会については定期開催から必要時の開催に変更。議題の事前入力実施（8月～3月） ④ ア)ペーパーレス化推進。電子印鑑への取り組み開始（12月～3月）	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
業務改善に向けた取り組み 記録方法を学ぶ 職場環境改善への取り組み	⑤研修会への参加 ⑥各ユニット会議にて勉強会の開催 ⑦施設見学 ⑧職員満足度調査実施（1 回/年）と課題改善に向けた取り組み実施	⑤ ア)WEB 研修中心に実施（7 月～3 月） ⑥ ア)ユニットケア勉強会（6 回） イ)ターミナル勉強会開催（4 回） ⑦ ア)コロナ禍により未実施 ⑧ ア)記録時間調査を実施（6 月）	△

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ユニットケアの理解と実践 24 時間シートの活用 個別支援の理解	①ユニットケア研修への参加 ②勉強会の開催（1 回/年） ③伝達研修の実施 ④毎月のユニット会議にて利用者 1 名の 24 時間シート内容検討と見直し ⑤検討後の実践と評価 ⑥施設見学（2 回/年） ⑦ユニット会議にて情報共有 ⑧満足度調査の実施（1 回/年） ⑨前年度、今年度の満足度調査結果の情報共有と改善策の検討と実施	① ア)ユニットリーダー研修 2 名参加 ② ア)ユニットケア研修を職員会議にて実施（5 月） ③ ア)動画視聴など伝達手法を検討（6 月） ④ ア)毎月のユニット会議にて実施 ⑤ ア)毎月のユニット会議にて実施 ⑥ ア)コロナ禍で未実施 ⑦ ア)毎月のユニット会議にて利用者個々の支援統一のための情報共有 ⑧ ア)特養、短期、通所で実施（10 月～12 月） ⑨ ア)調査結果の情報共有と改善策の検討（1 月～2 月）	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
垣根のない施設への取り組み	①ミニデイへの利用者参加 (2回/年) ②さくらカフェへの参加 (4回/年)	① ア) コロナ禍で未実施 ② ア) コロナ禍で未実施	×

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保 先進福祉機器導入の検討	①見学ツアーの実施 (年4回) ②体験(お試し)利用の実施(随時) ③福祉機器展示会・但馬長寿の郷福祉用具展示会への見学	① ア) コロナ禍により未実施 ② ア) デイにてお試し利用実施 (3回) ③ ア) コロナ禍により未実施	△
目標に沿った積立金の確保 経費の削減	①各事業月次予算達成確認 ②光熱水費の削減の啓発 ③消耗品等の購入先の見直し(随時)	① ア) 毎月実績確認。積立金当初予算より増額で計上 ② ア) 職員会議・ユニット会議等で使用量報告行い啓発実施 (4回) ③ ア) 毎月リネンリース料超過金出さない様管理の実施	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域貢献を学ぶ 必要な資源を知り、地域へ展開する	①研修会への参加 (地域福祉ゼミナール基礎、応用) ②職員会議での勉強会開催と各ユニットでの伝達研修を実施 ③新人職員に地域貢献への取り組みを伝える	① ア) 研修未開催 ② ア) 職員会議にて地域貢献についての勉強会開催 (10月) ③ ア) 新人オリエンテーションにて実施 (4月)	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
<p>地域貢献を学ぶ</p> <p>必要な資源を知り、地域へ展開する</p>	<p>④外部機関からマップ作りを学ぶ</p> <p>⑤職員へマップ作りの情報共有を実施</p> <p>⑥地域の社会資源の情報収集</p>	<p>④</p> <p>ア)外部機関からのマップ作りは未実施</p> <p>イ)委員会にてマップ作りについて検討</p> <p>⑤</p> <p>ア)マップ作りについて委員会にて情報共有(6月)</p> <p>⑥</p> <p>ア)委員会実施し、地域資源について情報共有(6月)</p>	△
<p>地域サポート施設への参入から展開</p> <p>ニーズ把握方法、つながり強化のための取り組みの検討・実施</p>	<p>①さくらカフェ開催(4回/年)</p> <p>②出前講座開催(5回/年)</p> <p>③地域包括と社協との意見交換会実施(11月)</p> <p>④家族会と運営推進委員への説明</p> <p>⑤サポート施設事業の広報活動</p> <p>⑥外部機関から地域ニーズの把握方法を学ぶ</p> <p>⑦さくらカフェ、出前講座、ミニデイ、いき百体操等の活動を通してつながり強化の取り組み実施</p>	<p>①</p> <p>ア)コロナ禍で未実施</p> <p>②</p> <p>ア)上町ミニデイにて開催(10月～12月)</p> <p>イ)コグニサイズについて講義・体験(10月)</p> <p>③</p> <p>ア)朝来市社会福祉協議会・ふくし相談支援課との意見交換会実施(12月)</p> <p>④</p> <p>ア)総合職員研修(2月)・長寿の郷地域ケア研究会(3月)にて内容を発表</p> <p>⑤</p> <p>ア)広報誌「ひなたぼっこ」にて内容掲載(10月)</p> <p>⑥</p> <p>ア)地域サポート施設推進事業研修会(WEB)にて地域ニーズについて学習(11月)</p> <p>⑦</p> <p>ア)感染症対策をおこない上町ミニデイへ参加(5回)</p> <p>イ)米屋町いきいき百歳体操参加(2回)</p>	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアへの取り組み 事故予防への取り組み	①虐待・不適切ケア防止の研修会参加 ②虐待防止チェックリストの運用を実施 ③虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施 ④事故予防の学習会開催 ⑤ユニット毎の事故の検証と対策の実施	① ア) コロナ禍で研修不参加 ② ア) 虐待防止チェックリストの運用を実施 (8月、2月) ③ ア) 虐待防止基準表・判定表を活用した学習会の実施 (12月) ④ ア) 事故予防の学習会開催 (7月) ⑤ ア) 毎月虐待拘束事故防止委員会、ユニット会議にて事故の検証と対策実施	○
有給休暇の取得促進 残業時間の短縮	①有給休暇取得への啓発 (年5日取得義務プラス1日) ②退勤時間乖離者への啓発 ③「ノー残業デイ」の実施	① ア) 有給休暇年5日プラス1日取得全職員はならず ② ア) 退勤時間乖離者へ施設長・介護課長より聞き取り実施 ③ ア) 毎週水曜日「ノー残業デイ」啓発活動実施	○

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 恵生園
施設長 掃部 久美代

第4期中期計画のビジョン

利用者の思いを聴き、利用者中心の支援のもと障害特性に応じたサービスを提供します。
わたしたちは、気づき考え行動します。

新型コロナウイルスの影響のある1年でしたが、感染症を防止することを一番に考え計画を行いました。理念では、施設内で理念の勉強会を実施し、理念に基づいた支援へ繋ぐよう、より良い利用者支援を目指しました。月に1回支援課ミーティングを実施することで、誰もが発言できる場と風通しの良い職場環境づくりに努めました。安心、安全なサービスの提供として、事故検証への取り組みと感染症予防に向けた取り組みは、繰り返し何度も検討して行きました。QOLでは、身体拘束及び不適切ケアについて、自分たちのケアを見直し、意識付け注意喚起を行い、根拠のあるケア、相手を思いやるケアを目指し、継続して取り組むように進めてきました。今後もさらに維持、向上できるように多職種で連携し対応して参ります。下期より歯科往診と口腔ケア指導を受け、利用者状況に合わせた口腔ケアを学んでいくこととなりました。また、利用者の高齢化と重度化により、体調管理を生活支援員と医務で連携をとり、体調不良の利用者の早期発見、早期対応を行いました。そして、毎日の検温、体調確認、利用中に変化が見られた時の隔離対応等、多職種と連携を図り、スムーズな対応として新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りました。日中活動を通じて趣味や関心を持って頂く活動時間の支援として園芸・スポーツ音楽、調理、創作活動と並行し、利用者の体力維持のための運動する場を設け、リハビリ機器を導入し、機能維持が図れるよう実施していきました。引き続き、安心安全な確保を行い、感染症対策についての周知啓発と研修等を実施し、今後の計画に取り組んでいきます。

第4期中期計画の目標である新規事業（放課後等デイサービス、グループホーム）2021年4月開設に向けて、完工検査や事業許可申請に加え、設備やケア内容の検討等、事業開始に必要な実質的な準備を行いました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	理念理解への取り組み	①理念ディスカッションの実施 ②他法人の研修参加 ③牧師によるキリスト教勉強会 ④資料館の見学と勉強会の実施(新任職員全員) ⑤神戸聖隷ハンドブック輪読(隔月)	① ア)施設内での理念勉強会(5月6月7月8月9月12月1月2月3月) ② ア)感染症対策により未実施 ③ ア)キリスト教基礎研修への参加(9月) ④ ア)神戸聖隷歴史資料館での学習会(8月9月) ⑤ ア)職員朝礼時の神戸聖隷ハンドブック輪読(5月7月9月11月1月3月の各1週間)	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
資質の向上	外部研修の参加と資格取得	①研修参加・資格取得奨励	ア)受講アンケート実施(4月) イ)虐待対応力向上研修(9月)リハビリテーション研修(9月)自立支援研修(10月)、サビ管更新(10月)、虐待対応力向上(11月)、福祉施設初任者(11月)、福祉専門職防災対応力向上研修(12月)、地域ケア研修(3月)、職場定着(3月)、医療ケア児者コーディネーター研修(3月) ウ)参加予定研修、感染症対策により取り止め(8月) 研修計画について周知(3月)	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
資質の向上	施設内勉強会の実施	①勉強会の実施 ②ミーティングの実施（4回/月） ③身体拘束検証会議の実施（1回/月） ④総合研修の取り組み ⑤手話検定の奨励	① ア)「虐待不適切ケア事例検討会」実施（4月12月） 「接遇向上について(接遇ハンドブックの振り返り)」実施（6月） 「人権研修」実施（7月） 「個別支援計画について」実施（8月） 「嚙下機能について」実施（9月） 「ノロウイルスについて」実施（10月） 「インフルエンザ対応法」実施（11月） 「AED 勉強会」実施（1月） 「OJT 研修」実施（2月） 「障害者の歯科治療に関する研修会」実施（3月） ② ア)毎週水曜日にミーティング ③ ア)身体拘束検証会実施（4月6月8月10月11月1月2月3月） ④ ア)研修取り組み（7月～2月） ⑤ ア)朝礼で毎週手話実施(4～3月)、個別学習会(9月)	○
誰もが発言できる職場づくり	接遇向上・業務改善への取り組み	①セルフチェック結果への改善取り組み ②満足度調査結果への改善取り組み ③検討会議の実施（3回/年） ④接遇ハンドブック輪読(隔月)・キャンペーン取り組み（4回/年）	① ア)セルフチェック実施（8月、2月） ② ア)下半期実施満足度調査実施（10月～12月） ③ ア)業務改善検討会議実施（7月、11月） ④ ア)接遇ハンドブック輪読実施（5月7月9月11月1月）	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
誰もが発言できる職場づくり	記録内容の見直しと提出書類の簡素化	①記録ソフトを活用した業務簡略化 ②提出書類様式の見直しと周知	① ア) 記録用定型文の活用 (6月～) 医務日誌の種別追加 (11月) 支援記録システム活用状況等報告 (1月) ② ア) 月のまとめ様式変更 (4月～)	○
危機予測力の向上	事故検証への取組み	①事故検証会議と改善策への取組み (1回/月)	ア) 事故検証会議の開催 (4月～3月) イ) 転倒・服薬に関する注意喚起ポスター作成、掲示 (6、9月)	◎
	感染症予防に向けた取組み	①感染症予防啓発と感染症災少への取組み (6回/年)	ア) 感染症対策用品、吐物処理キットの把握と確認、配置図の更新 (4.9月) イ) 感染症用品設置場所の環境整備、在庫一覧表作成 (4月) ウ) 手洗いチェッカーを使用した利用者参加型の勉強会の開催 (5月) 「ノロウイルスについて」勉強会実施 (10月) 「インフルエンザ勉強会」利用者職員対象勉強会 (11月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
身体機能低下への取組み	サービス利用移行の確認	①家族面談と支援の実施	ア) ご家族、利用者へ通知 (4月、11月) 家族へ文章通知 (6月)	△
	医療体制の充実	①嘱託医と契約内容の確認 ②協力医と話し合い	① ア) 嘱託医と面談実施 イ) めぐみ協力医契約 (1月) ② ア) 協力医と面談実施 イ) 歯科治療、口腔ケア指導往診開始 (11月～3月 18回)	○
	医療情報書の更新	①医療情報書の家族確認・更新	ア) 全家族へ確認と訂正実施 (5月) イ) 更新 59名、情報提供書式改訂	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
ニーズへの 対応	日中活動の 取組み	①園芸活動の取組	ア)畑作りから野菜の収穫 (4月～8月) 畑の土台作り(3月)	○
		①スポーツ音楽活 動の取組み	ア)取組み実施(毎月実施) (脳トレ体操、介護フラダンス、手 話ソング、風船バレー)	○
		①調理活動の取り 組み	ア)取組み実施(毎月実施) (フルーチェ、焼きそば作り、クレ ープ、フルーツパフェ、かき氷 ホットドッグ、サンドイッチ、ホッ トケーキ、ぜんざい、大学いも)	○
		①創作活動の取り 組み	ア)作品展募集ポスターの掲示(4月) 作品創りの実施(6月7月8月9 月)、歴史資料館、あったかプラ ザへ作品を展示(9月)	○
		①活動機器の導入	ア)第2作業場の整備(5月) イ)リハビリ機器の導入(6月) ウ)レクリエーション機器(11月)足 浴機(12月)導入、午後からの日 中活動として使用	○
	行事	①年間行事策定実 施 ②日帰り旅行と外 食計画	① ア)花見会(4月)、 開園記念に行事食提供(6月) オセロ・花火大会(8月) 行事食提供(9月、1月) 茶話会(11月) クリスマス会(12月) ② ア)日帰り旅行、外食中止により テイクアウト計画(9月)	○
		支援の標準 化への取 組・マニ ュアルの更新	①他事業所の情報 収集 ②項目の検討と利 用者説明 ③マニュアルの見 直し・更新	① ア)法人内事業所の情報収集(4月) ② ア)自施設マニュアル一覧の項目確 認(5月) ③ ア)法人標準マニュアル作成提出 (5、8月) イ)全マニュアルの内容見直し、更新 (3月)

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
居住環境の向上	環境整備への取組み	①活動の場・リハビリ室の環境検討	① ア) 作業場テレビ設置、リハビリ支援開始(4月～) 日中活動提供(5月～) イ) リハビリ機器導入(6月) レクリエーション機器を平日毎日使用(11月～3月)	○
	アウトソーシングの検討	①寝具リネンリースの見直し・更新 ②洗濯業務の検討	① ア) 情報収集 ② ア) 検討できず	×

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
安定した経営	経費削減への取組み	①物品庫の整理 ②消耗品の管理と見直し ③エアコンの管理	① ア) 物品庫の整理実施(6、8、9月) ② ア) ハンドソープ、洗濯洗剤の商品見直し イ) 感染症対策により実施無し ③ ア) 各居室室温確認による室温設定の適正化	○
	多機能型施設建設と運営	①多機能型施設運営に向けた取組み	ア) 起工式、着工(6月) 支援学校案内(6月) チラシ作製 事業所案内(9月10月) 完工検査(1月)、事業申請(2月) 放デイ利用契約、勤務開始(3月)	○
	相談支援事業所の運営	①関係施設等と協議 ②請求事務実施、ソフト導入の検討	① ア) 関係機関との情報共有 ② ア) パソコン入れ替え1台(6月) ほのぼのインストール(10月) イ) 請求事前審査・受給者証更新に関する相談員への操作手順指導	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	あったかプラザの運営	①アンケートの実施と対策 ②イベント開催(10回/年) ③茶房やっさ運営検討	① ア) 地域ニーズアンケート実施(9名) ② ア) 感染症対策により実施無し ③ ア) 会議開催毎月実施	△

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
資質向上	コンプライアンス・キャリアパス勉強会の実施	①勉強会の実施	ア) 人事考課学習会実施 イ) 苦情受付と解決の流れ、虐待に関する受付・対応手順勉強会実施	△

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 真生園
施設長 大橋 幸司

第4期中期計画のビジョン

「どんな時も最善を尽くし、その人に寄り添い支えます」

第4期中期計画の1年目が終了しました。2020年度は、新型コロナウイルスの猛威にて、事業計画の取組みが滞る事が多くありました。また、年度後半にも、緊急事態宣言が再度発令された中で、職員皆で知恵を出し合いながら、出来る限りの計画が推進できる様に、コロナ禍の状況をみながら取組みを実施いたしました。

コロナ禍の中で、「施設内に新型コロナウイルスを持ち込まない」を基本に職員の感染予防・持込防止は元より、利用者家族・関係機関・外部企業等の方々にもご協力をお願いし、感染予防に取り組みました。また、衛生用品（マスク・使い捨て手袋・アルコール消毒液等）の入荷が滞る事がありましたが、家族会からの寄贈や各取引会社等の協力、また行政からの援助にて衛生用品は滞ることなく確保できました。

日中活動の提供ではご利用者へ新たな外出を提案し、「下車しない外出」に力を入れ、緊急事態宣言時以外の時期に積極的に「下車しない外出」に取り組みました。また、季節ごとの行事が縮小されましたが、ご利用者が季節を感じる作品作りの活動や屋外での芋ほり体験・焼き芋を提供するなど、季節感のある取組みを積極的に実施しました。ご利用者の作品を但馬総合事務所・あったかプラザにて展示させて頂き、地域の皆さんに観覧して頂きました。

地域へ施設情報の発信では、上期では機関紙のリニューアルに取り組みました。下期には、新しくリニューアルした機関紙を基本に誰もが視覚的に見やすく読みやすいスマートな機関紙になるように取り組んでいます。また、第三者評価機関の受審を10月に受け、機関紙の取組み等を含む施設運営・生活支援全般に対し良好な評価を頂いています。

地の塩伝道所牧師によるキリスト教勉強会・理念勉強会をソーシャルディスタンスを確保し、内部研修として実施いたしました。朝礼メッセージは新型コロナ感染防止対策として、少人数で実施しています。

職員育成では専門研修等に積極的に参加しました。コロナ禍での外部研修はフェイスシールドを着用し参加しています。また、オンライン研修やビデオ研修等も全職員が参加できる事を基本に取り組みました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
基本理念の理解	牧師による朝礼メッセージ・理念解説	①牧師による朝礼メッセージ 施設の歴史を振り返る事で、理念理解を深める	7) 牧師による朝礼メッセージ (6月・9月以降毎月)	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉の理解	キリスト教研修等参加	①キリスト教勉強会の実施 キリスト教福祉講座への参加 理念研修参加 (海外・他法人)	ア)キリスト教勉強会に向けてアンケート実施 (4月) イ)アンケート結果を基に勉強会の打ち合わせ (5月) ウ)全職員が参加できるよう職員会議と業務に組み入れてキリスト教勉強会を実施 (7月・8月・10月・2月) エ)キリスト教福祉講座への参加 (2名/9・10月)	○
神戸聖隷ハンドブックの活用	神戸聖隷ハンドブックの解説・唱和	①神戸聖隷ハンドブックの解説・唱和	ア)職員会議のメッセージの中でハンドブックや理念の疑問点について話を頂く (5月) ※新型コロナウイルス感染防止対応により朝礼縮小、それに伴い唱和も自粛	△

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
更なる介護機器の導入と更新	介護機器の導入と更新	①使用中の介護機器の検証と最新介護機器の情報収集 最新介護機器の導入の検討	ア)委員会実施 (毎月) イ)使用中の介護機器について現状把握の為のアンケート作成と実施 (5月・6月・10月) ウ)アンケート結果を基に HAL の使用方法の検討と改造 (11~2月) エ)最新介護機器の情報収集 (毎月)とデモ機の試験的使用 (9月) オ)見守り機器の2台増設 (7月)	○
ICT による働き方改革と生産性の向上の取り組み	ICT による働き方改革と生産性の向上	①支援事務量の把握と ICT 機器の情報収集 ICT 機器導入の検討	ア)委員会実施 (毎月) イ)業務について現状把握の為のアンケート作成と実施 (5~7月) ウ)アンケート結果を基に業務の見直し (7~2月) オ)他施設へ情報収集 (12月)	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
職員個々のスキル向上を目指す	職員個々のスキル向上	①職員個々にスキルアップ研修参加 職員の経験や研修参加状況に応じた研修参加の推奨 全職員に研修情報の提供 ITを活用した研修実施の検討	ア) 新任職員への介護基礎研修実施 (4月) イ) ビデオ研修プログラムを活用した研修の実施 (5月・6月・1月・2月) ウ) 長寿の郷 OT による実務研修実施 (8月・10月・11月) エ) 虐待防止研修実施 (9月) オ) 但馬長寿の郷介護技術研修の受講 排泄ケア研修 (9月) 整形疾患の理解と対応 (10月) スキンケアの基礎 (10月) ポジショニング研修 (11月) ストレスマネジメント研修 (11月) 起居介助の基礎 (1月) ポジショニングの基礎 (3月)	○
継続した専門研修への参加	専門研修への参加	①喀痰研修・サービス管理責任者研修等の専門研修へ参加	ア) 相談支援専門員従事者研修の受講 (1名) イ) 喀痰研修の受講 (1名) ウ) サービス管理責任者研修は、今年度は新型コロナウイルス感染防止対応により受講条件が限定されていた為、受講できず	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
利用者ひとり一人へ寄り添える支援の確立	寄り添える支援の確立	①全ての利用者の成育歴含めた情報を理解把握し、利用者の思いに寄り添う支援の追求 ②困難ケースの利用者でも、最善を尽くした支援の実践	① ア) 各利用者情報の整理と把握 (4月・8月・10月・12月・2月) イ) 利用者本人と家族の希望を聴取し、思いに添う個別支援計画を作成。また家族への希望聴取時に利用者の状態を報告 ② ア) 利用者本人と家族の希望聴取と各関係機関や施設とのサービス調整 (4~8月) イ) カンファレンスの実施 (随時)	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
全ての利用者の思いに添った施設作り	利用者の思いに添った施設作り	①運営会議にて、より良い施設運営や施設業務を改善する為に、利用者自治会と協議を実施 ②懇談会にて、各利用者から要望やニーズなどの意見聴取を実施	① ア)運営会議（毎月） イ)何でも相談の実施（毎月） ② ア)懇談会実施（毎月） イ)誕生日食の提供（毎月） ウ)おやつ作りを提供（31回） エ)テーマ食「和菓子」の選択と提供（8回）	○
魅力あるプログラムの提供	魅力あるプログラムの提供	①コール対応業務を刷新し、新たに日中活動や利用者に寄り添える支援が実行できる業務システムを検討	ア)委員会実施（毎月） イ)業務について現状把握の為にアンケート作成と実施（5～7月） ウ)アンケート結果を基に業務を見直し、余裕のある時間帯を活用し利用者支援を実施（7～2月） エ)他施設へ情報収集（12月）	△
レクリエーション機器の活用	レクリエーション機器の活用	①利用者の日中活動クラブを立ち上げ、自由に機器を活用した活動が出来るシステムを検討	ア)レクリエーション機器を使用した活動の提供（毎月） イ)レクリエーション機器の操作方法とプログラム内容の把握（6月） ウ)レクリエーション機器使用に際しての利用者希望アンケート調査の実施（9月） エ)新たなレクリエーション機器の試用（7月）	△
他施設を見学し、最新の支援技術や業務内容を学ぶ	最新の支援技術や業務内容を学ぶ	①小グループで他施設見学をし、施設に導入可能な取り組みがあれば利用者支援や業務改善を実施	ア)新型コロナウイルス感染拡大により他施設見学が不可能となる イ)他施設からの情報収集は電話で収集しているが、他施設との連携会議も延期され、十分な情報収集に至らず ウ)兵庫西サービス管理責任者連絡会のリモート会議に参加（2月）	×

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保	利用者の確保	①行政・相談支援事業所等へ情報収集、待機者の継続した確保 メールを活用した相談支援事業所への情報提供	ア)施設見学者(2名)、訪問面談者(6名)、情報提供(23件)、新規利用者(5名) イ)但馬近隣圏域の福祉課と社協、市内相談事業所への情報発信(6月・7月・1月)	△
職員の確保	職員の確保	①ハローワーク・人材紹介企業等の活用	ア)ハローワークへの求人依頼 イ)看護師1名採用(6月) 支援員1名採用(8月)	△
経費削減と積立金3000万円確保	経費削減と積立金3000万円確保	①経費削減の周知と実践 ②年3000万円の積立	① ア)光熱水費の月間集計を職員会議にて報告(毎月) イ)オムツ類等の日常消耗品の消費集計を報告 ② ア)利用者確保に向けた情報収集(毎月) イ)3000万円積立確保	○
利用者の体調をレベルで差別化し、状態を把握	体調をレベルで差別化	①医療のトリアージの考え方を取り入れ、利用者の体調レベルを差別化するシステムを検討	ア)委員会実施(4月・5月・2月) イ)他施設への情報収集(7月) ウ)差別化システムの概要を立案(2月)	△
施設に感染症を持ち込まない	施設に感染症を持ち込まない	①感染症研修を実施 感染症予防月間の実施	ア)委員会実施(毎月) イ)感染症予防研修の実施(5月・11月) ウ)外部感染症予防研修の受講(5月) エ)感染症予防の啓発活動の実施(6~8月) オ)手洗い、消毒、換気システムの構築(8月・2月)	◎
老朽化した設備の改修	老朽化した設備の改修	①厨房の床部改修、トイレの部分改修、介護リフト更新	ア)新館11台天井走行リフト更新(7月) イ)厨房床の張替え・本館男女トイレの部分改修(11~12月)	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
(旧) さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	(旧) さくらの苑の継続管理と解体時期を検討	① (旧) さくらの苑の維持管理	ア) 旧さくらの苑の清掃、防火設備定期点検 イ) 仮厨房としての使用 (11~12 月) ウ) 本部書類・備品仮保存中 エ) 感染防止対策にて家族会使用 (10 月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
竹田地域を散策し店舗等の利用	竹田地域を散策し店舗等の利用	①利用者から希望を聞き取り、竹田地域のお気に入りの店舗や公共施設へ外出実施	ア) ドライブ外出 (62 名) 竹田地区への外出 (33 名) イ) 希望外出先聞き取り (5~6 月) ウ) 外出案内のポスター更新 (毎月) エ) あったかプラザ利用	○
竹田地域へ貢献したい	竹田地域へ貢献	①竹田地域へ外出時、店舗や公共施設の段差等の不便さを調査しデータ化の実施	ア) 竹田地区店舗調査 (8 月) イ) 竹田外出 MAP の見直し (6~8 月・10 月・12 月)	△
介護機器や地域参加等の情報を公開	介護機器や地域参加等の情報を公開	①施設内の最新介護機器や利用者による地域参加等の活動情報を地域へ発信	ア) 介護求人情報サイトからの HAL 活用の取材 (6 月) イ) 浴室、HAL 取材内容を機関紙に掲載 (8 月)	○
機関紙やホームページの積極的な活用	機関紙やホームページの積極的な活用	①機関紙を全面的にリニューアルする事を目標に、機関紙の内容や ICT・画像の活用など抜本的な改革を検討	ア) 委員会を実施し機関紙の内容を検討し、レイアウトや内容の変更。QR コードを使用した (5~6 月・12~1 月) イ) 機関紙の発行 (8~9 月・2~3 月) ウ) ホームページの更新 (6 月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
利用者懇談会・運営会議を実施し、利用者との共有を実施	利用者懇談会・運営会議を実施	①利用者参加の会議の実施	ア) 運営会議 (毎月) イ) 何でも相談の実施 (毎月) ウ) 懇談会実施 (毎月)	○
苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施し、早期解決	苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施	①第三者委員を含めた委員会の実施	ア) 苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施(6月・2月) イ) 虐待防止強化月間の実施(8月・1月) ウ) 何でも相談の実施 (毎月)	○
介護事故対策の実施	介護事故対策の実施	①第3期から把握してきた、事故・ヒヤリ統計データを詳細に分析し対策を実施	ア) 委員会実施 (毎月) イ) 内部研修の実施 (7月・2月) ウ) 薬事故防止啓発活動の実施 (毎月) エ) 職員会議にて事故、ヒヤリハット件数の報告 (毎月) オ) 事故、ヒヤリハット案件の周知方法の見直し (7月)	○
成年後見制度の積極的な活用	成年後見制度の活用	①利用者の重度高齢化及び家族の高齢化で、緊急度の高い利用者を把握し、積極的に成年後見制度の活用を実施	ア) 新規利用者家族へ制度活用の促し (6月・8月) イ) 成年後見制度利用を前提とした利用者契約 (2件) ウ) 見守り契約に向けた利用者と関係者との意向、状況確認調整 (7月・1月・2月)	○

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 和生園
施設長 松本 雄二

第4期中期計画のビジョン

一人ひとりがストレングスを活かした自己実現と
仕事を通じた社会とつながる施設を目指します

今年度は、新型コロナウイルス対策に始まって終了した1年でありました。ご利用者の楽しみとなるほとんど全ての行事が中止となってしまい、ご迷惑をおかけしたことは大変申し訳なく感じています。支援方法においても、通所いただいていた支援だけでなく、電話や訪問による在宅支援を実施することもありましたが、ほぼ例年に近い利用率を確保できたことに対し、深く感謝いたします。今後もひょうごスタイル「新型コロナ うつらない、うつさない」を常に意識して、3密の回避やマスクの着用、手指消毒の励行、施設内の消毒、ご利用者・職員の体調管理等を徹底して、with コロナを意識しながら業務や生活を続けていく必要性を強く感じています。

また、今年度は第4期中期計画の初年度でもあります。QOLの視点における実行計画を「現状に併せた作業の開拓とセイバンとの作業交渉」として立案しておりましたが、2020年度事業計画の提出後にセイバンからの申し出により「肩ベルト加工作業」契約の終了が決定してしまい、大きな見直しが必要となりました。しかし、肩ベルト加工作業に求められる精度が、ご利用者に可能な作業の限界を超えており、数年後には見切りをつけることは決めておりましたので、これをチャンスと切り替えて新たな作業の開拓に努めました。市内数社からの新規作業受託に加え、朝来市農林振興課の仲介により、農業分野への取り組みを進めています。今年度は市内農業生産者に協力する形で、但馬指定作物である「ピーマン」の収穫や「丹波黒豆」の葉取り作業に取り組みました。但馬は過疎地域であり、農地があっても農業従事者が不足している現状の中での朝来市初の農福連携事例として、これからの和生園の作業を模索する上でも大きな手掛かりになったと考えております。ただ、工賃の面では、肩ベルト加工作業収入を100%補えるものではありませんので、解決すべき大きな課題として残されております。

和生園（就労継続支援B型、就労移行支援、共同生活援助）が、ほぼ計画通りの利用率を確保できたにもかかわらず、決算では当初予算を大きく下回ってしまいました。原因は就労移行支援事業の予算編成をする際に、前年度の就職実績によって決定される訓練等給付費収入のランクを誤って収入見込みとしてしまったことと、共同生活援助では職員（世話人）の配置状況の把握ミスによる過誤請求における給付費の返還が原因であり、今後は同様の過誤を二度とする事が無いように肝に銘じます。

今年度より新たな工賃配分方法として、新工賃システムの導入と定着に取り組みしました。前年までは、ご利用者全員をひとつの指標で作業内容を評価していましたが、ご利用者一人一人が異なる目的で通所されていることを鑑み、工賃配分方法を4通りのコース「安心」「安全」「しっかり」「エキスパート」に分け、ご本人ご家族と十分話し合いを持った上で、コースを選択していただきました。加えて、支援体制の向上を目的に、ご利用者の意思決定支援にかかる研修会（グループワーク）を実施しました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
施設内理念研修の実施	①施設内理念研修会開催 (1回/年)	ア)小西牧師による礼拝 (7・9・10・11・12・1・2・3月) イ)理事長による理念講話の実施 (10月) ウ)グループホーム世話人連絡会は 小西牧師の礼拝の時間を持って 開始(10月より偶数月)	◎
理念研修への参加	①職員の参加	ア)但馬地区キリスト教福祉基礎研修を職員2名が受講 (9・10・11月)	◎
神戸聖隷ハンドブックの活用	①3か月毎の職員会議で活用 (4回/年)	ア)毎月の職員会議で神戸聖隷ハンドブックを全員で声に出し回読	○
ご利用者への困り事への柔軟な対応	①困り事調査と対応(9・3月)	ア)コロナ禍による緊急事態宣言発令中、在宅待機の困難な利用者をグループホームで受入れ (4・5月) イ)道路工事により最寄り停留所の利用が出来なくなった利用者の送迎実施(6月) ウ)困り事調査を実施し、送迎ニーズへの対応実施(10月)	○
和生園・グループホームの広報紙の継続と発行	①広報紙「かける」発行 (12月)	ア)広報紙編集委員会を開催(7月) イ)広報紙2号「かける」発行 (12月)	◎
和生園外壁へ神戸聖隷マークの掲示	①神戸聖隷マークの掲示	ア)神戸聖隷福祉事業団シンボルマークを門壁へ掲示完了(7月)	◎
施設内へキリスト教を象徴した掲示物等の工夫	①掲示物の検討	ア)掲示物について検討を開始するが、予算計上されていないことが判明し、2021年度へ先送り (10月)	×

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
職員確保の工夫	①業務内容の文書化とチラシ作製、ポスティング	ア) グループホーム世話人に係る職員募集チラシ4,000枚配布(8月) イ) 秋葉台地区内全戸に職員募集チラシをポスティング(8月) ウ) グループホーム世話人就職希望者3名の面接を9月に実施し、10月より就業 エ) グループホーム世話人配置基準6:1→5:1への変更届を提出(12月1日より適用)	◎
様々なメディアにて求人を実施 (グループホーム世話人・夜勤者 or 宿直者を含む)	①ハローワーク、新聞折り込み等を活用し求人を実施	ア) ハローワークへの求人により、和生園で職員4名採用(7月/3名・1月/1名) イ) グループホーム世話人募集チラシ配布(8月) 新聞折り込み3,250枚 ポスティング約450戸 金融機関、飲食店へ置きチラシの依頼	◎
勤務時間や業務内容の見直し	①現状の業務内容の文書化	ア) エクセル帳票の電子印鑑決裁によるペーパーレス化の推進を方針決定(12月)し、1月分ケア記録より試行(2月) イ) 和生園勤務時間変更(案)を提示し、次年度4月1日より変更予定(8:00~17:30→8:15~17:30)	△
新人・新任職員マニュアルの整備	①マニュアル作成	ア) 新人・新任マニュアル作成が完了し、各部署へ伝達実施(10月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
現状に併せた作業の開拓とセイバンの作業交渉	①情報収集、新作業の渉外	ア) 小泉製麻を訪問し作業に係る渉外を実施(4月) イ) セイバン/肩ベルト加工委託契約が終了(6月末日) ウ) 地元企業8社に作業受注に係る渉外に訪問し、2社より作業を受託(6・8月)	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
計画的な外部研修会参加と伝達研修の徹底	①職員毎の研修計画立案と派遣、伝達研修実施	キ) ジョブコーチ養成研修に 1 名受講申込みを行うも (1 月)、2 回目の緊急事態宣言の発出により研修が中止 (2 月)	○
虐待防止勉強会の開催	①勉強会の開催	ア) 障害者虐待対応力向上研修会に 1 名参加し、伝達研修を実施 (9・11 月) イ) 虐待・不適切ケア評価表を活用した事例検討会の実施 (12 月)	○
(グループホーム) 夜間支援体制の向上と実施	①夜間支援体制の方針決定と人員募集	ア) 夜間支援体制加算Ⅱに係る試算の実施 (8 月) イ) 夜間支援体制加算Ⅱの取得よりグループホーム世話人の確保を優先 (9 月) ウ) 夜間支援体制加算Ⅱに係る人員の確保は次年度に延期することを方針決定 (12 月)	△
(グループホーム) 世話人の確保	①様々な方法で職員を確保、5:1 体制の実施	ア) グループホーム世話人確保に係る職員募集チラシを 4,000 枚配布 (8 月) イ) 世話人就職希望者 3 名の面接を 9 月に実施し、10 月より就業 ウ) グループホーム世話人配置基準 6:1→5:1 への変更届を提出 (12 月 1 日より適用)	◎
客観的なサービス評価	①第三者評価和生園受審	ア) 第三者評価受審に係る説明会に 4 名が参加 (7 月) イ) 第三者評価を受審 (10 月) ウ) Web で第三者評価結果報告 (1 月)	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ニーズに応じた送迎サービスの実施	①送迎希望者数と希望理由の調査 (9・3 月) 及び内容検討	ア) 農福連携に係る利用者の柔軟な送迎を開始 (7 月) イ) 困り事調査にて送迎に係る調査を実施 (10 月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
送迎体制の整備	①職員の確保	7) 目標工賃達成指導員 1 名（常勤）を雇用し、十分な送迎体制を確保（7 月） ｲ) 農福連携に係る利用者を作業開始・終了時間に併せ、担当職員が送迎（7 月～12 月） ｳ) 送迎担当職員が利用者のヘルパー支援時間、医療機関受診時間等に併せ、個別送迎を実施（10 月） ｴ) 送迎担当職員が個別送迎を含め、朝、夕の送迎業務を開始（1 月）	◎
交通安全教育実施による安全運転意識の充実	①安全運転講習会開催（7 月）と危険箇所の共有	7) 安全運転講習会に係る OJT を実施（7 月） ｲ) 利用者送迎区間内の危険箇所、要注意箇所の確認と共有（9 月）	○
月額平均工賃 22,000 円の確保	①作業に係る情報収集と渉外	7) 朝来市産業振興部、ハローワークを訪問し情報収集（5 月） ｲ) 朝来市農林振興課初の農福連携モデルケース協力要請を受け、ピーマン収穫作業を開始（7 月中旬～11 月上旬） ｳ) 黒豆生産者と連携し、葉取り作業を開始（11 月下旬～12 月 10 日） ｴ) 新規作業開拓に地元企業を 8 社訪問し 2 社より作業を受託（6・8 月） ｵ) 「ケアセンターながた」より清拭タオル 180 枚/毎月納入を正式受注（10 月） ｶ) 南但広域行政事務組合と製袋作業に係る作業単価交渉を実施し、次年度 4 月分から現行単価より 0.5 円上乘せ（大 15.7 円→16.2 円、小 10.7 円→11.2 円）確定（3 月） ｷ) 工賃配分総額：6,484,000 円 月額平均工賃：14,300 円	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
目標利用人数の達成	①利用ニーズに合わせた柔軟な対応	ア) コロナ禍に伴う緊急事態宣言発令に基づき、利用者に自宅待機を協力要請（4月） イ) コロナ禍による自宅待機者への在宅支援を実施（1回目の緊急事態宣言発令期間） ウ) コロナ禍による緊急事態宣言発出中に、在宅待機の困難な利用者をグループホームで受入れ（4・5月） エ) 但馬地域内各相談支援事業所訪問し、事業案内を実施（10月） オ) 利用者の在宅時間での都合に合わせた個別送迎を実施し、利用率の低い利用者の利用日数が増	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域清掃活動の継続（第2和生園）	①毎週水曜日に実施	ア) 新型コロナ感染防止のため清掃活動を一時停止するも、6月より再開（6～3月） イ) 朝来市町づくり功労者表彰受賞（3月）	◎
資源回収への人的、物的労力での協力を継続（和生園）	①資源回収への人的、物的労力の提供（5・10・3月）	ア) 地区の資源回収に車両を提供し、職員1名が協力（6・10・3月）	○
地区行事への積極的な協力	①地区行事への協力	ア) コロナ禍による感染拡大防止のため、地区行事は全て中止 イ) 施設周辺除草作業実施（6・8・11月） ウ) 自治会からの依頼を受け、集会所周辺の除草作業を実施（9月）	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地区行事への積極的な協力	①地区行事への協力	エ) 秋葉台 3 区自治会から災害時一時避難所指定要請を受け受託 (9 月) ㉞) 秋葉台 3 区の避難訓練に協力。避難訓練終了後、和生園の解錠、施錠訓練、避難所使用可能範囲について説明 (10 月)	○
秋葉台 3 区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出と活動への協力	①秋葉台 3 区ボランティアサークルへお手伝いの申出	ア) 秋葉台 3 区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出を行う (4 月) イ) 住民ボランティアによる地区内除草作業に一部協力 (6 月) ウ) 秋葉台 3 区と和生園を災害発生時一次避難所とする協定を締結 (9 月) エ) 秋葉台 3 区ボランティアサークルからの清掃ボランティア申出を受け、職員も協力 (12 月)	○
自立支援協議会への積極的参加	①朝来市自立支援協議会発足に参画	ア) 朝来市自立支援協議会打合せに出席 (7 月) イ) 朝来市自立支援協議会全体会議への参画依頼あり受託 (8 月) ウ) 朝来市自立支援協議会課題抽出部会に出席 (11 月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
無賃残業ゼロの徹底	①勤怠管理システムとセキュリティ施錠時刻の突合	ア) セキュリティ施錠時刻と退勤時間の乖離の有無を確認 イ) サービス残業ゼロを職員会議で説明 (5 月)	△
働き方改革に対する知識と意識の向上	①施設内研修の実施 (5 月)	ア) 働き方改革勉強会を松井一恵社会保険労務士へ講師依頼 新年度を意識し、3 月実施で日程調整 (10 月) イ) 働き方改革勉強会は、緊急事態宣言発出を受け延期 (1 月)	△

2. 出来した事案

- (1) グループホーム利用者が建造物不法侵入による警察での任意同行への対応について(9月)
自宅へ帰宅中のグループホームかしの木男性利用者が、夜明け前、「道の駅 やぶ」の身体障害者用女性トイレの中に特別な理由がなく入っていた。との事で建造物不法侵入として、警らパトロール中の警察官に発見され、養父警察署にて任意同行による聴取中であるとの連絡を受けました。警察署からは本人確認が出来る証明書の持参と、職員による本人確認に出頭依頼があり、養父警察署にて身元引受け同意書への署名、捺印、本人確認等の対応を行いました。グループホームかしの木利用が明確であることを理由とし、在宅捜査での対応となり、9月28日に聴取が終了しました。

- (2) グループホーム利用者の利用契約を継続しがたい言動等による、契約解除について(1月)
11月に新規利用契約を行った男性利用者による職員への威嚇、不穏行為、大音量での音楽再生による近隣住民への迷惑行為の継続、無断で深夜帯に男女3名をグループホーム内へ引き入れ、他利用者への心理的負担に繋がる行動など、「グループホーム利用契約第20条第2項・第3項」に該当する行為が継続しました。家族への状況報告を都度行いながら、両親へ利用契約を継続しがたい重大な事情の発生と、改善が見込めないため、両親を含めた契約解除を行わせて頂くための面談を実施しました。今後の本人処遇を両親に決めて頂くために利用契約解除は1月末日とし、面談を進めて行く中で発生した本人と義父との口論が原因となり、本人が父親を突き倒す行為が発生、同時に実母が朝来警察署(現南但馬警察署)へ通報、駆け付けた警察官による逮捕、勾留となる事態が発生しました。その後、本人はグループホームに戻られることなく1月末日を迎え、利用契約解除となりました。

- (3) グループホームに係るサービス提供職員(世話人)欠如減算の返還完了について(3月)
2019年9月に実施された兵庫県指導監査で指導を受けましたサービス提供職員(世話人)欠如減算に係る返還額3,271,230円につきまして、4月より返還を開始し、3月に行った訓練等給付費請求で返還終了となりました。

2020年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 北但広域療育センター
施設長 久木田 憲彦

第4期中期計画のビジョン

専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立

新型コロナウイルスの感染拡大により、当初計画していた事業を中止せざるを得ない状況に陥りましたが、その一方でオンラインを活用した会議・研修の参加・開催といった、新たな手法での取り組みを開始することができました。

児童発達支援センター「すまいる」では、年度当初より新規児童の療育を開始することができず、6月以降制限された環境の中で少しずつ利用を伸ばし、年度末までに34名の利用を開始することができました。また、保育所等訪問においては、学校・園が再開されるのを待ったかのように利用希望があり、コロナ禍にあっても円滑な集団生活を送ることができるように関係機関と連携しながら支援を行いました。

放課後等デイサービス「らみい」でも、小学校の臨時休業により全く利用はなくなりましたが、再開と同時に計画以上の利用となり、長期休業明けのスムーズな通学へ向けての支援を行うとともに、夏休みが短縮されたことにより例年以上の利用に繋がりました。

障害児者通所支援事業「トゥモロー」には重症心身障害児者が利用されており、入浴等の日常生活に必要な支援やリハビリの必要な方が多く、関係者の入室制限や利用時間を調整する等による個別支援を心掛け感染防止に務めました。

いずれの事業も利用自粛の期間中、電話での健康状況の把握やスムーズな利用に繋げるために、本人のみならず家族への支援を継続して実施しました。

「ぴあほくたん」「クローバー豊岡ランチ」が行う相談支援については、可能な限り電話での対応をさせていただきましたが、対面を希望される方へはクリアボードを設置して極力最小限で実施しました。

また、相談支援事業「ぴあほくたん」では、障害福祉サービスを利用するうえで必要な計画相談について、市内全域で需要と供給のバランスが崩れてしまい、セルフプランを余儀なくされる方もあり、今後の相談支援体制の充実が望まれます。

これまで課題となっている家族への情報提供・発信を強化するために、事業ごとの保護者会の開催やメール配信サービスの導入を行うとともに、オンラインでの研修受講や外部向け研修の実施等、新型コロナウイルス感染拡大状況に応じ、新たな手法も取り入れることができました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
理事長・牧師との相互交流による理念の浸透	①理事長への依頼・日程調整 ②職員会議にて理事長による講話を実施 ③牧師への依頼・日程調整 ④職員会議にて牧師による講話を実施	①② ア) 実施時期を秋に決定するも新型コロナウイルスの影響で中止 ③④ ア) 実施時期を冬に決定するも新型コロナウイルスの影響で中止	×
法人内外への理念研修への参加	①他法人理念研修への参加メンバーの選定 ②他法人理念研修へ参加 ③職員会議での伝達研修による情報共有	①②③ ア) 新型コロナウイルスの影響で研修中止	×
基本理念に基づく部門ごとの基本方針の策定	①各部署にて意見集約 ②部会議にて検討、決定、職員への周知 ③保護者・家族への周知	① ア) 会議にて周知 ② ア) 部署会議にて決定 ③ ア) 次年度保護者会等で周知予定	△

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
外部研修への積極的参加と内部研修の実施	①年間研修計画の策定 ②部会議にて内部研修計画を策定 ③外部研修への参加	① ア) 新型コロナウイルスの影響で未策定 ② ア) 新型コロナウイルスの影響で未策定 イ) 会議にて必要に応じて実施 ③ ア) LITALICO 研修 (課長：6, 8, 3月) イ) 先生のための学習会 (8月) ウ) ASD 支援者講座 (ぴあ) (8月～1月) エ) 家庭療育支援講座 (ランチ：9月) オ) 介護技術研修 (トゥモロー) (3名：10, 12, 3月) カ) 相談支援従事者初任者研修 (ぴあ：10, 12, 3月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
外部研修への積極的参加と内部研修の実施	③外部研修への参加 ④内部研修の実施	キ) 医療ケア児支援者養成研修 (びあ: 11, 12 月) ク) アセスメントスキル向上研修 (びあ: 11 月) ケ) 成年後見研修 (びあ: 11, 2 月) コ) 相談支援研修 (びあ: 12, 2 月) カ) 発達支援センター近畿地区 研修 (ブランチ: 12 月) シ) 安全運転管理者研修 (1 月) ④ ア) 新人研修 (4, 7, 8 月) イ) 虐待防止研修 (7 月) ウ) すまいる研修 (9, 10, 11, 3 月) エ) らみい研修 (9, 10, 12, 2 月) オ) 感染症研修 (11 月)	○
先進施設見学による体制強化	①聖隷福祉事業団の児童発達支援センター見学を計画 ②児童発達支援センターへの見学研修を実施 ③研修結果を共有し、体制強化に向けて改善策を検討	①②③ ア) 新型コロナの影響で中止し、 研修教材サービス導入へ変更 (7 月) イ) 研修教材サービスを導入し、 教材サービスの使用を開始 (9 月) ウ) 研修教材サービスの研修サー ビスの運用方法を検討開始 (9 月)	○
職員の定着による後継者育成	①エルダー制度に関する情報収集 ②エルダー制度導入に向けて職員へ周知 ③エルダー制度導入マニュアルの作成 ④エルダー制度の導入	①②③④ ア) 法人内情報を収集 ② ア) 新採用職員への担当エルダー を周知 ③ ア) 目標・振り返りシート作成 ④ ア) 暫定的に試行 (2020 年度: 4 名)	△

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
指定管理下の職員配置基準見直し交渉	①職員の適正配置について検討 ②必要に応じて指定管理の配置基準について市と交渉	① ア) 配置基準と利用状況を確認 ② ア) 1市2町会議にて相談支援体制等を検討(10月)	△

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
外部ソフトの導入による一部アセスメントの数値化と視覚化	①運動・感覚に関するアセスメントソフト導入計画策定 ②業者との導入に向けた綿密な打ち合わせの実施 ③ソフト内容の職員への説明・周知 ④ソフトのプレ導入 ⑤ソフトの導入	①②③④⑤ ア) 部署会議にて職員へ周知(5月) イ) サンプルソフトで療法士が1名試行(5月) ウ) 本格導入(7月) エ) 各事業保護者会にて説明(8・9月) オ) 理学療法士の退職により中断	○
コミュニケーション機器についての情報収集及びそれら先進機器の導入と活用	①コミュニケーション機器についての情報収集 ②先進機器の視察を実施 ③トゥモローでの活用方法について検討	① ア) 情報収集により2商品の試行を検討(5月) ② ア) 新型コロナの影響で未実施 ③ ア) Ipad 操作アイテム導入の検討試行(5, 6, 7月) イ) 保護者会にて説明(9月)	○
保護者への情報提供とニーズへの適切な対応	①保護者会開催方法の改善による円滑な情報提供の実施 ②SNSを活用した情報提供手段に関する情報収集 ③センターでの活用について部会議にて検討 ④保護者への情報手段の試行	① ア) 事業ごとの保護者会開催(8, 9月) ②③④ ア) オンライン併用での保護者会を設定(7月) イ) 保護者会にてイメージを説明(8, 9月) ウ) アンケート結果を法人ホームページで公開(1月) エ) メール配信サービス試行による登録依頼(1~3月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
保護者同士のつながりを持つ場の提供	①保護者同士のつながりを持つ場として「すまいるカフェ」「らみいカフェ」の開催を計画 ②「すまいるカフェ」「らみいカフェ」の保護者への周知 ③カフェを開催しつながりの場を提供	①②③ ア) 新型コロナの影響で開催を延期（4～6月） イ) すまいるカフェ（7、10月）らみいカフェ（11、1月） ウ) 保護者会にてイベント開催を周知（8、9月） エ) 感染防止対策のための環境整備を実施（補助金活用）	○
発達検査室、面接相談室間のプライバシー確保	①発達検査室、面接相談室間の改修可否の確認 ②改修可能であれば施工	①② ア) 原則、原状復帰を市へ確認 ② ア) 緩衝材使用し試行（8月） イ) 面談と Web 研修で有効活用	◎
老朽化対策と療育・相談スペース拡大の検討	①改善箇所について検討 ②相談スペース拡大について検討 ③必要に応じて市へ提案し協議	①②③ ア) 駐車場対策を市と協議（4月） イ) 新型コロナ対策を含めた検討 ウ) 市建築物調査実施（8月） エ) 市へ事務・相談スペース不足を提言（9、2月） オ) 市建物老朽化診断実施（10月） カ) 市と修繕箇所の検討（11月） キ) 駐車場ライン塗布（3月）	△

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
組織再編による加算取得	①算定可能な加算の調査、シミュレーションの実施 ②事業ごとの適正な組織体制の検討 ③センター全体の組織再編について検討	① ア) 加算対応のための研修受講（びあ：11、12、3月） イ) 減算対応のための研修受講（びあ：10、12、3月） ウ) 報酬改定に伴う加算確認（2、3月） ② ア) 配置基準と利用状況を確認 ③ ア) 市へ児童発達支援センターとしてびあほくたんの体制を提言（9、2月）	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
療育体制の改善	①利用ニーズの適切な把握 ②利用ニーズに応じた療育体制の改善検討 ③魅力のあるプログラムの提供	① ア) 市障害者福祉計画グループインタビューを実施 (7月) イ) 保護者会にて情報収集 (8、9月) ウ) アンケート実施 (9、10月) エ) アンケート結果公表 (1月) オ) アンケート結果公表を保護者へ周知 (2月) ② ア) 研修教材サービス導入による改善策の検討 ③ ア) 順次プログラムを改善	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
一般市民や一般企業を対象にした啓発のための講演会・研修会の実施	①関係機関への講演会・研修会開催に関する情報収集 ②地域への講演会・研修会開催に関する情報収集 ③講演会・研修会開催に向けた検討実施	① ア) 市内校長会出席し、事業説明と情報を収集 (6月) ② ア) 新型コロナ感染防止のため保留 ③ ア) オンライン研修実施のためのシミュレーション実施 (7月) イ) 先生のための学習会を対面・オンライン併用で開催 (8月)	○
よりわかりやすく活動目的、内容をPRするための最新の情報発信方法の導入	①他施設PR方法の情報収集 ②SNSを活用したPR方法の試行 ③PR方法の改良を検討	①②③ ア) 法人ホームページへ情報掲載 イ) 保護者会にて情報提供実施 ウ) 独自のPR方法未実施 エ) 法人 facebook への投稿	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの充足と安定した経営の両立	①地域自立支援協議会での情報収集 ②ほっとかへんネットでの情報収集 ③必要に応じて事業再編等、市と協議	① ア) 市町自立支援協議会へ参加し情報収集 イ) 市町福祉計画策定委員会へ出席し情報収集を実施 ② ア) 新型コロナ対応のアンケート実施（12月） ③ ア) 市へ相談支援のあり方について提言（9, 2, 3月） イ) 市へらみい立地条件の悪さを提言（9, 2月）	△
効率的な事業運営	①センターの現状の分析 ②地域の動向を分析 ③効率的な事業運営に向けて事業再編等の検討	① ア) 新型コロナの影響で異例の事業展開のため分析できず イ) 上半期で通常へ回復 ウ) コロナ感染状況に配慮した新規利用の開始（すまいる：6月～3月 34名） ② ア) 市町に2箇所新規事業開設 ③ ア) 事業ごとの課題抽出	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
正規職員、非正規職員を適正に配置した組織づくり	①働きやすい職場環境の実現に向け、適正な職員配置について検討	ア) 配置基準と利用状況を確認 イ) 重責を担う非正規職員の登用 ウ) 給付費と人件費のバランスのシミュレーション実施	△
雇用形態に応じた明確な職務分掌の作成	①雇用形態に応じた現状の職務分掌を分析 ②職務分掌の明確化に向け検討 ③業務が偏らない適正な職務分掌の実施	①②③ ア) 勤務状況・スケジュールを把握 イ) 主要職務の洗い出し	△
業務内容の把握と整理	①各事業の業務内容を把握	ア) 勤務スケジュールを把握 イ) 時間ごとの業務効率化を職制レベルで検討	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
療育に特化した記録ソフトの導入による業務効率化	①記録ソフト導入計画の策定 ②業者との導入に向けた綿密な打ち合わせの実施 ③内容の職員への周知と共有 ④記録ソフトの導入 ⑤記録ソフトの活用と振り返り	① ア) 研修教材ソフトの優先導入により凍結 イ) 記録マニュアルの改善 ウ) 研修教材ソフトと連動した様式活用の検討	△
各部署内、部署間でのスムーズな情報伝達・共有を進めるためのソフト導入	①情報伝達ソフト導入に向け、部会議にて情報共有・検討 ②導入に向け、対応 OS へ更新	① ア) 研修教材ソフトの優先導入により凍結 イ) 導入延期により現行データを一元化 ウ) 研修教材ソフトと連動した様式活用の検討 ② ア) パソコンを 6 台更新し、Windows10 未対応は残 1 台	△

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 エスポワールこじか
 施設長 伊崎 辰夫

第4期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源に（物も人も）なる

第4期中期計画に掲げる「次世代育成の基礎を固める」重要なスタートが、新型コロナウイルス感染症予防対策による利用自粛や検温の実施、マスク着用と手指消毒、活動中の三密回避、換気、面談時や事務所のアクリル板設置など施設内感染予防の徹底対応に追われ、はっきりと目標を定めた働きが出来ない1年となりました。

そのような中、「療育プログラムの多様性への挑戦」としては、三密対策としても利用できた「完全個別プログラム」や「母子分離プログラム」を設け、パターン化した療育活動から少し変化をつけることで別角度からの児童の特性を確認することが出来ました。また保護者的には少し離れて我が子を見ることが出来たり、心の休息等にも役立ちました。初めての外出プログラム「バスにのっておでかけ」を実施し、屋外での療育活動へ繋がる一歩となりました。

次に、少人数の事業所のため、一人の仕事としないことと意識改革に向けた「OJT の実践」に取り組みました。アセスメント体験、保護者学習会講師体験、見学者の案内体験、訪問調査体験などの実践を通して一人ひとりのスキルアップにも繋がってきています。また、準職員への人事考課を法人の人事考課評価表を基に行いました。まだ面談のツールとしての使い方ではありますが、自身の強み弱みの把握とコミュニケーションを図ることができ、職場内の信頼関係作りにも役立ったと感じます。

利用目標人数は年度当初から小学生グループの見込み違いやコロナ過の利用自粛などはありませんでしたが、対目標値プラス57人と目標を達成することができました。相談事業を含めた件数や収入など概ね予定通りに運営できましたし、次年度恵生園が運営する新事業「放課後等デイサービスめぐみ」の立ち上げに、建物設計から運営方針、事業申請、スタッフの派遣や雇用など全面的に協力し、新年度のスムーズなスタートへ繋げることができました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
理念の研修、ハンドブックの活用	①理事長・牧師等による理念勉強会の実施 ②ハンドブックの職員会議での活用	① ア)理事長による理念勉強会 (6月)9名出席 イ)小西牧師によるキリスト教福祉勉強会:(8月)8名出席 :(11月)8名出席 ② ア)毎月職員会議にて唱和	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
聖書の唱和 基本理念の 唱和	①聖書・基本理念、運営方針、 平和をを求める祈りの朝礼時 唱和	ア)聖書朗読「ヨハネによる福音 書 12 章 27 節」より開始 6 月より「コリントの信徒へ の手紙一と二」、1月より「マ タイによる福音書 1 章 1 節」4 回目を毎日朝礼にて唱和 「基本理念、施設方針、平和 をを求める祈り」の唱和継続	◎

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
施設内研修 の充実	①施設内ビデオ研修継続 ②伝達研修の工夫と実施 ③スーパーバイズによる研修	① ア)年間 8 回実施、コロナ関係で カンファレンス等に変更 ② ア)コロナの関係で外部研修なし ③ ア)4 月「発達検査の見方」 5 月「コミュニケーション支援」 6 月「コミュニケーション支援」 7 月「スタッフ指導 1」 9 月「スタッフ指導 2」	○
専門研修の 参加奨励	①強度行動障害支援者養成・ 発達障害実務者養成研修等 の受講 ②虐待防止チェックリスト実 施、虐待防止研修の実施	① ア)サビ児管更新研修受講 イ)相談支援従事者初任者研修受 講 (11 月～3 月) ウ)強度行動障害支援者養成基礎 研修受講不可(12 月) ② ア)虐待防止事例学習会 (5 月) イ)虐待防止チェックリスト 9 月と 2 月に実施	○
地域に出向 いてスキル アップを図 る	①園校に依頼による派遣と評 価の実施 ②のびのび教室等地域の育児 支援への協力	① ア)コロナの影響で 6 月～9 月 延べ 14 か所 25 名が訪問 イ)10 月～3 月延べ 13 か所に 18 人訪問 ウ)訪問時のポイント (案) 作成 ② ア)コロナの影響で今年度中止	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
施設内での役割の明確化	<p>①OJT(施設内教育)の実施(仕組み作り:何を誰が誰に)</p> <p>②準職員への法人の人事考課評価表(共通・専門評価表)での評価実施</p>	<p>①</p> <p>ア)アセスメント体験1名、保護者学習会講師体験1名、施設見学案内体験2名、訪問調査体験1名実施</p> <p>イ)育成担当へ施設長面談</p> <p>②</p> <p>ア)法人人事考課評価表使用を含めた説明と面談を準職員5名に実施</p> <p>イ)副主任による評価表を基にした面談(3月)</p>	○

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
放課後等デイサービスの準備協力	<p>①運営方針確定(事業内容の確定、他事業所との差別化、こじかとの連携等の検討、他施設見学、同業者・相談支援業者との引継ぎなど)</p>	<p>ア)恵生園との連携によるスケジュール作成(4月)</p> <p>イ)建築関係の確認、毎月の進捗報告会議の開催、申請関係の確認、関係機関への挨拶、チラシ作りなど実施(9月)</p> <p>ウ)事業申請関係理事会承認(11月)、建物完了検査・放課後等デイサービスめぐみ事前ヒアリング(1月)、事業申請(2月)、めぐみスタッフ見学(3月)</p> <p>エ)こじかスタッフをめぐみ準備へ派遣</p>	◎
保護者勉強会の実施	<p>①6回以上の保護者学習会</p>	<p>①</p> <p>ア)7回実施 保護者延べ41名参加 「療育の意味と役割について」6月、「子育ての工夫」7月、「メンターさんによる相談会」9月・12月、「発達検査について」10月、「就学前に準備する事」11月、「言葉の発達について」1月</p>	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
保護者勉強会の実施	②小グループ勉強会の実施	② ア)6月1回、7月1回、9月2回 「こどもの行動を理解しよう」「家庭での工夫、困り事について」 イ)2月3回「サポートファイルの作りかたについて」 講師：山根 毎回4名～5名参加	
満足度アップ	①満足度調査実施とホームページへの公表 ②年2回の保護者面談実施 ③ボランティアの開拓（確保に向けた検討。個人、団体へ依頼）	① ア)9月7日～10月で実施 56家族へ配布。回収54家族 回収率96%、平均満足度84% イ)結果は、神戸聖隷福祉事業団ホームページに公表（12月） ② ア)9月28日より50名実施 イ)3月18日より54名実施 ③ ア)新型コロナウイルスの影響で4月中旬より中止。（安心の判断基準不明） イ)市へ他の団体情報提供依頼	○
なんでも相談の実施	①なんでも相談の随時対応と周知の工夫	ア)フローチャート案作成 イ)上期電話9件、来園7件対応 ウ)下期電話8件、来園3件対応	○
医師による相談支援	①毎月のDr療育相談継続	ア)自粛期間の5月以外は毎月実施	◎
個々に必要な支援計画の作成	①超早期療育継続 ②個々に必要な個別療育プログラム作成との実施（母子分離、外出など）	① ア)7月以降に1歳児利用 ② ア)母子分離時間設定（家庭生活の困り感軽減目的、母の休息目的）、完全個別プログラムの実施 イ)外出プログラム（バスにのっておでかけ）実施、5名参加（11月）	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
目標の設定と達成	① 目標利用人数の達成 1,963 人 (84.5%) ② サービス利用計画 70 件、 継続サービス利用計画 160 件	① ア) 目標 1,963 人に対し、2,020 人と 57 人増 86% 達成 ② ア) サービス利用計画目標 71 件に対し 67 件 イ) 継続サービス利用計画 155 件に対し 159 件 8 件減	○
保護者希望時間の配慮	① 欠席による振替実施率 30% の達成	ア) 欠席依頼 358 件中 79 回の振替実施 22% 目標未達	△
専門療育の実施	① 毎月の事業報告と市町による評価の実施	ア) 毎月事業報告を提出 イ) 2 市 1 町福祉課長との運営委員会 1 回目実施 (6 月)、2 回目オンライン実施 (12 月) ウ) 2 市 1 町実務者合同連絡会 (福祉課、健康課、こども育成課) (3 月)	◎
経営状況を意識する	① 毎月利用状況の共有 (人数と収支) の報告 ② 四半期における経営状況報告	① ア) 毎月利用人数、利用率、目標値対比、昨年度対比を職員と確認 ② ア) 4 月～6 月の収支状況を職員会議にて報告 イ) 半期報告実施 (10 月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	上期実施状況	達成度
地域関係機関との良好な関係作り	① 園校訪問、参観の実施 ② 養父市、朝来市、香美町自立支援協議会参加への参画	① ア) コロナによる自粛明けから延べ 7 ヶ所訪問、参観延べ 7 ヶ所から来園。 イ) 10 月以降延べ 24 ヶ所訪問、参観延べ 5 ヶ所から来園。 ② ア) 香美町 (会員と実務者) イ) 朝来市 (副会長と実務者) ウ) 養父市 (会員と部会担当)	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域関係機関との良好な関係作り	③その他関係市町の委員会・協議会等への協力	③ ア) 朝来市適正就学相談会 7 回 イ) 圏域、朝来市、養父市、香美町相談支援会議 ウ) 朝来市福祉計画策定部会長、養父市福祉計画策定委員 エ) 養父市社会福祉協議会評議員、各市町要保護児童対策地域協議会個別支援会議、但馬地域特別支援連携協議会等	◎
オープン療育実施	①オープン療育計画と実施	ア) 2 市 1 町とのケース連絡会にて協力を依頼 イ) 10 月 2 回実施 6 家族参加	◎
情報発信ツールの見直し	①パンフレット見直し・作成 ②ホームページの活用内容検討 ③こじか便り毎月発行	① ア) 新しいパンフレット完成 ② ア) 毎月こじか便りを掲載 ③ ア) 保護者・関係機関へ毎月配布	◎

(6) 人事労務危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	上期実施状況	達成度
労務管理の徹底	①有休消化率 55%達成 ②ノー残業デーの徹底	① ア) 約 63%消化達成 ② ア) 毎週水曜日実施を徹底	◎
業務の効率化	①時間外労働の調査と削減対策検討	ア) 反省会の内容見直し、PC 購入により改善傾向 イ) 評価面談にて聞き取り、持ち帰り仕事の大幅な削減を報告	○
リスクの意識付け (ヒヤリハット、事故、苦情、個人情報など)	①リスクの勉強会の計画と実施 ②避難訓練への取り組み (火災・風水害避難訓練、不審者侵入訓練)	① ア) 外部研修未開催 ② ア) 夜に緊急連絡網訓練 (5 月) イ) 風水害避難訓練 (9 月) ウ) 地震想定避難訓練 (3 月) 児童参加は未実施	△

2. 出来た事実
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸聖生園
 施設長 西郷 昌一

第 4 期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

新型コロナウイルスの発生により、日常生活においてすべてを見直さざるを得なくなりました。神戸聖生園においても日々の利用において、利用者職員の安全をいかに確保するかに多くの時間と手間をとられました。

そうした中で、今年度の実行計画への影響が大きく、多くの計画が延期や見直しに迫られ、今年度に予定されていた計画が未実施となりました。その中で大きな出来事として、「おいでやすカーニバル」の中止、礼拝の中止、日帰り旅行の中止などが挙げられます。その他にも大きな影響があり、利用者処遇のみならず、職員の研修にも影を落としました。その中で、牧師による理念理解のための聖書解釈を書き物にして職員に配布できたことは研修の一助となり新たな取り組みとして、評価できます。また、近隣の公園までの外出や少人数でのドライブなどいわゆる三密をさけながらの行事ができたことは感謝です。

新型コロナウイルスの感染に危惧しながらも、日々の体温測定や手洗い、消毒の実施など、利用者、利用者家族、職員がしっかり取り組めたことは評価できます。引き続き、新年度においても防疫体制を整え、感染者が発生しないよう対策を強化していきます。

1. 推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人の原点を知る黎明期の法人を知る方から話しを聞く機会を持つ	①4 名の職員が歴史資料館訪問と顧問、理事による黎明期の話を聞く	ア) 歴史資料館見学未実施 (コロナ渦による見送り) イ) 理事による黎明期の講話未実施 (歴史資料館見学未実施による延期)	×
キリスト教基礎研修の参加	①2 名の職員がキリスト教基礎講座に参加する	ア) 11 月 5 日、16 日のキリスト教講座に 3 名出席	◎
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①週 1 回の基本理念の唱和と週 1 回のハンドブックの輪読	ア) 毎週朝礼で実施	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学ぶ機会を持つ	ア) 理事長による講話実施 (9/24) イ) 牧師より理念に関する奨励を文書で受け、全員に配布。(毎月) 吉川牧師、竹内牧師、松村牧師 ウ) 吉川牧師による講話実施 (8/31)	◎

(2) 人材育成・人材確保の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
研修の実施、新人向け虐待防止、接遇面等	①内部研修の実施 新人向け、虐待防止、接遇面 ②外部研修の実施 専門性等	① ア) 新着職員向けに内部研修随時実施。自閉症スペクトラム研修を特別に実施 ② ア) 2/18 オンラインによる自閉症スペクトラム研修受講	◎
生活介護施設の見学	①3 名以上の職員が生活介護施設の見学実施	ア) コロナ関係で未実施	×
外部研修報告/施設見学報告	①研修・見学報告の実施	ア) 職員会議にて受講生が講師になり、報告会実施	◎
実習生の受け入れ	①実習生の受け入れ調整 ②実習先との連携強化	① ア) 神戸常磐大学生、頌栄短大生の実習を受け入れ実施 ② ア) 実習希望大学等と連絡調整実施	◎

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
日帰り旅行の実施	①日帰り旅行の実施	ア) コロナ禍で今年度見送り 2~3 時間の車窓から見学のみのドライブ実施	×
紙すきの安定した活動	①作業場内での活動を行うためのハード面の整備	ア) 作業場内に設置完了	◎
休憩できる場所の確保	①利用者、職員の休憩場等の検討	ア) 温室撤去跡地に部屋として使える倉庫を休憩室として利用	◎

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
友が丘プロジェクトへの対応	①プチハウス、8番倉庫等の撤去・整理 ②物置の設置 ③せきもりの移転	① ア) 撤去完了 ② ア) 設置完了 ③ ア) 3月移動完了	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
外部向けアピール	①職員名札の使用 職員が名札を携帯して利用者、家族、来園者へのアピール	ア) 実施し、継続中	◎
職制会での収支分析・加算等の周知	①職制会の実施 収支状況の確認と分析、報告	ア) 月次報告と収支状況について検討。減収の原因を確認	◎
祝日開所の継続	①祝日開所の実施	ア) 祝日開所実施 9/22 ミニおいでやすカーニバルとして特別実施	◎
営業時間を15:30とすることを検討する	①検討会議の実施 利用者、家族に理解してもらえるように職員間で協議	ア) 検討と一部試行実施 (15:00、15:15、15:30)	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
太極拳、ことぶき喫茶で交流	①太極拳、ことぶき喫茶で交流	ア) コロナ禍で未実施。主催者が開催見合わせ	×
ボランティアの受け入れ	①ボランティアの受け入れ	ア) コロナ禍で未実施	×
ゴミステーション清掃の実施	①ゴミステーション清掃の実施	ア) 実施	◎
新せきもりの活動充実と地域交流	①検討会議の実施 地域と交流が可能か検討する	ア) 未実施	×

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の 実施・防犯 訓練の実施	①避難訓練の実施	ア) 神戸聖生園独自での実施 2021 年 2 月 17 日 イ) 三園合同にて実施 2021 年 3 月 18 日	◎
感染症対策 の実施	①感染症対策の実施	ア) 指針に沿って実施	◎
パソコン (WIN7) へ の対応	①パソコン 6 台の購入 (交換)	ア) 実施	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームせいいいやまて
 管理者 西郷 昌一

グループホームせいいいやまての基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

住環境が整えられた中での、2年目を迎えました。7名の利用者の生活の中、特に朝夕の時間帯に支援の厚みが必要なり、夜間帯の2名体制を確保しました。そのため、職員の確保に努めましたが、応募者の少なさや職員の定着がうまくいかず、バックアップ施設からの応援を実施し、安定した運営ができるように努めました。また、職員の定着や事業のスムーズな運営の為、サービス管理責任者を主とし、支援員との連絡を密にすることで支援の共有化や日頃の生活におけるニーズへの対応がスマートに実施できました。

コロナ禍で4月、5月の利用が特に減少し、計画通りの利用には至りませんでした。緊急事態宣言解除から徐々に普通のホームの姿に戻りつつあります。

1. 推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	ア) 基本理念唱和は職員会議で実施 イ) ハンドブック輪読は4月、12月で実施	○
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習	ア) 理事長を招いての勉強会は未実施 イ) 牧師から基本理念に関係する聖書の話を書面にて提供していただき配布を実施	△

(2) 人財育成・人材確保の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続	① ア) 聖生園で行った知的障害者の支援に関する研修会に参加 ② ア) コロナ禍のため未実施 ③ ア) 継続的に実施（毎月） ④ ア) 実施（朝、夕の動きなど随時）	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	① ア) 法令順守は研修にて実施する。マニュアル化は必要に応じて変更し、共有 ② ア) 職員会議で実施（8月、2月） ③ ア) 職員会議にて内容説明のみ実施 ④ ア) 実施（9月）	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 個々の必要に応じ随時実施 ② ア) 傷病時・緊急時実施体制 ③ ア) 利用者の状況に合わせた送迎実施	◎
安心・安全な生活の提供(管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期的訪問・顔の見える支援（2回/月の実施） ②問題や相談に対して速やかな対応実施 ③避難経路の掲示	① ア) 朝、夕の訪問を実施（随時） ② ア) 利用者のガイドヘルパー利用や病院受診、物品購入などの相談に関して対応実施（随時） ③ ア) 掲示実施	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①利用率 89%を目指す ②家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施継続 ③週末帰省のない利用者対応を含め 365 日開所を継続	① ア)未達成 (83.9%) ② ア)4月から5月緊急事態宣言により未実施。6月～実施要請 ③ ア)実施	◎
支援者の安定的雇用	①支援者間の連絡・調整の実施 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット	① ア)連絡ノート実施。必要に応じ、TELなど連絡実施 ② ア)検証し、職制で方向性を確認	○
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理）継続	① ア)計画的バックアップ実施(勤務表掲載) ② ア)グループホーム内にマニュアルを設置して実施	◎

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等)	ア)近隣へのあいさつを実施	△
環境美化	①除草の実施（年2回）	ア)実施（随時）	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施（2回/年）	ア)1回実施	△
感染症対策の実施	①感染症対策の実施	ア)消毒液、飛沫防止パーテーションの設置、体温自動測定カメラなど随時実施	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームたいのはた東
管理者 西郷 昌一

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

グループホームたいのはた東は、第4期中期計画にあたり地域交流の強化と地域貢献に力を注ぎ運営していく予定でしたが、新型コロナの影響が地域の清掃活動などにも影響し、地域での諸活動は実施できませんでした。それ以外も、外部的な活動を自粛しました。また、体験宿泊も新型コロナの影響で4～5月は中止し、6月以降も緊急事態宣言の再発出などにより、ほとんど実施できませんでした。これにより、予定数が大幅に少なくなっています。利用率にも影響を及ぼし、70%台に留まりました。

1. 推進状況

(1) 基本理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
基本理念の唱和/ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）	ア) 基本理念唱和は職員会議で実施 イ) ハンドブック輪読は4月、12月で実施	○
牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習	ア) 礼拝はコロナ対策のため未実施。代替えとして、竹内牧師執筆の基本理念に関するプリントを作成していただき配布を実施	△

(2) 人財育成・人材確保の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施（毎月第3金 14:00～ ④バックアップ職員と情報共有継続	① ア) 新型コロナの影響で未実施 内部研修として、職員会議で専門性の重要さを伝達 ② ア) コロナの影響で未実施 ③ ア) 毎月第2木 14:00～実施 ④ ア) 職制メンバーで確認、後方支援を実施	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第3金)の実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施 ④満足度調査の実施	① ア) 意識化は職員会議で伝達。マニュアル化は完成 ② ア) 職員会議にて実施(8月、2月)(チェックリスト配布時) ③ ア) 職員会議で説明のみ実施 ④ ア) 11月実施	◎
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 歯科受診、眼科受診など必要に応じ実施 ② ア) 入院時の見舞いや看護師との面談を実施 ③ ア) 利用者の状況に合わせた送迎を実施	◎

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問・顔の見える支援 (2回/月) ②地域の方たちとの関係構築、 交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	① ア)礼拝時や夕飯時に実施 ② ア)あいさつや清掃活動を実施 ③ ア)病院受診や送迎などの対応を実施 ④ ア)避難訓練を実施(9月28日)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
利用率の確保	①利用率85.6%維持を目指す ②体験型利用者受入れを延べ利用数10日/月を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④350日開所を目指す	① ア)未達成(達成率73.3%) ② ア)4月、5月コロナ禍のため、利用中止。6月～限定実施(経験者のみ) ③ ア)4月～5月緊急事態宣言により未実施。6月～実施要請。 ④ ア)達成(年間で360日実施)	○
コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し	① ア)喫食状況を家族と綿密に連絡。無駄を除去 ② ア)実施(職員会議で確認) ③ ア)実施(職員会議で確認)	○
支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材(知人等)情報の収集と確保	① ア)検討を実施 ② ア)職員からの紹介を依頼	○

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施（毎月）	① ア)実施（継続） ② ア)サービス管理責任者が調整を実施（不定期） ③ ア)外付けHDDをVPN内に設置し、実施 ④ ア)定期的に実施	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供（自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）	ア)地域全体の清掃は未実施 ホーム単独で清掃活動を実施	○
環境美化	①除草の実施（毎月）	ア)実施（適時）	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施（2回/年）	ア)実施（9月28日）	○
感染症対策の実施	①感染症対策の実施	ア)消毒液、飛沫防止パーテーションの設置、体温自動測定カメラなど随時実施	◎

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸愛生園
 施設長 加藤 航

第4期中期計画のビジョン

「ここにいて良かった」と言える施設作りを目指します。

今年度は新型コロナウイルス感染が世界的に大流行し、事業に大きな影響を受けました。肺炎の既往者や抵抗力の弱いご利用者が多くおられる施設の特性上、施設入所ご利用者の帰省・外出・他施設併用利用を控えて頂きました。ご家族・ボランティア様の来園規制等も行いました。通所の生活介護事業は神戸市の要請があり、ご利用者の利用自粛期間がありました。その間電話支援となりました。感染防止対策の下、職員も含め誰もがストレスの中で過ごした1年でした。

施設入所支援事業の収入については帰省・併用利用が無かったですが、大きく減らしていた欠員の急ピッチな補充をしましたが、下半期が主であったため当初予算比約1,350千円減。生活介護は概ね予算確保しましたが、短期入所は最も影響を受け約3,500千円の減収となりました。収益としても苦しい1年であり、事業計画も予定通り進められない1年でしたが、感染者が一人も発生しなかったことは何よりも大きな成果と言えます。

2019年12月より着任したEPA職員は今年度でローテーション勤務を概ね習得し、今や立派な一員となりました。1名がJLPT(日本語能力試験)N2に合格しました。新規マッチングはWeb上で、無事1名のインドネシア人女性とマッチング致しました。2022年2月着任予定です。

生育歴の取り組みは予想外の反響があり、またご利用者のリフレイミングとなりました。取り組みは法人の総合職員研修で発表し、「審査員特別賞」を受賞しました。

開園当時より使用していましたナースコールの老朽化に伴う更新を機に、業務用Wi-Fiやインカム、眠りスキャンを整備し高齢・重度化や職員の業務効率化に対応しました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
業務内で理念を意識化する工夫	①現時点での具体案の実施評価	ア)アピールボードの作成に取り掛かることができたが、完成には至らず。次年度に持ち越し	△
更なるEPA職員の獲得	①2名、マッチング	ア)EPA候補者によるPR文書作成 イ)Webマッチングに参加 ウ)1名(インドネシア人女性)マッチング成功	◎

(2) 人材確保の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
コンサルティング、研修等、外部資源活用の検討	①福祉コンサルタント検討	ア) ケアテックス事務局よりコンサルタント会社、スターパートナーズを紹介され、提案を受けたが、当方の期待した内容ではなく成立せず	△
近隣学校へのアプローチ（大学専門学校にアルバイト募集）	①アプローチ実施	ア) 新型コロナウイルスのため、大学・専門学校がオンライン授業などに変った事もあり、訪問する事ができず イ) 神戸学院大学より学生向けの福祉職の魅力について作成依頼があり、対応	△
スキルアップ、キャリアパスの明確化	①現在のキャリアパス・研修システムの見直し	ア) キャリアパスモデル改訂作業を行う。一部フィードバック面接に使用	◎
EPA 職員が安心して就労・就学・生活できる環境の整備	①EPA 職員の業務履修サポート（就学含む）と不安・困りごとの解消	ア) 在留更新手続き支援（6月） イ) 研修アンケートなどの作成依頼 ウ) ローテーション勤務の履修支援 エ) 落とし物、受診付き添い対応	◎

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
生育歴を通して、QOL、終末期を考える	①生育歴が分かる利用者台帳の作成、活用 延命処置意思確認書書式改訂	ア) 生育歴の事例発表を実施（7、9、11月） イ) 延命処置意思確認書書式改訂（8月） ウ) 総合職員研修で発表（審査員特別賞受賞）	◎
援助技術の向上	①実施・見直し	ア) 介護技術向上研修実施（5、7、9、11、1、3月） イ) 相談援助技術研修実施（9、10、11、12月）	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
感染症予防の取り組み強化（入院者減への取り組み）	①感染症マニュアルの改訂	ア)委員会実施（5, 7, 9, 11月） イ)平常時の衛生管理の分析の下、シミュレーション等実施 ウ)マニュアルの改訂作業実施	○
	①感染防止対策訓練実施	ア)ノロウイルス対応備品の整備とデモンストレーション準備	○
ショートステイ受け入れ体制の改善	①短期入所事業を入所から通所へ業務移行推進	ア)新型コロナウイルス感染防止のため通所との往来を原則中止しており、取り組みできず イ)ショートステイ利用 2 週間前の健康チェックを開始（8月） ウ)受け入れ基準を定め、ご利用者、ご家族に提示	△
ICT, IoT の活用	①既存施設で導入できる ICT, IoT、建て替え後に導入すべき ICT, IoT の見極め	ア)眠りスキャン導入（3月） イ)ナースコール更新（2月） ウ)インカム導入（3月）	○

(5) 地域の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
地域行事への参加	①地域行事の内容確認 ②年間の参加計画立案	① ア)北須磨団地自治会の年間行事確認 ② ア)新型コロナウイルス感染防止のため利用者に外出自粛頂いており、地域行事に参加できず。おいでやすカーニバルも中止	×
福祉避難所としての環境整備	①必要備品の整備 ②災害時の対応マニュアル作成	① ア)ローリングストックにより備蓄食品の入れ替え イ)備蓄場所の整理と明瞭化実施 ② ア)北須磨団地 A 棟住民参加の夜間避難訓練を中止 イ)災害対応マニュアル作成に取り掛かるも完成に足らず	○

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
広報活動の充実	①フェイスブック更新 ②機関紙発行 ③インスタグラム検討	① ア) 定時・随時更新 ② ア) 神愛発行 (7、12月) ③ ア) インスタグラム投稿開始 (11月)	◎

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
指導、育成 業務時間捻出のための 業務分析、 改善	①支援主任、担当支援員の役割 の見直し。改善案作成	ア) 役割組み換え案を作成、実施 イ) 年金書類管理を担当職員より課 長に変更	◎
建て替え委 員会の継続 開催	①建て替え委員会による検討	ア) 黒田建築設計事務所と建て替え 委員会開催 (6月) イ) 理事と資金計画について意見交 換 (6月)	○

2. 出来した事案

特にありません。

2020年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 すま障害者地域生活支援センター
施設長 三木 卓也

第4期中期計画のビジョン

不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します。

第4期中期計画の初年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な面でこれまでの生活や行動のあり方を見直すことに迫られた一年でした。そして、地域で生活する障害のある方やそのご家族等からの困りごとや相談をお受けし、情報提供や助言、適切な障害福祉サービスの利用調整などを行い、住み慣れた地域で安全に安心して暮らすことができるよう相談支援を実施する私たちの役割にも少なからず変化がありました。

多くの相談者やご家族が日常生活の活動や社会参加への制限を受け、必要なサービスを受けることが出来なかったり、見通しの立たない不安な気持ちや将来の心配ごとを抱える日々の中、必要なサービスを安心して受けることができるよう、また気持ちに寄り添い孤立感を感じないよう、地域の身近なセーフティネット窓口としての役割に努めました。

また、須磨区自立支援協議会の地域活動を主体とした取り組みも大きな活動制限を受けましたが、行政、関係機関、関係団体で協議を重ね工夫を結集し、厳しい状況だからこそ社会的に弱い立場に置かれがちな障害のある方への理解啓発のための活動を可能な範囲で実施しました。

新型コロナウイルス感染症の席卷は、社会のひずみや弱い立場に置かれる人を浮き彫りにし、かつ相談内容も多様かつ多岐にわたり、相談員個々の知識や姿勢、相談支援スキルが問われる現実に直面しました。相談支援の限界を省みつつ、それでも親身で思いやりのある柔軟な相談支援を実施していくために、自己覚知の研修や職場環境の整備に努め、スーパービジョンやピアリングと重ね合わせながら、センター全体の相談支援力の向上に努めました。

今年度末で神戸市からの事業委託期間が満了となりましたが、公募の結果、これまでの5ヶ年の事業実績に対する一定の評価を受け、引き続き5ヶ年の事業委託が決定しました。引き続き事業継続ができることに感謝します。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア)年間聖句『言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛し合おう』の掲示 ② ア)「基本理念」の唱和(月2回) ③ ア)「神戸聖隷ハンドブック」学習会(毎月)	◎
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修(内部)の実施 ②各種理念研修(外部)への参加	① ア)新型コロナの影響により未実施 ② ア)新型コロナの影響により未実施	△

(2) QOLの視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア)ケース会議の開催(毎月第3水曜日)	◎
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア)「交流分析 エゴグラム」内部研修会(8月) イ)「記録の書き方」内部研修会(3月) ② ア)法人中級職員研修(9月) イ)神戸市相談支援機能強化研修(スーパービジョン研修)(9月)	○
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、顧客満足度	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア)虐待防止チェックリストの実施(9月) ② ア)顧客満足度調査の実施(10月～11月)	○

(3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
事業の継続受託	事業継続受託	①委託更新（2021年度～）手続き	ア) 神戸市障害者支援課ヒアリング（7月） イ) 公募の方針説明（9月） ウ) 公募への応募（12月） エ) 次期委託更新決定（1月）	◎
各委託調査の確実な実施	委託調査	①障害支援区分認定調査 ②福祉サービス勘案調査 ③移動支援サービス調査 ④訪問入浴サービス調査	① ア) 障害支援区分認定調査（163件） ② ア) 障害福祉サービス勘案調査（360件） ③ ア) 移動支援サービス聴き取り（10件） ④ ア) 調査実績なし	◎
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①相談支援従事者現任研修の受講 ②加算研修（行動、要医療ケア、精神）の受講	① ア) 新型コロナの影響で次年度に持ち越し ② ア) 新型コロナの影響で次年度に持ち越し	×
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算（初回、モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所）の取得	ア) 初回（新規）加算（3件） イ) モニタリング加算（2件） ウ) サービス担当者会議実施加算（1件）	△

(4) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
スーパーバイズの実施と強化	スーパーバイズ	①スーパーバイズの実施	ア) スーパーバイズの実施（毎月）	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施（6月、10月、2月）	◎

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
制度の狭間にある生きづらさを抱えた方への対応	ニーズ整理	①ニーズ把握と整理 ※地域貢献部会と連動	ア) 地域福祉ニーズ（親なき後、移動支援、生活困窮、成年後見制度、ヤングケアラー）の把握と共有（毎月）	△
須磨区自立支援協議会の積極的な取り組み	須磨区自立支援協議会	①全体会／運営委員会の開催（年1回／年4回） ②作業部会（就労、共生、販路拡大、学習、親子、相談）の実施（適宜） ③発達の気になる保護者向けピアカウンセリングの実施（年9回）	① ア) 全体会（6月）※書面報告 イ) 運営委員会（7月、11月、3月） ② ア) 就労支援部会（7月、9月、11月、3月） イ) ともいき部会（8月、10月、12月、3月） ウ) すまいんど部会（4月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月） エ) まなぼー!!部会（8月、9月、1月、3月） オ) 親子部会（7月、8月、10月、11月、12月、3月） カ) 相談支援部会（8月、9月、10月、12月、2月、3月） ③ ア) ピアカウンセリング（6月、7月、9月、11月、2月、3月）	○
地域福祉ニーズに応じた支援の実施（公益的取り組み）	ほっとかへんネットすま	①ほっとかへんねっとすま事務局への積極的参画	ア) 役員会（7月）、実務者会（8月）、コア実務者会（9月）に出席 イ) 下半期は新型コロナの影響により未実施 ウ) 車椅子貸出事業（須磨区社協）の一部協力依頼を受け、次年度から受託を決定	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
業務改善の 取り組み	業務改善	①実態把握と整理 (担当ケース数、 調査担当件数、 計画担当件数、 休日出勤日数、 夜間電話当番回 数)	ア) ケースファイルの整理、保管方法 の改善に着手	○
働き方改革 への対応	働き方改革	①各職員が有給休 暇付与日数の 50%以上取得 (最低5日以上) ②各職員の超過勤 務時間 10 時間 以内 (月)	① ア) 有給休暇取得率 83.62% (3 月末時点) ② ア) 超過勤務 258 時間減 (2019 年度比)	○

2. 出来した事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸聖隷総合相談センター
施設長 三木 卓也

第4期中期計画のビジョン

障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。

第4期中期計画の初年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な面でこれまでの生活や行動のあり方を見直すことに迫られた一年でした。センターの役割として求められている、主に法人内各事業所のご利用者ご家族の想いや意向を尊重した適切な情報提供や助言、望む暮らしにつながる計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供、親なき後の生活に備えたセーフティネットの役割にも少なからず変化がありました。

多くのご利用者やご家族が日常生活の活動や社会参加への制限を受け、慣れ親しんだ日中活動場所に通うことが出来なかったり、必要なサービスを受けることが出来なかったり、見通しの立たない不安な気持ちや将来の心配ごとを抱える日々の中、少しでも必要なサービスを安心して受けることができるよう、気持ちに寄り添い孤立感を感じないよう、身近な相談窓口としての役割に努めました。また、予期せぬ家族状況の変化によりこれまでの生活が一変する不安が生じたご利用者に対し、安心した生活が継続できるよう短期入所、施設入所等の速やかなサービス調整を図りました。

そのような状況の中、事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）において、今年度も新たに12名の新規利用希望にお応えさせていただき290名のご利用者のサービス等利用計画の作成を推進することができました。一方で、まだまだ利用を希望される方々のニーズに応えきれていない現状もあり、引き続きニーズに応えることができる体制づくりが課題でもあります。

また、これまで重点的に取り組んでいる「成年後見制度」の啓発については、成年後見制度活用推進委員会と協働して、11月から12月にかけてオンライン形式での成年後見人へのインタビュー動画と講義を配信して、制度に対する素朴な疑問や問題点、後見活動の実情を見聞きし理解を深めることができました。

2021年度、「神戸聖隷オアシス」（友が丘総合事業）の開所に合わせた事務所移転も完了し、本来的な使命である地域の福祉ニーズに対応した取り組みのチャレンジに向け、地域への広報、周知活動等の準備も具体的に進めていきます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
価値観と出会う場面の提供	法人基本理念の理解推進	①年間聖句の掲示 ②基本理念の唱和 ③理念ハンドブックの読み合わせ	① ア) 年間聖句『言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛し合おう』の掲示 ② ア) 「平和を求める祈り」の唱和(月2回) ③ ア) 「神戸聖隷ハンドブック」学習会(毎月)	○
理念に触れ学ぶ機会の提供	キリスト教福祉の理解	①権利擁護研修(内部)の実施 ②各種理念研修(外部)への参加	① ア) 新型コロナの影響により未実施 ② ア) 理念部会主催のキリスト教福祉講座に参加(10月～11月)	○

(2) QOLの視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
相談支援スキルの共有と向上	ケース会議	①ケース会議の開催	ア) ケース会議の開催(毎月2回)	◎
研修機会の提供	研修(内部、外部)	①研修(内部)の実施 ②研修(外部)参加	① ア) 未実施 ② ア) 法人新採職員研修(4月) イ) 医ケア児者支援者フォローアップ研修(8月) ウ) 特定相談支援事業者連絡研修会(9月)	○
権利擁護と相談支援の質の向上	虐待防止、顧客満足度の向上	①虐待防止チェックリストの実施 ②顧客満足度調査の実施	① ア) 虐待防止チェックリストの実施(9月) ② ア) 顧客満足度調査の実施(10月～11月)	○

(3) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
計画相談支援、モニタリングの確実な実施	計画相談	①サービス利用支援 ②継続サービス利用支援	① ア) サービス利用支援 (278件) ② ア) 継続サービス利用支援 (361件)	○
加算要件を満たす体制の維持	加算体制	①相談支援従事者現任研修の受講 ②加算研修(行動、要医療ケア、精神)の受講	① ア) 相談支援従事者初任者研修申込み完了(9月) イ) 相談支援従事者初任者研修受講(12月、3月) ② ア) 新型コロナの影響で次年度に持ち越し	○
個別加算の取得を推進	個別加算	①個別加算(モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所)の取得	ア) 初回(新規)加算(11件) イ) 入院時情報連携加算(1件) ウ) サービス提供時モニタリング加算3件	○

(4) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
スーパービジョンの実施と強化	スーパービジョン	①スーパービジョンの実施	ア) スーパービジョン研修を受講(8月、10月、11月、12月) イ) グループスーパービジョンの実施(1月、2月、3月)	○
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング	①定期ヒアリングの実施	ア) 定期ヒアリングの実施(6月、11月、2月)	○

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域の関係機関とのつながり強化	地域交流	①北須磨団地自治会ふる里まつり、運動会への参加 ②地域支え愛学習会への参加 ③地域包括ケア会議(介護保険)への参加	① ア) 新型コロナの影響により不参加 ② ア) 新型コロナの影響により不参加 ③ ア) 新型コロナの影響により不参加	×

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
友が丘総合事業に係る地域のよろず相談に対応	よろず相談	①事務所移転 ②地域への広報活動と地域ニーズの把握	① ア) 友が丘総合事業会議に出席 (毎月) イ) 神戸聖隷オアシスに事務所移転 (3月) ② ア) 地域福祉ニーズ(引きこもりケース) を地域貢献部会で共有 (7月、9月、11月、1月、3月)	○
成年後見制度の理解・啓発と利用の促進	成年後見	①成年後見制度勉強会の開催 ②申立て支援の必要性の高いケースの把握と優先順位付け	① ア) 研修事前打合せを実施 (4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月) イ) 成年後見制度勉強会開催 (11月、12月) ② ア) 申立て支援を実施 (3件)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
業務改善の取り組み	業務改善	①実態把握と整理 (計画担当件数、夜間電話当番回数)	ア) 進捗管理の仕組み改良 (4月) イ) 訪問調整の仕組み改善 (5月) ウ) 担当割り振りを平準化 (1月)	○
働き方改革への対応	働き方改革	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得 (最低5日以上) ②各職員の超過勤務時間5時間以内 (月)	① ア) 有給休暇取得率 85.23% (3月末時点) ② ア) 超過勤務 17時間増 (2019年度年間比)	○

2. 出来た事実
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸友生園
施設長 井上 待子

第4期中期計画のビジョン

地域のネットワーク体制を構築できるスキルを身に付けた職員集団を目指します。

2020 年度総括

新型コロナウイルスの影響で経営が厳しい一年となりました。感染予防対策を行いながら少しでも経営を立て直せるかが次年度の大きな課題となります。しかし、感染予防策として行った営業日数調整や時間短縮などの効果として、感染者を出すことなく1年を終えられたことは、神戸友生園の取り組みを理解し協力してくださったご家族や職員に感謝したいと思います。

新型コロナウイルス感染予防環境整備として玄関入り口と自動消毒機を導入し、来園者全ての顔写真と体温、来園時間を総務のパソコンでデータ管理を行えるようにしました。

減少していた作業量も少しずつ回復傾向にあり、安定した作業量の確保が出来つつあります。

今年度、神戸市からの工賃減少を補填する助成金もあり、また新たな取引先も見つかったことで、工賃の配分額も少額ですが増えました。次年度には工賃向上に繋がる作業も取引先からいただいております、安定した工賃配分が出来るようにすすめていきます。

引き続き作業量確保に努めていき、利用者の充実した日中活動場所としての役割を果たしてまいります。様々な行事に制限がかかり、従来同様の行事が出来にくい一年でしたが、工夫して出来る事を行いました。

人材育成として、臨時職員に向けた内部研修実施や法人研修をWEBで受講しました。残念ながら外部の研修への参加は叶いませんでした。法人内の研修や会議がWEBで行われるようになり、ネット環境を整えていく必要がありました。また、操作なども研修や会議を行われる毎に説明をし、数名の職員は対応出来るようになりました。今後も必要に応じて環境整備を行い、スムーズに参加できるように準備してまいります。

訪問型職場適応援助者の助成金活用については、感染防止のため訪問支援は行わず電話やメールで事業所との連絡を取るに留まりました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
理念の本質の理解と共有	①内部研修にて理念の理解 (研修会実施 2回/年) ②創設時の思いに触れる勉強会の実施	① ア)臨時職員2名に実施(4月、10月) ② ア)未実施	△
理念の実践	①研修にて、理念に沿った支援の在り方を学ぶ	ア)未実施	×

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアの防止	①虐待チェックリストの実施（2回/年） ②虐待防止判定基準表の事例検討会実施（1回/年） ③接遇ハンドブックを活用し、部会のキャンペーン実施（4回/年） ④虐待防止の内部研修を実施（2回/年）	① ア)前期虐待チェックリスト実施（9月、2月） ② ア)事例検討会実施（12月、1月） ③ ア)接遇キャンペーン実施し、勉強会開催（9月、12月） ④ ア)虐待防止判定基準表についての内部研修実施（1月）	○
日常の支援における『気づき』の共有	①職員会議で『気づきツール』の情報共有と事例検討（1回/月）	ア)職員会議を6月まで開催自粛。その為情報は掲示にて共有 イ)10月より職員会議を実施し情報共有実施（情報提供研修12件/年）	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
研修会への参加	①職員一人ひとりが研修会に参加（1回以上/年） ②内部研修の実施（6回/年）	① ア)外部研修参加自粛 イ)法人研修参加（9月、10月、11月、12月、2月） ② ア)臨時職員2名に実施（5月、6月、8月、10月、11月、12月、2月）	◎
実習生への指導にて資質の向上	①正規職員が実習指導担当の役割を担う（1回以上/年）	ア)実習受け入れ、正規職員評価実施（2月）	△
各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	①業務マニュアルの作成 ②支援標準化マニュアルの作成	① ア)マニュアルの更新実施（4月） イ)マニュアルの修正検討 ② ア)Aさんのマニュアル改定（4月、5月）	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	②支援標準化マニュアルの作成 ③作業マニュアルの整備	イ)マニュアル作成 Bさん、Cさん(6月) Dさん(7月) Eさん(8月) ウ)マニュアル更新 Hさん(12月) ③ ア)Fシール・外反母趾パット・圧縮袋作業手順書更新作業(5月) イ)㈱ライフエスト 在庫表作成(6月) ウ)㈱アイール魚の目、作業指示書作成(7月) エ)㈱アイール魚の目 不良基準書作成(8月、12月) オ)オリジナル茶価格表作成 オリジナルPOP作成(10月、11月) カ)㈱ライフエスト 指示書改善(1月) キ)㈱ライフエスト メンテナンス表改善(2月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	①利用者個々が望む『働き方』のアセスメントと作業提供 ②納得性のある作業評価と工賃配分の新体系導入	① ア)未実施 ② ア)正規職員による検討を開始(7月、10月、12月、1月、2月) イ)シミュレーション実施(11月)	△
利用者ニーズに沿った多種多様な作業の確保	①年間5種目の新規作業の確保	ア)お茶販売用紙袋作成開始 イ)段ボールを再利用した商品の試作実施 ウ)新規取引先獲得(11月) エ)オリジナル茶値札作り作業確立(11月) オ)作業で出る廃材材料の活用と廃棄する作業創出(12月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
自主生産品の拡充と事業拡大	①オリジナル商品の2種類の新発売 ②新たに2か所の販路拡大 ③アドアド市の定期開催(20回/年)	① ア)商品価格、パッケージ見直し イ)新商品ハブ茶決定 ウ)冬ギフト構成検討と販売 エ)春ギフト構成検討と販売 ② ア)地域福祉センターへ持ち込み実施 イ)すまいんど部会再開により民生員・自動委員役員会への販促活動企画 ③ ア)5月まで開催自粛 イ)6月から9月までに6回開催	○
ケース会議の実施	①利用者の生活歴の確認と理解を深めるために会議を実施(2回/月)	ア)4月から3月まで22名の会議実施	◎
サービスの質の向上	①サービス提供票の更新(2回/月) ②利用者満足度調査の実施(1回/年) ③新規グループホームの検討の為、GH南落合・アリエッタ北須磨との情報共有の実施(1回/月)	① ア)4月から3月まで22名の情報更新 ② ア)昨年度の調査表集計を職員会議で意見交換 イ)満足度調査実施(10月) ウ)満足度調査集計(11月) エ)フィードバック(2月) ③ ア)業務日誌等で日々情報共有実施	◎
防災・防犯対策	①防災訓練実施(2回以上/年) ②防犯訓練実施(2回以上/年) ③食料品などの備蓄購入のため、消費期限や数量の確認(1回/月)	① ア)3園防火管理者で打合せ実施 イ)3園合同避難訓練実施(3月) ウ)単独避難訓練(3月) ② ア)3園防火管理者で打合せ実施 イ)新型コロナウイルスの影響により未実施 ③ ア)7月より備蓄品リストで現状把握 イ)賞味期限間近の備蓄米の消費	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
定員を守った中での利用者数の向上	①見学・体験利用の受け入れ (10名/年) ②在籍者の利用率向上 (目標 90%)	① ア)利用見学者受け入れ(7月、8月、9月、12月、1月、2月) イ)体験利用受け入れ (1名/8月、1名/2月) ② ア)コロナウイルスの影響で自粛する利用者が多く利用率低下 (4月、5月) イ)上半期利用率 63% 下半期利用率 68%	×
作業収益の向上	①新規企業との取引開始 (1件/1年) ②作業担当による取引先との良好な関係の構築の為、職員会議で現状の共有 (1回/月)	① ア)単発新規作業開始(4月から6月) イ)新規事業所と打ち合わせ、21年3月より取引開始であったが1月から開始:林タオル ウ)新規事業所取引開始:パイオニア (11月) エ)新規事業取引開始;中島商店 (2月) ② ア)5月以降毎月実施	○
ジョブコーチ事業の継続	①施設外対象者への積極的な支援の実施 (2人で20日/月) ②OJTによるジョブコーチの育成の為、関係機関と連携し育成の場の創出	① ア)コロナウイルスの影響で活動自粛し実績なし ② ア)実績なし	×
作業の効率化への取り組み	①職員会議にて効率化への検討(1回/2か月)と取り組み ②定時退勤と早期退勤を推進し、月毎に検証	① ア)現場職員で話し合う機会を持つ (8月) ② ア)検証用のデータ作成方法を検討	△
経費削減の取り組み	①経費削減やコスト意識を高める為、職員会議にて経費、コストの把握(1回/月)と削減に向けた取り組み	ア)検証用のデータ作成方法を検討	×

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
地域の支援学校に対する連絡強化	① 支援学校の進路担当者との相談体制の構築に向けた協議の場を持つ（4回/年） ② 関係機関との協力体制の構築に向けた協議の場を持つ（2回/年）	① ア) 電話にて進路担当者と情報交換 イ) 学校評議員会に出席 ウ) いぶき明生支援学校進路指導部と実習受け入れに関する協議を実施 エ) 青陽須磨支援学校進路指導と困難ケースについて協議（3月） ② ア) 生活保護ワーカー、支援学校と意見交換を実施。	△
地域の医療系専門学校との連携	① 作業療法士1・2年生の実習（1人2回/年）の実習内容の再検討	ア) 学校と協議し今年度の実習中止決定	×
自治会及び各種団体主催イベントへの参加	① 地元自治会・各種団体主催イベントへの参加（2回/年） ② 須磨区自立支援協議会のイベントや会合への参加（10回/年）	① ア) イベントが中止になり不参加 イ) こうべ福祉健康フェア参加（11月） ② ア) 協議はするがイベント中止となり不参加 イ) 部会再開（11月、1月）	△

(6) 経営強化の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
有給休暇取得の推進	① 有休取得率の向上（目標100%）	ア) 年間カレンダーに取得日を入力し取得を推進	◎
超過勤務労働削減の取り組み	① 職員ひとり一人の業務量の把握と改善に向けた実効策の推進	ア) 工賃請求のマニュアルを作成し業務量の負担軽減を図る（5月～8月）	△
各種マニュアルの作成・整備	① 法人基本マニュアルに沿った18項目のマニュアルの作成・整備実施	ア) 施設独自のマニュアル（初版）完成（8月）	○

2. 出来た事実
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホーム南落合
 管理者 井上 待子

2020 年度総括

新型コロナウイルス感染予防対策の為、朝も夜も消毒作業を実施しました。新型コロナウイルスの対策については、食事時間をずらし全員が同じ時間に食事を摂ることがないように配慮し、手洗い、マスク着用の徹底、利用者、職員の検温の実施を行っています。

ホーム内で罹患者が出た場合のシミュレーションも検討し、神戸友生園のバックアップ体制を確認しました。

年度内に 1 名が自宅に戻られ、新しい利用者が 11 月に入所されました。

職員体制も概ね整ってきましたが、まだ数日バックアップの必要があります。ホームの生活と神戸友生園の支援との連携という意味では有意義な体制になっていると思います。

利用者の生活は安定しており、自治会の役員を担うことでより一層地域の中で生活が出来るようになりました。自治会主催の防災訓練や団地清掃にも利用者に参加し、自治会の方との交流も少しずつ深まっています。

今年は大きな行事は実施しませんでした。5 名の利用者について利用者の希望の食事やケーキで誕生日のお祝いをしました。

神戸市よりグループホームの建物が「第 3 次支援住宅マネジメント計画」の対象になっている連絡を受け、住宅整備課より説明を受けました。今後 10 年間で改修・更新となるようですが、昨年度開始したばかりであることや、今回の計画に入っている住宅の中では築年数が浅いこともあり 10 年後に改修・更新となる可能性があります。今後も神戸市とホームの利用者の生活が継続できるように協議をしていきます。

1. 推進状況

区分	課題	2020 年度計画	実施状況	達成度
QOL	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施 ②虐待防止チェックリストの実施(2回/年)	① ア)未実施 ② ア)9月、2月実施	△
	健康管理	①利用者の健康状態を把握し、必要に応じて医療機関と連携を図れるよう協力医療機関に依頼	ア)インフルエンザ予防接種の予約 イ)訪問看護師と定期的に情報共有(2回/月) ウ)入浴後の全身チェックで気付く異変について受診し世話人間で情報共有	○

区分	課題	2020年度計画	実施状況	達成度
	余暇の充実	①一人一人にあった余暇を検討	ア) コロナ禍での余暇について、利用者と話しをし、不要不急の外出を取りやめ、ホーム内で過ごせるよう昼食の提供などを行う イ) 外出時には不織布マスク着用の徹底	○
QOL	マニュアル整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ	ア) 今年度に入りマニュアルの見直しを実施 イ) 世話人会議実施 (7月、10月、12月) 世話人同士、業務手順を確認また、利用者支援についても共有	○
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加	ア) 4月から自治会役員(書記)となる イ) 役員会に出席(8月、1月、2月)	○
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と利用率85%維持	ア) 上半期利用率 82.1% イ) 年間利用率 87.3%	○
	バックアップ機能の体制整備	①神戸友生園での日中及び夜間緊急時支援体制を整備 ②法人内グループホーム全体のバックアップ体制整備	① ア) 緊急通報装置について世話人全員に使用方法についての説明会を実施(7月) ② ア) 未実施	△
人材育成	基本理念の浸透	①世話人への内部研修実施 ②法人研修への積極的な参加	① ア) 未実施 ② ア) 未実施	×
	専門性の向上	①世話人を含む職員の外部研修への参加	ア) 未実施	×

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸光生園
 施設長 吉本 ひろみ

第4期中期計画のビジョン

目指そう！利用者支援の質の向上とワークライフバランスの両立

2020 年度はコロナ禍に翻弄された 1 年でした。通常業務に加えて利用者の検温や体調管理、各箇所の消毒などはすっかり定着し、更にあらゆる対策を講じながら出来る限りプログラムを減らさずに、かつ施設内での感染者を出さないよう努めました。結果として、自分たちの努力ではどうする事も出来ないことと、工夫して出来る事が大きく分かれた結果となりました。

地域貢献という面では、関係性が構築出来ていた住民の方のイベント参加などは困難で、またボランティアの皆さんの受け入れも双方の安全も考慮しご遠慮頂き残念でした。しかし、これまでは出来なかったオンラインでの研修がすっかり定着し、施設を離れる事無く研修に参加出来る機会が持てた事は一つの成果であったと感じます。もちろん対面で参加し、他事業所の職員との交流が出来ないのはマイナス面ですが、新たな選択肢が増えたと捉えたいと考えます。

外部研修の機会が減ったことで福祉ライブラリーから障害特性に関する DVD を借り施設内で学習する事を試みわかりやすいと好評でした。多くの人が参加出来、今後も継続する予定です。

ミニバザーは、新たに「ひかりマルシェ」と名称を変え、他事業所の参加も実現しました。職員の努力で他法人（あかりの家・なっとう工房）と交渉し、こちらで商品を販売し、先方のアンテナショップで当施設の「味噌」を販売してもらい、という新たな販路を開拓することが出来ました。また、半日開所の午後を活用し、事務仕事等に充てる事や「タイムマネジメント」の手法を取り入れ超過勤務を削減出来た事も大きな成果でした。今後も支援記録ソフトを活用し効率良い業務となるよう努めます。出来ない事を嘆くよりも、「この状況で出来る事をする！」という事を学んだという意味では貴重な 1 年でありました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
理事による講演	①吉田常務による理念理解についての講演実施(1回/年)	ア) 7月16日に講演実施とレポート提出	◎
キリスト教精神の理解	①竹内牧師によるキリスト教福祉講座実施(3回/年)	ア) 第1回(8月)・第2回(9月)・第3回(10月)に講義の実施とレポート提出	◎
合同施設見学の実施	①上半期に計画立案し、神戸地区参加事業所を募集 ②下半期に神戸地区事業所と合同で但馬地区の事業所のイベント・行事に参加協力	① ② ア) コロナウイルス感染拡大のため中止	×

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
職場全体で 実習生を受け入れる	①職員向けの実習生の進捗状況に合わせた指導内容等をまとめたツール（書式）の作成（年度内）	ア)実習指導ツール作成(実習予定表 10日間基礎実習・15日間・10日間) イ)実習受け入れと実習指導ツールの運用(8月兵庫大・10月神戸女子大・11月神戸学院大) ウ)実習予定表について職員アンケート実施と集計分析(11月)	◎
内部研修の 充実	①外部研修を基に内部研修実施(3回/年)	ア)内部研修用の書式案作成(内部研修手順書・内部研修書式(案)) 10月の内部研修で内部研修手順書を試行12月の研修で内部研修書式(案)を試行 イ)内部研修実施(実習生の受け入れ態勢について:7月・ABA研修: 10月・DVD自閉症の方が求める支援:12月・支援の基本:3月)	○
職員の個性 を生かせる 研修への 参加	①研修リスト作成 ②職員アンケートによる希望する研修への参加 (全職員対象・1回/年)	①② ア)研修リスト作成できず イ)職員アンケートと研修のマッチング実施(8月～) ウ)外部研修(オンラインも含む)参加(9月～3月:9名参加)	△

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
利用者静養 スペースの 見直し	①利用者の静養スペースの設置(変更)と維持管理 ②新たにベッドを設置、必要な家具等を購入 (上半期に設置)	①② ア)9月より静養室の使用開始 イ)維持管理マニュアルに沿い、寝具、備品の維持管理実施	◎
快適な生活 スペースの 維持	①和室と食堂の管理方法や環境の見直し ②定期的な整理整頓・清掃等維持管理の定着 (上半期に検討、下半期に実施)	① ア)和室と食堂の整理・整頓実施(毎月) ② ア)維持管理マニュアルに沿い、和室と食堂の整理整頓、掃除等の維持管理実施	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
オリジナルブランドの確立	①オリジナル商品のタグ、販売袋、値札、看板等の作成 (年度内完成)	ア) 値札、販売袋完成。看板は完成に至らず イ) オリジナル商品のタグの完成に至らず	△
在庫管理システムの構築	①在庫管理システムの試験運用と見直し (年度内)	ア) 在庫管理システム完成、試験運用と見直し実施	◎
商品の販路拡大	①ネット販売準備と実店舗販売継続 (年度内)	ア) ミンネ登録完了 (次年度販売予定) イ) NANA ファームにて販売継続 ウ) なっとう工房(社会福祉法人あかりの家ワークホーム高砂)への販売開始	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
職員の休憩スペースの設置	①職員の休憩場所の計画・立案	ア) 会議室を休憩場所に転用する計画立案と予算計上実施	○
職員の休憩時間確保	①利用者の安全を配慮した職員の休憩シフト案作成	ア) 現状の休憩シフトの確認のみで思考案の作成まで未着手	×
支援記録ソフトの活用と業務効率化	①支援記録ソフトのマニュアル作成 (年度内) ②NDソフトウェア講師による研修実施 (1～2回/年)	① ア) 月の報告・事故データ入力・事故報告・電子印・業務日誌の入力マニュアル作成 イ) 1月よりケア記録と月の報告の電子印の活用を開始 ② ア) コロナウイルス感染拡大により、直接の研修会開催は中止 イ) 法人経営強化推進部会と連携して、WEBでの勉強会実施 (9月)	◎
パソコンのスキルアップ	①業務効率化を図るためパソコンスキルアップのための講習実施 (基礎講座・2回/年)	ア) パソコンサポートアシストの協力によりワード講習 (2月)・エクセル講習 (3月) を実施	◎

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
コスト意識の向上	①光熱水費を対前年度比で 3% 削減する為、キャンペーン等を行うなど意識啓発方法を見直し	ア)9 月より施設内に節約キャンペーンのポスター掲示と職員会議でキャンペーンの周知実施 イ)コロナ対策で、換気を行いながらエアコンを使用していたこともあり、対前年度比約 1%の削減	○
経費削減の取組	①消耗品費を対前年度比で 3% 削減する為、消耗品費の管理システムを確立（年度内） ②品目毎に管理担当者を決めて役割を明確化（上半期）	① ア)コロナ対策で消耗品の購入が多くあり、対前年度比では比較困難 イ)消耗品の管理システムは未確立 ② ア)備蓄品の月単位での在庫チェック・消耗品の担当者による管理を実施	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ミニバザーを通じて地域交流を目指す	①ミニバザーの内容を再検討し、見直しを行うと共に、地域の方が立ち寄りやすくする工事を実施（上半期） ②地域の事業所への参加を提案（下半期）	① ア)布看板の製作、広告の改良等を実施 イ)入り口の改修工事は共同募金受配申請のため次年度実施予定 ② ア)NPO 法人ポポロ・なっとう工房（社会福祉法人あかりの家ワークホーム高砂）が参加 イ)なっとう工房の納豆と神戸光生園の味噌については相互に委託販売実施	◎
防災イベント継続	①防災イベントを実施し、地域住民との交流を推進 ②地域団体（まちづくり協議会）との連携	① ア)コロナウイルス感染拡大により、地域住民が参加しない利用者へのみの簡易なイベントに変更 ② ア)コロナウイルス感染拡大により具体的な連携は中止	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
福祉避難所の機能充実	①福祉避難所開設訓練の実施 (1回/年) ② 防災備品の整備	① ア) 福祉避難所開設訓練のマニュアル完成 イ) 狩口台ふれあいのまちづくり協議会との連携はコロナの影響で中止 ② ア) 計画していた防災備品は次年度に延期(コロナ関連の消耗品を優先)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	下期実施状況	達成度
防犯対策の充実を図る	①警察の指導を仰ぎ、防犯訓練検討と実施 (1回/年)	ア) 垂水警察と連携して10月に職員を対象とした防犯訓練を実施 イ) 防犯訓練での指摘事項の改善は未着手	○
残業時間の減少への取組	①効率的な業務の提案と試行 (タイムマネジメント) ②定型書類、業務の見直(試行) (年度内)	① ア) 7月より土曜日開所の午後の時間を事務処理時間として活用 (4月～6月はコロナウイルス感染拡大のため土曜日開所は休止) イ) 前年度比較(正規職員に限定)では577時間48分の減少 ② ア) 電子印を活用したケア記録と月の報告のペーパーレス化を1月より実施	◎

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名グループホームみなみたもん
 管理者 吉本 ひろみ

県営住宅を改修した2室を使用してのコロナ禍でのグループホーム生活は、予想以上に大変なものでした。万が一の時にも帰省が出来ない方を多く抱えており、ホーム内に感染者が出た場合のシミュレーションをしてみたものの、いまだにきちんとしたマニュアル完成には至らずです。発熱等風邪症状があれば各個室で食事を摂って頂き、テーブルやドアノブの消毒、オゾン発生器の設置、食事テーブルの亚克力板設置等を実施しました。何とか1年間感染者が出なかった事が何よりでした。外出の機会も一時はなくなり、お互いのストレスも溜まる中で世話人の創意工夫で創作活動を提供し、皆さん熱心に取り組みられました。会議ではひとり一人の事例に目を向けて様々な取り組みを行いました。利用者間の関係性の難しさありますが、出来る限り快適に過ごして頂けるよう継続します。

1. 推進状況

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2020 年度計画	実施状況	達成度
Q O L	権利擁護 のための 支援	①入居者の後見人・保佐人との報告・連絡・調整を密に行い本人の意思を尊重した支援を継続	ア)入居者5名中4名に後見人・世話人がおり、常時本人主体の支援を実施	○
	マニュアルの整備	①個々の障害特性に配慮した支援マニュアルの作成	ア)個々の支援マニュアルの作成は未着手	×
	健康管理	①医療機関との連携による適切な健康管理	ア)医療機関での定期的且つ必要な健康管理を実施 イ)日々の体重計測・体温検温実施 ウ)適切な服薬管理	◎
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事への積極的な参加 ②自治会へ役員として参加	① ア)自治会行事はコロナ禍によりすべて中止 ② ア)職員が自治会へ役員(会計)として参加	◎

区分	課題	2020年度計画	実施状況	達成度
Q O L	防災対策	①消防設備を使用した避難訓練・通報訓練の実施を2回 ②災害時を想定した防災訓練の実施(年1回)	① ア)10月・3月に防災訓練(通報・避難誘導等)実施 ② ア)災害時を想定した防災訓練は実施出来ず	△
財務	利用率の安定維持	①365日の運営で入居者に安定した生活を提供	ア)新型コロナウイルス感染症による通所事業所利用自粛により1名のみ長期帰省	◎
	堅実なバックアップ施設	①緊急時の神戸光生園による速やかで臨機応変な対応 ②安定的な支援体制確立(支援員育成)	① ア)通所事業所がコロナ対策で自粛し2名日中活動として受入 ② ア)新たな支援員の確保(2名内1名兼務)と育成を実施	◎
	積立金の計上	①将来に備え可能な限り積立金を計上	ア)通年ではほぼ目標達成に近く修繕積立金は予定通り計上	◎
人材育成	キリスト教理念の浸透	①基本理念におけるキリスト教精神の理解 ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用	① ア)月1回の会議時には基本理念の唱和 ② ア)会議時で接遇ハンドブックを活用	○
	専門性の向上	①法人内での世話人・生活支援員の合同研修実施 ②月1回の世話人会議で個々の障害特性に応じた対応事例の検討	① ア)法人内での世話人合同研修は未実施(感染症対策により開催困難) ② ア)月1回の世話人会議で実践的な事例検討を実施(個々のケース対応)	△
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を1回実施 ②関係機関等実施の外部研修に参加 ③虐待防止セルフチェックの実施	① ア)全員参加の研修を3月に実施 ② ア)外部研修は不参加 ③ ア)虐待防止セルフチェックの実施(9月・2月)	○

2. 出来た事実
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームふくだ
 管理者 吉本 ひろみ

グループホームふくだでは、新型コロナウイルス感染症対策としてこれまでは全員揃っての食事を大事にして来ましたが、少しずつ時間をずらして全員が一同にというスタイルを変更し出来る限り密にならないよう配慮しています。家庭では皆さん食事をしながら会話をし、楽しく過ごしているのに、アクリル板で仕切られたテーブルは殺風景なものです。利用者を守るためには徹底しなければなりません。特に法人内の複数の事業所に通所されている10名なので、一人でも感染者があれば多くの事業所に波及することになり、このような状況を想定しておらず難しさを痛感しました。また、支援への考え方や取組方法が少しずつ自己流になっていき職員同士のコミュニケーション不足を感じた事案がありバックアップ施設としての関わり方の至らなさを反省した1年でした。

1. 推進状況

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2020 年度計画	実施状況	達成度
Q O L	権利擁護・虐待防止のための支援	①支援員・世話人の専門性向上の為の研修実施 ②年 2 回のセルフチェックの実施 ③成年後見制度の活用	① ア)正しい血圧測定方法 (6 月) イ)接遇ハンドブックを活用した接遇マナー研修 (7 月) ウ)AED 講習会実施 (9 月) エ)意思決定支援について(2 月) ② ア)虐待防止セルフチェックを実施 (9 月・2 月) ③ ア)新たな制度活用はなし	◎
	マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務(項目別)についての、マニュアルの見直し ②利用者個々の支援マニュアルを適宜更新	① ア)マニュアル見直しは継続中 ② ア)支援マニュアルは適宜更新実施	○

区分	課題	2020年度計画	実施状況	達成度
Q O L	地域との連携	①地域自治会に加入、 ゴミ収集所の清掃 等地域活動に参加 ②地域行事などへの 積極的な参加	① ア)常時周辺清掃を行っている ② ア)コロナ対策により行事中止	○
	防災対策	①年2回の避難訓練 の実施 ②年1回の防災訓練 の実施	① ア)避難・通報訓練実施(10月・2月) ② ア)防災訓練は未実施	△
財 務	利用率の 安定維持	①365日の運営で入 居者に安定した生 活を提供	ア)休業することなくサービスを提供しコロナの影響で1名自粛帰省されたが概ね予定通り	◎
	堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光 生園による速やか で臨機応変な対応 ②安定的な支援体制 の確立 (支援員の育成)	① ア)月1回の会議に管理者・課長が 参加し情報共有、支援への助言 ② ア)サービス管理責任者に頼り過ぎ ない支援員の育成を試行中	△
	積立金の 計上	①将来に備え可能な 限り修繕積立金を 計上	ア)安定的な運営により修繕積立金を予定通り計上	◎
人 材 育 成	キリスト 教理念の 浸透	①基本理念における キリスト教精神の 理解 ②神戸聖隷ハンドブ ック・接遇ハンドブ ックの活用	① ア)月1回の会議時には基本理念の 唱和 ② ア)接遇ハンドブックを職員会議で 活用し接遇マナー研修実施	○
	専門性の 向上	①世話人・生活支援員 の専門研修への参 加 ②法人内グループホ ーム世話人・生活支 援員の合同研修会 を検討、実施	① ア)オンラインによる研修で対応が 出来ず未実施 ② ア)法人内での世話人合同研修は感 染防止対策上未実施	×

2. 出来た事案

- (1) 12月にホーム職員から「他の支援員による利用者への行為が虐待にあたる」と警察署へ通報があり、所管区役所の安心すこやか係より連絡を受けました。本部・神戸市に連絡しすぐに職員の聴き取りを実施し室内の防犯カメラの映像も確認しました。まとめた報告書とカメラの映像を神戸市に提出した結果、身体接触はあったものの虐待には当たらないとされましたが、職員間のコミュニケーション不足という課題が浮き彫りになりました。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸明生園
施設長 山本 隆志

第4期中期計画のビジョン

ご利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる環境（人・物・経営）の実現を目指します。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が緊急的に求められ、入所型施設として、ウイルスの持ち込み、感染拡大の防止策を手探りで取り組んでいきました。

第1回目の緊急事態宣言時には、関係者の混乱も見られましたが、リスクを整理することにより、施設内では落ち着いて生活を送ることができるようになりました。

神戸市内の感染状況を鑑み、感染拡大防止策としてユニットケアを試行的に実施し、職員の勤務体制についてもユニットケアに合わせて調整を行いました。

また、通所ご利用者が安定して通所可能になるように、通所ご利用者と入所ご利用者の活動・生活スペースを分離して対応しました。

短期入所については、可能な限りの個室利用、利用開始2週間前の健康観察記録表の提出をお願いし、安全にご利用いただけるように心掛けました。一方で、利用率については、大幅に落ち込み、今後の課題として残りました。

職員への外部研修の提供機会の減少へ対応するべく、オンライン研修システムを導入し、個々での学習状況を施設として把握を行いました。学びを深めるためには少人数でもやり取りを行う必要性を感じたため、次年度の課題として取り組みます。

施設内での理念研修を2回開催できたことは、コロナ禍における職員の心の支えに繋がったと感じています。

現場職員の努力で、計画通りに実施出来た項目については、取り組みを進めてくれた職員の働きに感謝をしています。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
基本理念研修を開催し、日常の支援を理念の視点で振り返りを行う	①基本理念研修の開催（2回/年） ②平和を求める祈りの唱和	① ア) 全2回実施完了 ② ア) 感染症対策として、黙読に変更し実施	◎
歴史資料館の見学	①見学研修の実施（1回/年）	ア) 延期	×

(2) 人材育成の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
施設内各種マニュアルの更新	①各種マニュアルの更新	ア) マニュアル改定実施	○
研修内容の更新と研修の充実	①施設内研修の実施(7回/年)	ア) 個別対応で実施(オンライン研修システムを導入し提供)	○
エルダー制の確立	①エルダー制の実施	ア) フィードバック面接など実施	○
各種学校より実習生の積極的な受け入れ	①実習生受け入れ後、イベントへ等への招待実施	ア) 実習生の受け入れについて、緊急事態宣言下を除き実施 受け入れ基準を示し、学校と連携できたイベントが無かったため、招待も行えず	○
職員寮の検討	①設置について検討	ア) 次年度下半期に実施することを決定した	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
定員 60 名への変更	①地域移行対象者との相談	ア) 1名施設移行実施	○
生活スペースの再整理	①委員会立ち上げ、開催(6回/年)	ア) コア委員のみでの打ち合わせを実施	△
支援提供の基準作成	①提供している支援の洗い出し	ア) 感染症対策として実施したユニットケアにより、洗い出しが行えた	○
チェックリストの継続的实施	①継続実施(1回/3か月)	ア) 3回月に1回のチェックリスト実施	◎
接遇研修の実施	①研修開催(2回/年)	ア) 4月、1月に実施	◎
スローガンポスターの掲示と更新	①スローガン掲示と更新(1回/3か月)	ア) 3か月に1回の更新実施	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
積立金の継続実施	①積立金の計上	ア) 短期入所の収入減が大きく影響した	×

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
短期入所の稼働率維持	①稼働率の目標達成	ア) 感染症対策のため、受け入れ人数の制限をした結果、未達となった受け入れ継続が出来るように、受け入れ基準などの整理を行い、ご利用者に周知した	×
計画的な修繕の実施	①新館外壁塗装・新館ボイラー更新・キュービクル内部品及び高圧ケーブル交換	ア) 新館外壁塗装のみ実施済み 他は次年度へ持ち越し	△

(5) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
災害時 BCP の作成	①緊急時に実施する最低限の支援内容決め	ア) 大きく計画及び内容変更 (災害想定及び感染症想定へ)	○
備蓄品の強化	①不足備蓄品の洗い出し (10月)	ア) 感染症用品を中心に購入済み、また、簡易ベッドなども購入済み	◎
福祉避難所運営マニュアル策定	①マニュアル案の作成	ア) 感染症対策を勘案した避難所マニュアルの完成までは届かず (案で止まった)	△
業務省力化の実施	①IOT の試験的導入	ア) 機器選定し、リースにて試行実施	○
パートタイムワーカーの充足	①入浴時のパートタイムワーカー確保	ア) ユニットケアにより現場ニーズの変更有。夕刻の時間に1名確保	×

(6) 地域貢献の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
医療福祉部会への参加	①参加及び情報共有(4回年)	ア) 3回参加済み 感染症拡大のため、対面での会議は避けた 次年度にはオンラインが活用され参加しやすい状況が出来た	○

2. 出来た事実

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 ケアホームきたすま
 管理者 山本 隆志

2020 年度の第 1 回目緊急事態宣言下において、1 か月近く終日をホームで過ごすという自粛生活を職員、ご利用者共に経験していただきました。その結果、将来の施設移行について方向性が見出せたご利用者が 1 名おられました。職員の皆さんによる、感染症対策の徹底のおかげで、ご利用者が安心して 1 年を過ごせたことを感謝しています。

収入面では、感染症の影響は少なく終えられました。

1 名のご利用者が体調を崩されることがあり、ご本人の不安と安全のためにバックアップ施設で丁寧に対応を行った結果、回復後はご本人も安心して日常生活を過ごされています。

感染症対策での職員の業務負担増加と感染症対策という 2 つの側面から、食材配達サービスを取り入れました。

今後は、ホームに設置されているパソコンの有効活用も進めていくために、職員との調整を進めていきます。

1. 推進状況

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	2020 年度計画	実施状況	達成度
Q O L	高齢・重度化への対応	①バックアップ施設との連携により、過ごし方への配慮を進めていく ②業務内容の調整を実施 ③ホーム内茶話会の実施（1 回/年）	① ア) コロナ禍において、ホーム内での 1 日の過ごしを実施 ② ア) 食材配達サービス実施 ③ ア) 中止	○
	利用者の安全の確保	①火災訓練の継続 ②体調不良時の安心確保 ③防犯対策の強化	① ア) 操作確認訓練実施 ② ア) バックアップ施設で対応 ③ ア) 施錠強化	○
	地域生活の定着	①近隣との良好な関係維持のため、地域清掃への継続的な参加を行う ②移動支援等外部サービス利用の継続	① ア) 地域清掃中止（コロナ禍） ② ア) 市内感染状況により縮小し実施	△

区分	課題	2020 年度計画	実施状況	達成度
財務	予算に沿った収入の確保	①利用率の向上を目指す	ア) コロナ禍の影響はほぼなかった	◎
	設備改修・永続的運営に向けて	①積立金の継続的な実施	ア) 実施できた	◎
人材育成	専門性の向上	① 外部研修への参加 (2回/年) ① 虐待防止の徹底 (防止研修及び3か月に1回のチェックリストの実施継続) ② サービス管理責任者との連携強化 (個別支援計画策定会議の充実) ④ バックアップ体制の強化 神戸明生園及び、サービス管理責任者、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続	① ア) 動画研修を受講するように、PCを活用 ② ア) 実施 ③ ア) 電話で実施 ④ ア) 対応可能職員2名増	○

2. 出来た事案
特にありません。

2020年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市立ワークセンターひょうご
しごとサポート中部
神戸障害者就業・生活支援センター
障害者雇用就業・定着拡大推進事業
所 長 森崎 康文

第4期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します

第4期中期計画の1年目である2020年度は、2度の緊急事態宣言の発出、まん延防止措置の適用がなされ、新型コロナウイルスへの対応で奔走した年でした。この1年を通して、訓練生、相談者、職員の安全を第一に、消毒・マスク着用・検温の徹底、パーテーションの設置などの感染予防策や在宅支援の実施、訓練時間の短縮、「3密」を避けるための訓練場所の分散化など支援内容の見直しを行いました。現在、変異種が猛威を奮っており、第4波の最中にあり、いつ施設関係者で感染者が出てもおかしくない状況にあります。よりいっそうの警戒感を持ちながら、今後も引き続き感染防止策に努め、訓練生・相談者が安心して利用でき、かつ職員が安心して働ける環境を整えて行きます。

このように非常に厳しい状況ではありますが、職員の努力により、ワークセンターひょうごでは14名（前年度末：15名）、しごとサポートでは87名（前年度同時期：87名）の方々が就職し、ほぼ昨年度と同等の水準の実績をあげることができました。今後の雇用情勢には不透明な部分がありますが、できる限り多くの方が就職できるように引き続き支援をしていきます。

さて、年間を通してのトピックスとしては、①指定管理事業者としての指定、②体験実習の機会の拡充、③コロナ禍における関係機関会議および「ドリーム」などの実施があります。

まず、指定管理の件ですが、神戸市より8月に次期指定管理の案内があり、9月初旬に申請書類を提出し、その後、無事市議会の審議・議決を経て2025年までの指定管理事業者として指定を受けることができました。次期の5年間も指定管理事業者として適正に事業運営を行い、市内における就労支援の中核施設として役割を果たして行きます。

次に、体験実習の機会の拡充ですが、主な利用者である特別支援学校卒業生の進路が「就職」と「就労継続支援B型事業所」に二極化している現状を踏まえて、あらためて原点に戻り訓練内容の見直し、特に体験実習先の開拓に着手しました。新型コロナの影響により、計画どおり動くことができませんでしたが、しあわせの村内の施設2カ所と神戸市北区周辺の物流関係の会社1社で新たに体験実習を実施できました。また、1月には特別支援学校での職業教育の取り組みを学ぶために2校見学を行いました。次年度も学校ならびに職業訓練機関などの見学を進め、訓練の見直し・充実を図って行きます。

最後に各種会議および「ドリーム」などの実施ですが、会議についてはWebの活用や感染予防（人数制限、ソーシャルディスタンスの確保など）の徹底により、6者会（11回）及び中部地域ネットワーク会議、在職者交流会（各3回）実施できました。「ドリーム」については、新

型コロナウイルスの影響により、年 5 回の開催で延べ 84 名の利用となりました。次年度は、「ドリーム」の会場の変更など新たな動きがあり、「ドリーム」にとっては、リスタートの年になります。コロナ禍でのドリームの運営の仕方も含め、次年度は今後の「ドリーム」の在り方を考えていきたいと思ひます。

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 法人内研修への積極的参加	法人内研修への参加	①法人内研修への参加(各職位研修、理念研修など)	ア) 新規採用職員研修 (4 月) イ) 主任・副主任研修 (8、9、10 月) ウ) 中級一般職員研修 (9 月) エ) 新主任・副主任研修 (10 月) オ) 新任職員フォローアップ研修 (11 月) カ) 成年後見制度研修 (12 月) キ) 中級一般職員研修Ⅲ (1 月) ク) 課長研修 (2 月)	○
【共通】 神戸聖隷ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①ハンドブックを活用した職員によるお話	ア) 新型コロナの影響で、各セクションの職員会議で職員による話については未実施	×
【共通】 法人理念の共有	基本理念の唱和	①全体職員会議での理念の唱和	ア) 各職員会議において基本理念を黙読 (7~3 月)	○

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 内部研修、 外部研修 の効果的 な活用	外部研修の 活用	①外部研修参 加	ア) 15 の外部研修に 26 名の職員が 参加 (7、8、9、10、11、12、2月)	○
	内部研修の 活用	①内部研修実施	ア) 担当で打ち合わせを実施 (6、7、9月) イ) 内部研修「支援者に必要なコ ミュニケーションについて」を 実施し、6名が参加(9月) ウ) 内部研修「利用者さんとのコ ミュニケーション」を実施、6名 が参加(10月) エ) 内部研修「利用者さんと向き合 う重要性」を実施し、8名が参 加(10月) オ) 内部研修「合理的配慮(身体・視 覚・聴覚・LGBT)」を実施し、8 名が参加(11月) カ) 内部研修「就労支援基礎講座」 を実施し、8名が参加(11月) キ) 内部研修「リーダーシップの取 り方」を実施し、6名が参加 (11月)	○
	外部資源の 活用	①就業支援アド バイザーの活 用	ア) 担当での打ち合わせを実施 (6、7月) イ) 就業支援アドバイザーによる 意見照会を実施(8、10月)	○
	権利擁護意 識の向上	①虐待防止事例 検討会の実施 (2回)	ア) 事例について、職員会議で検討 (6、7月) イ) 事例を選定(9月) ウ) 事例検討会を実施(12、1月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
訓練内容の充実	訓練プログラムの充実	①他施設見学	ア) 兵庫障害者職業センター、総合リハビリテーションセンター能力開発課に見学を打診(6月) イ) 友生支援学校、青陽須磨支援学校、職業センターを見学(1月)	○
	外部訓練の拡充	①体験実習先開拓	ア) しあわせの村で実習実施(12月) イ) 那須梱包で実習実施(11、2月)	○
【共通】 職場定着支援の継続	在職者の交流促進	①在職者交流会の実施 ②ドリームの実施	① ア) 第1回「Work&Life 講座～長く働き続けるために身体を作ろう」を開催し、33名参加(9月) イ) 第2回「Work&Life 講座～オンラインミーティングシステムの活用方法及び留意点について学ぶ」を開催し、28名参加(11月) ウ) 第3回「Work&Life 講座～LET'S 温活!～カラダもハートもポッカポカ♪～」を開催し、8名参加(3月) ② ア) 感染対策を講じ、ドリームを5回実施し、延べ84名参加(6、7、9、10、11月)	○
	就労定着の促進	①就労定着支援事業の実施	ア) 延べ362名の定着支援を実施(毎月)	○
【就労】 利用者・相談者の利便性向上	相談者の利便性向上	①土曜開所継続	ア) 第3土曜日に開所(毎月)	○
【就労】 就労相談支援の充実	就労相談支援の拡充	①生活困窮者等支援及び地域関係機関支援	ア) 「教えて就活」を実施し、24名が参加(12月)	○
	相談者の現状とニーズ把握	①現況調査(葉月作戦)の継続(年1回)	ア) 現況調査票(747件)を郵送(8月) イ) 結果集計及び報告書作成(1月)	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
【共通】 支援マニュアルの整備による円滑な業務遂行	マニュアル作成・更新	①マニュアルの作成、運用と見直し	ア) 苦情解決、虐待防止、防犯等のマニュアルを整備（7、8月）	○
【共通】 ワンストップサービス機能の拡充	重層的な相談支援の実施	①生活、発達、就労の一体的な相談支援の現状把握	ア) 発達相談と就労相談と合同会議により、ケース共有を実施（6、7、8、9、10、11、12、1、2、3月）	○
【共通】 虐待防止セルフチェックリストの実施	虐待防止の促進	①チェックリストの実施	ア) 虐待チェックリストの配布（9、2月）	○
【共通】 顧客満足度調査の実施	虐待防止の促進	①調査実施と集計	ア) 顧客満足度調査を実施（11月） イ) 集計とまとめを作成（12月）	○
【共通】 虐待防止研修	ニーズの把握	①虐待防止研修の実施	ア) 虐待事例検討会を実施（12、1月）	×

(4) 経営の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
	指定管理更新	①指定管理申請と更新	ア) 指定管理申請（9月） イ) 指定管理更新説明会に参加（3月）	○
【共通】 事業内容の充実と誠実な遂行	関係機関との各会議の開催	①ネットワーク会議	① ア) コロナのため、5、2月とも中止	×
		②就労移行支援部会	② ア) 第1回会議は、新型コロナの影響により書面にて実施（7月）	△
		③教育関係機関就労支援連絡会議	③ ア) 第1回会議を実施（10月） イ) 第2回会議コロナのため中止	△

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
【共通】 事業内容の充実と誠実な遂行	相談者の実習の機会の確保	①神戸市トライアル実習、訓練雇用の実施	ア) トライアル実習の公募 (6月) イ) トライアル実習の面接 (7月) ウ) 実習実施 (7~3月)	○
【ワーク】 積極的な営業活動	ワークセンターに関する情報発信	①見学受入 ②学校等訪問 ③ホームページ更新と内容の充実	① ア) 新型コロナの影響で8月予定のオープン見学会中止に伴い、神戸市の協力により施設紹介ビデオ作成 (7、8月) ② ア) 特別支援学校など延べ14校訪問 (8、11月) ③ ア) ホームページを15回更新 (6~3月)	△ △ ○
	訓練生確保	①途中入所者の確保	ア) 3名途中入所 (6月、3月)	△
【ワーク】 利用者の出勤率と職場定着率の向上	安定した出勤率の達成	①出勤率の確保	ア) 新型コロナによる利用自粛要請後、利用率向上のため在宅支援を導入 (4、5月) ア) 年間出勤率(対法定)は60.26%	△
	職場定着の促進	①定着率の確保	ア) 定着支援利用者における離職者ゼロ イ) 延べ362名の定着支援を実施 (毎月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
【共通】 地域交流の継続	地域の人々との関係構築	①地域交流の継続	ア) 新型コロナの影響で未実施	×
	地域貢献	①地域清掃活動	ア) 新型コロナの影響で未実施	×

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
【就労】 地域内の 関係機関 の支援力 向上	地域内の支 援者支援	①中部ネットワ ーク会議 ②6 者会の開催 ③就業支援基礎 研修	① ア)第1回『怒りとうまく付き合 うために～アンガーマネジメ ントの紹介～』を実施し、13名 参加(9月) イ)第2回『働いている方のお話を 聴く会』を実施し、24名参加 (10月) ウ)第3回『教えて 就活!』を実 施し、38名参加(12月) ② ア)新型コロナにより、Webによ り開催(5、12、2月) イ)対面により代表者会を開催 (6、8、10、1、3月) ウ)担当者会は書面で実施(7、9月) エ)対面により担当者会を開催 (11月) ③ ア)職業センター等と打ち合わせ 実施(6月) イ)研修案内発送(7月) ウ)就業支援基礎研修の開催 (8、9月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
【共通】 ワークラ イフバラ ンスを意 識した働 き方の励 行	仕事と家庭 生活のメリ ハリ	①超過勤務、有 給休暇取得の 状況確認	ア)超過勤務時間が月 30 時間以上 の職員ゼロ。 イ)有給休暇取得状況の確認 (9、12月)	○
	風通しの良 い職場づく り	①職員面談の実 施	ア)職員面談の実施 (6、7、8、10、11、12、2、3月)	△

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
グループホーム アリエッタ北須磨
管理者 森崎 康文

第4期中期計画のビジョン

グループホームでの生活支援と就労支援機関との連携を通して、就労している障害者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します

第4期中期計画の1年目である2020年度は、新型コロナウイルスへの対応に奔走した1年でした。手指消毒、毎朝夕の検温、外出時のマスク着用の徹底はもとより、ドアノブなどの共用物の消毒や食事提供方法を食堂対応から個室対応に変更するなど、感染予防に努めてきました。また、利用者にもお休みの日中の過ごし方で、繁華街への外出を自粛してもらうなど協力をしていただき、現在のところ、新型コロナの感染者もなく、利用者みなさまに過ごしていただいています。ウイルスの変異により、より感染力のあるウイルスの存在が言われておりますが、今後も引き続き感染防止策に努めながら利用者が安心して生活でき、かつ職員が安心して働ける環境を整えて行きます。

コロナ以外のトピックスとしては、①基本的な生活支援のマニュアル作成、②医療機関との連携による健康管理、③利用者の現状に即した支援区分への見直しによる収支状況の改善、④入居者のプロフィールシートの完成があります。

まず、基本的な生活支援のマニュアル作成ですが、昨年度作成していた仮のマニュアルをもとに、新型コロナ対策を加味し、内容の更新をしました。

次に、医療機関と連携による健康管理ですが、利用者の中で体調不良の方が出た段階で迅速に受診するなど、適切に対応してきました。その中で、協力医療機関をはじめ、利用者のかかり付け医との関係構築もできました。また、受診については、当ホーム職員が付添う以外にも別の社会資源の活用とともに、入居者のみで受診していただき、その後に医療機関から連絡をいただくなど新たな方法で実施しました。これからも、受診内容によっては、入居者の「自立」を支援するというスタンスで、入居者自身でできることを増やして行けるように取り組んで行きます。

続いて、利用者の現状に即した支援区分の見直しによる収支状況の改善について、支援区分の再判定を受け、これまでより高い支援区分に変更となり、収支状況の改善につながりました。

今後、他の利用者についても支援区分と実際の支援状況に乖離がある場合は、適正な判定のもとに支援を提供することで健全な経営ができるように努めて行きたいと思っております。

最後に、入居者のプロフィールについて、本人・家族からの聞き取りをもとに完成することができました。今後は、職員間でのプロフィールシートの共有を行い、個別支援に活かして行きます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
【共通】 法人内研修への積極的参加	法人内研修への参加	①法人内研修への参加(各職位研修、理念研修など)	ア) 新型コロナの影響やシフトの関係上、参加なし	×
神戸聖隷 ハンドブックの活用	会議等での神戸聖隷ハンドブックの活用	①ハンドブックを活用した職員によるお話	ア) 新型コロナへの対応や職員シフトの関係のため、職員会議ができず、未実施	×
法人理念の共有	基本理念の唱和	①全体職員会議での理念の唱和	ア) 新型コロナへの対応や職員シフトの関係上、職員会議ができず、未実施。次年度4月の職員会議日程調整済み(3月) イ) 法人理念を101号室(世話人室)に掲示	×

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
研修の効果的な活用	外部研修の活用	①外部研修参加	ア) 新型コロナの影響やシフトの関係上、参加なし	×
	内部研修の活用	①内部研修実施	ア) 新型コロナへの対応や職員シフトの関係上、未実施	×
権利擁護の推進	権利擁護意識の向上	①虐待防止研修等への参加 ②虐待チェックリスト(セルフチェック)の実施	① ア) 新型コロナ及びシフトの関係上、研修は未実施。代わりに、職員の個別面談を通して、虐待防止への意識づけを実施(1、2月) ② ア) 虐待チェックリストの配布(9月、2月)	×

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの整備	マニュアル作成	①基本的な生活支援のマニュアル作成 ②個別のスケジュール作成	① ア)各シフトの支援内容や職員の動きを整理し、新型コロナ対策を踏まえたマニュアルを作成(4、5月) ② ア)新型コロナ対策を踏まえて、各利用者の1日のスケジュールの見直しを実施。(4、5月) 1)生活面で課題のある利用者については、見守りや直接的な支援の必要性があり、スケジュールを更新(4、5、10、1月) 2)個別支援の充実を目的に、入居者のプロフィールシートを作成(2月)	○
健康管理	医療機関との連携	①医療機関との連携による適切な健康管理	ア)利用者の体調不調時に、施設の協力医療機関や利用者のかかり付け医を社会資源の活用や入居者自らの力でタイムリーに受診(毎月)	○
防災対策	避難・防災訓練の検討	①避難訓練等の実施 ②災害時を想定した防災訓練の実施	① ア)避難訓練未実施 ② ア)消防設備点検を実施(6、12月) 2)防災訓練未実施。火災、地震時の対応について職員間で検討(3月)	×

(4) 経営の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
収支の改善	収支状況の把握と改善策の検討	①稼働率の把握 ②経営上の適正な職員数配置と利用者の現状に即した支援区分への見直し依頼	① ア) 毎月、利用率の把握を実施(毎月) ② ア) 生活支援の頻度が多い利用者の支援区分の見直しを実施し、結果区分1から区分4に変更(4月)	○
堅実なバックアップ体制構築	バックアップ体制の構築	①堅実なバックアップ体制構築	ア) ワークセンターひょうご職員が、夜間も含めて緊急時に対応できるような体制を確保(毎月)	○

(5) 地域貢献の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域との連携	地域とのつながりをつくる	①地域でのイベント等への参加・協力	ア) 新型コロナの影響で地域のイベント等が中止となり、未実施	×

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
ワークライフバランスを意識した働き方の励行	仕事と家庭生活のメリハリ 風通しの良い職場づくり	①超過勤務、有給休暇取得の状況確認 ②職員面談の実施	① ア) 超過勤務については、業務上必要な場合を除いては基本なし イ) 有給休暇取得状況の確認(9月、12月) ② ア) サービス管理責任者との世話人等によるコミュニケーションを日常的に実施 イ) 必要に応じて、バックアップ施設の支援課長により面談を実施(4、6、11、1、2月)	○

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ひょうご障害者地域生活支援センター

神戸市障害者基幹相談支援センター

神戸市発達障害者中部相談窓口

所長 森崎 康文

第4期中期計画のビジョン

障害のある方が安心して地域生活を続けていけるよう身近な相談機関としての役割を果たします。

今年度は全事業共通として新型コロナウイルス感染防止対策のため、時差出勤や在宅勤務を取り入れたり、オンライン研修を実施、事務所内の密を避けるために勤務形態の見直し、飛沫防止パネルの設置等を行い日々感染防止対策に取り組んできました。

また次年度から5年間の指定管理の更新年度となり、指定申請書類を神戸市に提出を行い、安定的な事業運営継続を目指しました。

まず最初に障害者地域生活支援センターですが、自立支援協議会の事務局として各部会運営を行いました。5月の全体会は中止となりましたが、感染対策を講じながら順次6月以降各作業部会再開しています。コロナ禍で障害当事者や高齢の方々の生活の変化、情報共有の場として、課題の抽出をしました。見守り支援事業では対象者への郵送調査を経て台帳の整備が整いました。各区に配置された見守り支援員間で定期的な連絡会を開催し、意見交換を行い、今後は具体的な訪問やアウトリーチを実施していきます。また委託の調査業務（認定区分、勘案、移動支援）では、訪問を基本としていますが、感染への懸念から訪問に抵抗を感じている方には電話で聞き取りを行う等対象者の状況に応じて対応しました。また入所施設や病院を退院して、地域で暮らしていけるよう地域移行支援にも取り組みました。

次に基幹相談支援センターは、職員配置が2名となり、定期的な圏域コーディネーター会議や階層別の会議だけではなく、更なる市内特定相談支援事業所の後方支援に取り組めるよう積極的に各区自立支援協議会の相談支援部会等に出席し、現状の把握に努めました。市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会では、参加者の密集を避けるため、少人数で同じ内容を4回開催しました。また児童発達支援センター連絡会や神戸市療育ネットワーク会議に出席し、児童の計画相談支援の取り組み課題等を話し合いました。初任者研修では企画構成委員のリーダーとしてメンバーを牽引し、より良い研修の実現を目指していましたが、新型コロナウイルスの影響で開催日が大幅に遅れたものの、3月末には関係機関との調整を経て、研修修了証を165名（内神戸圏域49名）に交付することができました。

最後に発達障害者中部相談窓口では、地域活動支援センターとの連携を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、積極的な訪問等は行えず電話、メール等で関係構築に努めました。また発達障害者への理解と啓発を目的に「おいでやすカーニバル」で相談ブースを設けることを企画していましたが、開催中止のため実施に至りませんでした。専門性の向上では関西学院大学の講師が巡回相談で来所し、ケース検討を通じて個々の相談員のスキルアップを図り、毎月他の相談窓口との連絡会にも参加しました。ハード面では発達障害者支援セン

ターより各相談員にタブレットが貸与され、オンライン研修や必要に応じて相談者への対応に活用するようになっていきます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
法人理念に触れる機会を活かし研修に参加	理念研修に参加	①法人理念研修に参加	ア) 法人中級研修 (9月) イ) 法人主任研修 (9月) ウ) 法人上級一般職員研修 (1月) エ) 法人課長研修 (2月)	○
聖隷ハンドブックの活用	ハンドブックを活用した職員によるお話し	①職員会議時に職員からのお話し	ア) 新型コロナウイルス感染防止のため職員会議は中止 (4~6月) イ) 感染防止対策を行い職員会議時に職員のお話し (7~3月)	△
法人基本理念の唱和	全体職員会議時に唱和	①全体職員会議時に唱和 (2ヶ月毎)	ア) 新型コロナウイルス感染防止から職員の密を避けるため、全体職員会議は中止、書面にて情報共有 イ) 各セクションの職員会議時に法人基本理念を黙読 (8~3月)	△

(2) 人材育成・定着の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
多様な相談に応じることができる職員を育成できるよう育成プログラムを活用	定期ヒアリング スーパーバイズの定例実施	①定期ヒアリング (3回/年) ②スーパーバイズ (3回/年) 2週間以内に記録を整備、提出	① ア) 職員と定期ヒアリングを実施 (6.10月) ② ア) 機能強化員 (主任) によるスーパービジョン (7.11月)	○
内部研修、外部研修の効果的な活用	内部研修の実施 外部研修の参加	①内部研修の企画、立案、調整、実施 (2回/年)	ア) 担当者による打合せ (6月) イ) スペシャルラーニングのテーマ別研修を企画 (7.8月) ウ) 内部研修としてテーマ別に6回に分けて実施 (9~11月)	◎

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
人員配置増に伴い業務内容を整理	職員配置の増員につき業務分担、内容を整理	①市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会の充実	ア) 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会を 4 回開催。参加者 46 名、35 事業所 (9.10 月) イ) ファーストレベル研修の企画を神戸市と協議 (7 月) 初任者研修延期のため実施できず (3 月) ウ) きほんのき ZOOM 配信 (3 月)	○
初任者研修の企画構成委員として企画運営及び実施	初任者研修の企画、構成、実習受け入れ調整	①新カリキュラム導入に伴い円滑な研修の企画、構成	ア) 初任者研修企画構成委員会中止 (4.5 月) イ) 初任者研修企画構成委員会にて演習役割確認、インターバル期間の課題、講師打合せ (6~3 月) ウ) 初任者研修受講者 121 名 (神戸圏域 36 名) に修了証を交付 (3 月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
定期的なケース検討	区打ち合わせ 朝礼、 職員会議	①毎月の区との打ち合わせ ②朝礼時のケース共有 ③職員会議時にケース検討	① ア) 区との打ち合わせは電話にて行い対面はなし ② ア) 朝礼時に気になるケースは随時報告、連絡ノートにて共有 ③ ア) 職員会議時にケース検討 (7 月 4 ケース、9 月 2 ケース、10 月 1 ケース、11 月 1 ケース、12 月 1 ケース、2 月 1 ケース)	○
発達障害者相談窓口と地域活動支援センターとの連携	地域活動支援センターの訪問、ケース共有	①地活との連携により、ケースを深める (3 回/月)	ア) 地活への訪問は控え、電話で中央地活、地活ヨハネ、地活長田に連携が必要なケースの確認を行う (7.3 月) イ) 地活、つどいへの見学同行 (11.12 月) ウ) 地活担当連絡会に出席 (11 月) 長田区せいしん部会にて地活ケースの事例検討 (8.10 月)	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
ワンストップサービスの機能の定着	各事業所間の共有	①各事業の進捗状況の確認及び共有	ア) ワークセンターひょうご訓練生の地域移行を事業所間で情報共有、支援者会議 (4~7月) イ) 発達、就労、支援センター連携ケース (6月2件) ウ) 発達、就労、支援センター、見守り支援事業との連携ケース (各月1~4ケース)	◎
虐待防止セルフチェックリスト	サービスの質の向上	①虐待防止セルフチェックリストの活用	ア) 法人虐待防止チェックリスト実施 (9.2月) イ) 神戸市虐待対応ワーキングチーム (2.3月)	○
顧客満足度調査		①顧客満足度調査の実施 (1回/年)	ア) 顧客満足度調査計画相談契約者12名、発達相談窓口13名 (12月)	○
虐待防止研修		①虐待防止チェックリストの活用 (2回/年)	ア) 障害者虐待対応力向上研修 (9月) イ) 神戸市虐待防止研修 (1月) ウ) 事業所部会虐待防止研修 (12月) エ) 兵庫区主催虐待定例会に出席 (9.3月)	○
環境整備		①アメニティーの向上	ア) 担当者間で打合せを行い、掲示物の整理、更新、パンフレットラックを移動 (6月~毎月)	◎

(4) 財務（経営強化）の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	安定した業務の継続	①指定管理の更新	ア) 指定管理の書類準備、提出 (9月) イ) 神戸市よりセンター名称変更について説明 (12月)	○
	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①自立支援協議会事務局運営 (各部会、運営委員会、総会)	ア) 総会は中止、書面報告 (5月) イ) 運営委員会 (6.8.10.12.3月) 相談支援部会 (7.9.11.1.3月) 3区合同 (須磨、長田、兵庫区/9月) 事業所部会 (6.8.10.12月) 防災を考える部会 (6.8.10.12.3月) 活性化部会 (7.9.11.3月)	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
神戸市からの委託業務継続	自立支援協議会、調査業務、見守り支援事業、相談支援体制強化、相談窓口機能	①調査業務 (勘案、区分、移動支援)	ア)調査件数上半期(勘案 296 件、区分 116 件、移動支援 80 件、訪問入浴 3 件) 下半期(勘案 312 件、区分 116 件、移動支援 76 件)	◎
		①見守り支援事業 (関係機関連携、連絡会)	ア)見守り支援員連絡会(6月～毎月) イ)見守り内容について関係機関と意見交換、台帳整備、パソコン貸与(6月～毎月) ウ)区あんしんすこやか係(高齢)に事業案内、挨拶(11月) 区あんしんすこやか係(障害)と打合せ(3月)	○
		①相談支援体制強化 (圏域コーディネーター連絡会、階層別連絡会)	ア)圏域コーディネーター連絡会にて兵庫県より情報提供、圏域の相談支援関連の状況、意見交換(6月～毎月) イ)コーディネーター連絡会(7. 9. 11. 1月) ウ)機能強化員自主連絡会(6月～毎月) エ)センター連絡協議会(6月～毎月)	○
		①発達障害者相談窓口機能(相談員連絡会、ペアレントトレーニング、グループセッション)	ア)前期のグループセッション、ペアレントトレーニングは中止 後期は開催(10. 11. 12月) イ)パートナーの会(8月) ウ)ペアレントトレーニング全大会(9月) エ)関学巡回相談(9. 1月)	○
加算要件を満たす体制確保	事業所加算の取得	①指定研修修了者を配置	ア)初任者研修受講修了者1名(3月)	○
個別ニーズへの対応	計画相談、一般相談支援の取り組み	①計画相談 26 件、地域定着 2 件、地域移行 1 件	ア)計画相談契約者 1 名施設入所のため終了(7月) イ)新規契約者 2 名(1. 2月) 合計 27 名(3月末現在)	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
個別ニーズへの対応	計画相談、一般相談支援の取り組み	①計画相談26件、地域定着2件、地域移行1件	ウ)地域移行はグループホームに入居となり終了(7月) エ)地域定着3名の支援を継続中	○

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握と対応	身体知的相談員連絡会の開催	①地域課題の抽出(3回/年)	ア)相談員の高齢化、新型コロナ感染への懸念より連絡会は中止、報告書を回収し神戸市に提出(4.7月) イ)相談員連絡会(12.3月)	○
	ほっとかへんネットへの参画	①関係機関との連携(実務者会、生活環境改善事業研)	ア)ほっとかへんネット兵庫役員会に出席(5.9.12月) イ)実務者会、生活環境改善事業は未実施	△
	発達障害者の理解と啓発	①おいでやすカーニバルで相談ブースを設置	ア)「おいでやすカーニバル」中止に伴い、発達障害者に対する啓発活動は未実施	×
	災害時要援護者支援	①障害者支援センターとして避難訓練の実施	ア)近隣特養と基幹福祉避難所開設訓練を実施(11月) イ)福祉専門職対象防災対応力向上研修に参加(9月) ほっとかへんネット兵庫「災害時支援研修」に参加(2月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
働きやすい職場作り	有給休暇の取得推進	①計画的付与(5日以上)	ア)取得率54.3%	○
	超過勤務の軽減	①各職員の超過勤務を月10時間以内	ア)月10時間を超える職員2名(6月) イ)超過勤務月平均3.1時間(職員12名)	○

2. 出来た事案
特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 ひょうごデイサービスセンター
施設長 大嶋 信幸

第4期中期計画のビジョン

地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します。

職員が安心して働き続けられる事業所を目指します。

今年度は4月に発出された緊急事態宣言による自粛要請により、多くの利用者に利用自粛の協力をして頂いた結果、ひょうごデイサービスセンター開設以来の大幅な減収となりました。重度の障害をお持ちの方が利用されている事業所として、利用者の安全を最優先にした判断でしたが、経営面では大きなダメージとなりました。

そのような状況の中で第4期中期計画1年目が始まりましたが、第3期中期計画で取り組んだ経験を活かして、感染対策を行いながら各リーダーを中心に一つひとつの計画を確実に推進しました。長年の課題であった人材確保育成の視点では、コロナ禍で外部の研修に参加する機会が減ったところを内部研修で補い、新着職員研修を始め、職員の身体的負担軽減や安全安心な支援を目的とした介護福祉機器の使い方の研修や、外部研修で学んだスヌーズレン研修、口腔ケア研修のフィードバック研修を行い、支援力の底上げを図りました。また、エルダー制度を用いて丁寧な指導と振り返りを行い、技術面だけでなく精神面でのフォローをすることで定着に努めました。その結果、新着職員の退職者が一人もでませんでした。利用者支援においては、医療的ケアの方への利用促進のために医務機能の強化に取り組みましたが、看護師の欠員補充ができず、計画の見直しを行わざるを得ませんでした。次年度4月より1年ぶりに採用が決まりましたので、引き続きセクションの壁を超えた協働体制について検討していきます。地域の視点については、初めて受け入れを予定していた「トライやるウィーク」がコロナの影響により中止となり、その代わりとして「事業所インタビュー」の受け入れを行いました。近隣の小学校にも地域交流プログラムの提案のために訪問をしました。少しずつですが地域交流の歩みを始めています。地域生活支援拠点としての役割である緊急短期入所については、神戸市と協議をしながらマニュアルに基づいての受け入れを実施し、延べ90人の受け入れを行いました。11月以降、体調不良等により2名の職員が夜勤の兼務ができなくなり体制に苦慮しましたが、一人夜勤や週末閉所など安全を考慮しつつ可能な限りの受け入れを行いました。

次年度に持ち越した計画や課題はありますが、「利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します」とのビジョンの実現に向けて、職員が一つの方向を向きながら一丸となって取り組んでいきます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
理念研修の実施	外部講師を招いた研修	①外部講師を招いての研修実施(年2回)	ア) 基本理念研修、起案書作成(9月) イ) 基本理念研修(11月、3月) ウ) 振り返りアンケート実施	○
職員のリードによる法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針の唱和	職員のリードにより週1回法人基本理念、ひょうごデイサービス基本方針の唱和	①法人基本理念とひょうごデイサービスの基本方針を毎週月曜日の朝礼で唱和	ア) 基本理念の唱和の仕方を検討(職員が持ち回りでリード) イ) 毎週月曜日朝礼にて唱和(感染対策のため代表者のみ音読)	○
神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い	①神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い(2か月ごと・年6回)	ア) 神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い セクションごと(5月、6月) 人数制限でのセクション合同開催(7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月) イ) 振り返りアンケート実施(3月)	◎
接遇ハンドブックを用いた勉強会	接遇ハンドブックを用いた勉強会	①接遇ハンドブック等を用いた勉強会の開催(2か月ごと・年6回)	ア) 接遇セルフチェック実施(6月) イ) 接遇アップキャンペーン(7月、9月、12月、3月) ウ) 接遇ハンドブックの読み合わせ(7月、9月、12月、3月) エ) 「接遇チェックリスト」を用いてセルフチェック実施	△

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
職員の知識と技術の向上	外部研修への参加	①外部研修参加(年12回)	ア) 外部研修参加9名(11月-3月) イ) 研修の時系列一覧表完成(3月) ウ) 次年度に向けた研修希望アンケート実施(3月)	○
	内部研修の実施	①外部研修受講者によるフィードバックを含めた内部研修実施(年4回)	ア) 新着職員研修実施(7月) イ) スノーズレン研修実施(10月) 外部研修受講者による研修 ウ) 介護福祉機器の使い方研修実施(12月) エ) 口腔ケア研修実施(2月) 外部研修受講者による研修	◎

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
身体的・精神的負担の軽減	エルダー制度の確立・運用	①現行のエルダー制度の運用、見直し	ア) 現行エルダー制度の確認 イ) アンケートの内容検討(9月) ウ) 現在のエルダー対象者へアンケート実施 エ) アンケートの内容精査し変更点検討 オ) 変更点を職制会議にて確認しマニュアルの改訂	○
	介護福祉機器等の運用・検討	①2019 年度末導入の装着型介護ロボットの運用	ア) 運用のためのシフト作成 イ) シフトに沿った装着運用 ウ) 上半期を振り返ってのアンケートを実施(9月) エ) アンケート結果に基づいた話し合い(11月) オ) 次年度の運用について検討(3月)	△
	職員の不安の把握、対応策の検討、実施	①職員の不安の把握方法検討と実施、指標の基準となる職員アンケートの実施	ア) 職員の不安の把握方法として、意見箱設置(6月) イ) 意見箱の設置場所や現状について意見を伺うためアンケート実施(2月)	○

(3) QOL の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
マニュアルの作成・更新と有効的な活用	エルダー制度と連携したマニュアルの活用	①エルダー制度と連携したマニュアルの活用方法の検討と実施	ア) 現行エルダー制度の確認 イ) 標準マニュアルの確認 ウ) 新着職員に対する標準マニュアル活用方法の検討 エ) 配布用マニュアルの製本、個別にサイズ選択し配布(10月)	○
	支援の標準化を目指したマニュアルの活用、見直し	①支援の標準化を目指したマニュアルの活用方法及び更新方法の検討と実施	ア) 一部のマニュアルの見直し・改訂作業を実施(上半期) イ) マニュアルの見直し・改訂作業(下半期)	○

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
医務機能の維持・強化	医務ミーティングの開催	①医務ミーティングの定期開催(月1回)	ア) 毎月1回の医務ミーティングを開催し医務にかかわる情報を共有	◎
	ひょうごデイ全体での協働体制の確立	①ひょうごデイサービス全体での医務協働体制の検討・準備	ア) 現状での看護業務内容を再確認・共有 イ) 協働体制について検討 ウ) 看護業務の引き継ぎについて検討(3月)	○
利用者支援の再考	送迎・入浴等支援業務の見直し	①職員配置に影響されないサービス提供のための業務の見直し	ア) 送迎・入浴等支援業務の見直し箇所がないか検討 イ) 支援の見直し点についてのアンケートを実施(3月)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
日中活動利用を視野に入れたアクセスひょうごの計画的な受け入れ	ひょうごデイ、他事業所利用者の日中利用促進とそのため受け入れ調整	①日中活動につながるアクセスひょうごの受け入れ方法の検討と受け入れ着手	ア) アクシスひょうごの事業所別利用率把握(5月) イ) 日中利用増に繋がる短期入所利用の利用者をピックアップ ウ) 報酬単価の勉強会実施(7月) エ) 通所事業所利用者の短期入所利用促進(8月、11月) オ) 利用促進による日中利用増(9月、1月、3月)	○
利用率安定のための待機者確保	受け入れ可能になった時に備えた待機者確保、待機者のスポット利用のお誘い	①関係機関と連携のもと待機者リストの作成と必要時の待機者への連絡	ア) 近隣支援学校卒業予定者の利用希望を確認 イ) 待機者リスト作成(6月) ウ) 見学等の案内実施(7月、8月、9月) エ) 支援学校体験実習受け入れ(7月、10月、3月)	△
一日の受け入れ人数増のための事業所内整備	受け入れ可能人数増のための事業所内整備	①効率的な受け入れのための整備計画立案と予算化	ア) 廊下空きスペースの活用検討 イ) コロナ禍のため整備計画を感染対策に変更 ウ) デイルーム内の整備(テーブルの追加とパーテーションの設置) エ) ベッド、電動ベッドを増設	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
コスト削減を含めた収支バランス健全化の全体での周知徹底	コスト削減	①コスト削減計画立案と実施	ア) コスト削減対象(電気)の現状把握が難しく節電啓発を実施 イ) 次年度に向けて全職員が意識しやすい項目を再検討	△
	利用者費用負担の伴うオプションサービスの実施	①オプション負担計画立案	ア) 基本報酬と加算について職制で再確認(7月) イ) 現状のオプションを確認し、負担項目について意見交換	△

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域との交流からニーズを把握	交流プログラムの企画・作成・実施	①交流プログラムの企画	ア) トライやるウィーク、ワークキャンプ問い合わせ(6月) イ) 交流プログラム検討 ウ) 須佐野中学校から事業所インタビューで5名来所(11月) エ) 地域交流プログラム提案のため兵庫大開小学校訪問(12月) オ) 次年度ワークキャンプ申し込み	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
業務プロセスの見直しと構築	業務内容の洗い出し、業務分担の見直し	①業務内容の洗い出し	ア) 業務の洗い出しシート作成(年間・月間・1日用) イ) 年間・月間の洗い出しを実施し、データ収集(7月、8月) ウ) 1日の業務の洗い出し実施 エ) 洗い出し振り返りアンケート実施(10月) オ) 課題抽出のためのデータ収集、資料作成	○
	パソコン共有データファイルの整理	①データファイルを整理するシステムの検討	ア) 個人の保存データ、共有保存データ整理(8月～11月) イ) 共有データファイルの整理方法決定(12月) ウ) データのタイトルの付け方を決定	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
業務プロセスの見直しと構築	ICT化等による環境の整備	①情報収集 ②導入品検討、予算化	① ア) ICT化等について職員アンケート実施(6月) イ) アンケートに基づいた機器の情報収集 ② ア) アンケート結果に基づき導入機器を検討 イ) 電子記録システム導入済み施設への見学(1月)	○
有給休暇取得方法の見直し	有給休暇取得状況の把握と計画的取得	①希望有休のニーズ調査 ②取得方法の検討	①② ア) 有給休暇取得について職員アンケート実施(8月) イ) アンケート結果に基づいての有給休暇の付与について職制会議で検討(9月) ウ) 次年度有給休暇取得予定について職員アンケート実施(3月) エ) 次年度の勤務表にアンケート結果が反映できるように職制会議で共有(3月)	○
緊急ショート受け入れ体制の整備	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	①受け入れ方法の確立 ②マニュアル作成	① ア) 地域生活支援拠点事業(緊急ショートステイ)について神戸市に確認(7月) イ) 緊急ショートステイ受け入れ要請時における外部機関との連携フローの明確化 ウ) 障害支援課による「緊急受け入れ事業マニュアル」を専任職員と共有(11月) ② ア) 神戸市策定の「マニュアル(案)」を基に事業所内マニュアルを作成(9月) イ) 神戸市策定「緊急受け入れ事業マニュアル」についてマニュアル委員会と共有 ウ) 「緊急受け入れ事業マニュアル」を事業所内に設置	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
夜間緊急時の対応の整備	通常夜間緊急時の対応整備	①対応マニュアルの見直し	ア) 夜勤専任者会議を開催(隔月) イ) 緊急時の対応について不安等の課題を抽出	◎
	一人夜勤緊急時の対応整備	①対応マニュアルの検討	ウ) 課題に基づいて「AED 操作勉強会」「緊急事態発生時の初動訓練」「介護技術勉強会」「初期対応の訓練」「応急処置勉強会」実施 エ) 緊急時対応マニュアルを更新し、初動の視覚化(電話前に設置)	○

2. 出来た事案
特にありません。

2020年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸市立自立センターひょうご
施設長 大森 陽子

第4期中期計画のビジョン

利用者・家族の今日と明日を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります

第4期中期計画の初年度は新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受け、順風満帆とはいえないスタートでしたが、その中でもできることや方法を工夫して取り組みました。

今期の計画ではご利用者とそのご家族が将来にわたって笑顔で豊かな生活を送れるように職員が支援力を磨いていくことを目標としそれぞれの計画を推進しました。

まず、ご利用者が「今」を笑顔で過ごせるための取り組みとしてご利用者の思いに寄り添った支援ができるよう事例検討会や虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会を行い、現在の支援を振り返りよりよい支援を考える機会としました。ご利用者の日々の活動については脱マンネリ化を目指し、パラバルーンやシャボン玉などいくつかの新しい活動を取り入れました。また、祝日プログラムについてはグループごとや二部制でのイベントを取り入れるなど、感染防止に配慮して実施しました。ご利用者が楽しみにされている日帰り旅行については中止せざるを得ない状況となりましたが、それに替わる楽しみとして近隣飲食店のデリバリーを利用した屋外でのランチ会を計画し実施しました。このような取り組みを通じ、ご利用者の嬉しそうな様子を見ることができました。そして、活動スペースの整備や施設内のリスクと事故を減らすためのシステムの構築を進め、安心・安全に過ごしていただけるように努めました。

次に、ご利用者とご家族が「将来」も笑顔で過ごせるための取り組みとして、必要なタイミングで必要な助言や支援ができるよう活用できる成年後見等の制度や社会資源についての知識を深めました。また、ご家族に将来の生活をイメージしてもらうための「未来ノート」についての情報を集め、作成に向けての検討を始めました。また、すべての支援の根幹となる基本理念への学びを深めるため、吉川潤講師による勉強会を継続して行いました。さらに、基本理念をテーマとしたグループディスカッションを行い、職員同士が支援観を共有することで質の高いサービス提供のためのチームワークづくりに繋がりました。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しはまだ立たず、次年度もその影響は免れないことが予想されますが、ご利用者にご家族の笑顔が守られるよう希望をもってビジョンの実現に向けて行動していきます。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
基本理念の勉強会の実施	①基本理念勉強会の実施 (年4回:5、8、11、2月) ②勉強会ごとに振り返りシートの記入 ③講師との打合せ	① ア)第1回基本理念研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。研修に代わるものとして、昨年度の勉強会の振り返りとなる資料を配布 イ)基本理念研修第2回(8月)、第3回(11月)、第4回(2月)実施。参加できなかった職員向けにビデオ研修を実施 ② ア)勉強会ごとに参加職員への振り返りアンケートを実施 ③ ア)研修前に吉川潤講師との打合せを実施	○
基本理念の各項目についてのディスカッション	①基本理念の各項目についてのディスカッションの実施 (年2回:9、12月)	ア)ディスカッションの内容について話し合い(8、11月) イ)第1回ディスカッション実施(10月)。テーマは「基本理念を考えよう～一人ひとりに仕えと命とは、人権とは～」。 ディスカッションをもとに各グループで大切にしている支援を作成し、施設内に掲示 ウ)第2回ディスカッション実施(12月)。テーマは「基本理念を考えよう～全人的存在の意味とは～」	○
神戸聖隷ハンドブックの輪読	①毎週月曜日に輪読を実施	ア)毎週月曜日にハンドブックを輪読 イ)朝礼スピーチで各職員のハンドブックへの思いを分かち合い(8～10月)	○

(2) 人材育成・定着の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
自立センター標準マニュアルに沿った支援	①マニュアルに沿った支援の実施(食事)	ア)新型コロナウイルス感染症対策として、食事時間の2交替制の導入 イ)食事支援の現状についての話し合い ウ)食事環境の整備 エ)普通食、特別食のプレート作成(12月) オ)食事マニュアルの改訂(2月) カ)職員会議で改訂食事マニュアルの説明(3月)	○

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
新着職員の育成と定着	①エルダー制度の継続 ②エルダー会議の開催(年4回) ③新着職員研修の内容検討とリニューアル	① ア)新着職員4名のエルダーの選定(4月) ② ア)エルダー会議の開催(5、7、9、11月) ③ ア)対象者6名に新着職員研修の実施。熱中症の講義を追加。 イ)新着職員研修実施の振り返り。 ウ)新着職員研修マニュアルの作成(2月)	○
事例検討会の開催	①事例検討会の開催(年2回:6、1月) ②事例作成、支援経過の報告と共有	① ア)氷山モデルシートに基づいた事例検討会の開催(9月) イ)事例検討会に替えて、移動介助の勉強会を実施(2月) ②事例検討会対象利用者のこれまでの支援経過の情報整理	○
外部研修受講の共有	①研修受講後、朝礼での研修概要報告(全研修対象) ②職員会議での研修報告(ピックアップした研修対象)	① ア)外部研修を19名が受講。PECS研修(6月)、スーパーバイザー講座(10~12月)、嚙下障害(1月)、OJT(2月)他 イ)研修受講後、朝礼で研修概要報告(6、9、11月) ②職員会議での研修報告を実施(10、1、2月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
日中活動の充実(満足感のあるサービスを提供する)	①現在の活動の見直し ②新しい活動の検討	① ア)各グループの現在の活動プログラムの把握と共有。 ② ア)利用者・家族に活動についてのアンケートを実施(8月) イ)新しい活動の検討と提供(ボウリング大会、シャボン玉、パラバルーン、間違い探し、豆まき、ダンス、運動プログラム)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用者・家族の将来のイメージを明確にする	①家族向けアンケートの実施（将来像について） ②情報の収集（成年後見人制度、入所施設の現状等）	① ア) 将来の生活について、家族向けのアンケートの内容検討、完成。10月に配布し、集計 イ) 集計結果を職員間で共有(3月) ② ア) 成年後見制度、エンディングノート等についての情報収集とメンバー間での共有。エンディングノートは「未来ノート」として次年度に取り組みを進めることを決定	○
虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施	①虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施 (年2回：7、10月)	① ア) 研修担当5名で、虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会を実施(7月) イ) 研修参加者が各自で振り返りを行い、評価表を提出(8月) ウ) 全職員で虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会を実施(10月) エ) 勉強会の振り返りを実施(12月)	○

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
新規利用者の獲得	①見学・体験実習の積極的な受け入れ ②好印象を持っていただけのような受け入れ体制づくり ③特別支援学校、相談支援事業所との連携強化 ④ホームページを通じた空き情報等の情報発信	① ア) 支援学校等から10名の見学を受け入れ(7、9、11月) イ) 7名の体験実習を受け入れ(6、7、9、11月) ② ア) 受け入れ体制について検討(5月) ③ ア) 特別支援学校4校の見学・実習受け入れ ④ ア) ホームページで空き情報を発信	○
祝日も含めた魅力ある活動の提供	①祝日プログラムの見直し（季節に合ったプログラム等） ②年間プログラムの確立	① ア) 7月より祝日プログラムを再開 イ) ご利用者の参加意欲促進のために祝日プログラムのイベントポスターを施設内に掲示	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
祝日も含めた魅力ある活動の提供	①祝日プログラムの見直し（季節に合ったプログラム等） ②年間プログラムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ウ) 祝日プログラムの実施（サマーコンサート、納涼映画祭、山のおすもう大会、さわやかカフェ、秋まつり、新春コンサート、文字創作、映画祭り、ゲーム大会） ② ア) 今年度の年間プログラムをベースとして、次年度の年間プログラムを計画していくことを確認 	○
大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ	①神戸市との協議（予算要求の依頼） ②指定管理更新の準備	<ul style="list-style-type: none"> ① ア) 神戸市の老朽改修予算要求に4階フロアの大規模改修を掲載(6月) ② ア) 指定管理更新の準備と申請書類の提出(8、9月)指定管理更新決定(12月) 	○
活動スペースの見直し・整備 施設内美化活動	①活動スペースの見直し・整備 ②施設内美化活動の実施（年4回：6、9、12、3月）	<ul style="list-style-type: none"> ① ア) 各グループの活動スペースの整備(10、12月) イ) 作業室のパーティションの入れ替え(9月) ウ) 1、2、3グループの活動スペースのレイアウト変更(1月) ② ア) 施設内美化活動にて普段できない箇所の清掃等を実施(6、7、9、12、3月) 	○

(5) 地域の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
よつば寄席の開催	①よつば寄席の開催（年2回：5、11月） ②観客人数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ① ア) 5月のよつば寄席は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 イ) 11月のよつば寄席開催に向けて、感染防止対策の検討 ウ) 施設紹介パネルの作成(7、8月) エ) チラシの準備、近隣の店舗にポスター掲示(10月)、近隣住宅へのポスティング(11月) オ) 11月のよつば寄席は開催直前に新型コロナウイルスの感染が拡がり、中止 ② ア) よつば寄席中止 	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
よつば 寄席の開催	③寄席と共に行うイベントの検討	③ ア) イベントの検討については、感染拡大状況から保留。状況を見て再検討	○
地域清掃の実施	①月 1 回の地域清掃の実施 ②ポスター掲示 ③施設名等の印字入りビブス着用での清掃	① ア) 新型コロナウイルス、雨天、猛暑等の理由により、上半期は 9 月のみ地域清掃を実施。下半期は 10、11、12、3 月に実施 ② ア) 地域清掃ポスターの作成と掲示 (6、9、10、11、12 月) ③ ア) 合同で地域清掃を実施している神戸マツダより、施設名入りのビブス 15 枚寄贈 (7 月) その後の清掃はビブス着用で実施 イ) 神戸マツダへ感謝状と記念品を贈呈 (3 月)	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
有給休暇の取得促進計画の策定	①有給休暇取得促進計画の策定・実施	① ア) 昨年度の有給休暇取得状況の確認 イ) 今年度の有給休暇取得状況一覧表の作成 ウ) 取得数が少ない職員が有給休暇を取得できるよう勤務の調整 エ) 2020 年度有休取得率 77.9%	○
業務改善の取り組み	①業務分析 ②業務改善の取り組み	① ア) 業務に関するムリ・ムダ・ムラについて職員アンケートを実施、集計 (5、6 月) イ) アンケート結果をもとに、朝の業務についてのアンケートを実施 (7 月) ② ア) 業務改善の取り組み内容を決定。朝の業務についての一覧表等を作成 (9 月) イ) 朝の業務分担表の再調整 (10 月)、業務分担表の実施 (11 月) ウ) 業務改善の取り組みの振り返り (12、1 月) エ) 役割分担表をカレンダーで表示 (2 月) オ) 業務改善の外部研修を受講 (2 月) カ) 法人 facebook に業務改善の取り組みを掲載 (3 月)	○

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
事故・ヒヤリハットの検証と再発防止システムの確立	①事故・ヒヤリハットの判断基準の明確化 ②事故・ヒヤリハットの分析 ③対策後の振り返り等、再発防止システムの確立 (PDCA サイクル等)	① ア) 事故・ヒヤリハットの判断基準について、職員会議で説明 (7 月) ② ア) 昨年度の事故・ヒヤリハットの発生多発箇所等について分析 ③ ア) 事故報告書の様式の見直し。対策後の振り返りの欄を追加 イ) 事故発生後の対策はグループで話し合い、共有方法について決定 ウ) 事故報告書の振り返りと改訂 (11 月) エ) 事故報告書の PDCA サイクルの振り返りシステムのマニュアル完成	◎
リスクマネジメントの意識向上	①現場でのリスク箇所の情報収集 ②全職員がリスクマネジメントの意識を持てるような職場づくり	① ア) 事故が起きやすい場所についての職員アンケートの実施 (5 月)。結果を職員会議で共有 (6 月) ② ア) アンケート結果をもとにリスクマネジメント研修の実施 (9 月) イ) 研修のまとめと支援のポイント完成。職員会議にて共有 (3 月)	○

2. 出来した事案

(1) 看護師不在による人員欠如減算の可能性

2020 年 11 月、2020 年 9 月～11 月 10 日まで、看護師が不在だったことによる人員欠如減算の可能性があることがわかりました。当初、神戸市に確認した際は「看護師のみの欠如であれば減算とはならない」との回答があったため、11 月に新たな看護師を採用するまで、兼務での配置等の対応をしていませんでした。実務的にはインクルージョンひょうごの看護師にサポートしていただいていたもので、兼務で配置していたものとして認めていただくことができないか、神戸市と協議中です。認識が甘かったことを反省し、今後は、人員配置基準等の確認を確実にを行い、このようなことがないようにしたいと思います。

(2) ご利用者の骨折 (左腕尺骨) 事故について

2021 年 1 月 19 日、職員とマンツーマンでの散歩中に、ご利用者がつまずき転倒しそうになったため、介助していたご利用者の左脇と左手首を引き上げて支えたところ、左腕尺骨に負荷がかかり骨折するという事故が発生しました。事故後、様子観察はしていましたが、腫れ等は見られず、ご利用者に痛そうなお様子もなかったことから、当日は受診をしませんでした。翌日になって、お母様から様子がおかしいと連絡を受け、受診した結果、骨折していることがわかりました。お母様からは、日々の支援員の介助方法や当日中に受診の判断に至らなかったことへの不信感と、骨折による家庭での介護についての負担と不安についてのお

話があり、ギプスが取れる3月10日までの間、施設としてできる限りの対応（受診時の付き添い、送迎時の2名体制での添乗、2名でのトイレ支援、土曜日の日中一時支援事業所と自宅間の送迎等）をさせていただきました。また、受診時には毎回職員が付き添い、経過を確認しました。ご本人の安全な介助方法については、理学療法士に相談し、動画を使って職員に周知をしました。

この事故について、神戸市には1月22日に報告し、施設賠償保険で対応するため、保険会社にも相談中です。次年度、最終の受診終了後に、保険手続きを進める予定です。

以上

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 木南 仁

第4期中期計画のビジョン

- ・地域にじわっと浸透する。
- ・作業内容が充実する。

新年度早々に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により、ご利用者の約半数の方が在宅利用となる中で事業を継続し、職員も初めて在宅勤務を行うなどの措置を講じました。限られた出勤職員で在宅のご利用者宅に毎日2回の電話連絡を入れながら健康状態や生活状況、ご家族が困っていることなどを把握し継続的に支援を実施しました。そのような中、作業種によっては大幅に受注減するものもありましたが、少ないご利用者と職員で何とか納期に間に合えず状況もありました。まつぼっくりは休業期間がありましたが、営業再開後は席数を減らしてソーシャルディスタンスを取り、アクリル板の設置等も行いました。お客様も再び来ていただけるようになっていきます。ただ、様々な外部イベントがほぼ中止になり、販売活動に大きな影響がありました。そこで、法人神戸地区の各事業所に焼き菓子の注文販売をお願いし、何とか販路を確保することができました。ふくぺこ(神戸市福祉局障害者支援課での置き菓子)やほっぴねすコーナー(しあわせの村本館・宿泊館1階ロビー)などの常設販売の機会も得て、販路の拡大に努めました。また、まつぼっくりでも新メニューの提供やパンの販売を行い、売り上げが向上しました。結果として、月の平均工賃支給額は目標の1万円をわずかですが超し、何とか目標を達成することができました。

緊急事態宣言中は実習の受け入れをお断りしましたが、宣言解除後は事前指導をしっかりと行ったうえでできるだけ実習を受け入れました。また、職員の外部研修も多くが中止になり機会は減りましたが、オンラインによる研修がこれまでと違った形で定着してきました。内部研修としては学習会、事例検討会、また昨年度受審した第三者評価の事後セミナーは全職員が受講し日頃の支援を振り返ることができました。あわせて毎月「虐待防止チェックリスト」の実施によりセルフチェックを行いながら支援の質の維持、向上をめざす取り組みを行いました。残念ながら理念研修は取り組むことができませんでしたが、神戸聖隷ハンドブックを輪読しました。水曜日のノー残業デーは継続し、また、前年度の有給休暇の取得が少ない職員には計画的に取得するように努めました。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
キリスト教福祉を学ぶ機会の設定 (理念理解定着部会との連動)	①理念研修の実施(2回/年) ②理念部会との連動 (キリスト教福祉基礎研修、他法人研修への参加)	① ア)理念研修はコロナ禍により未実施 イ)キリスト教福祉基礎研修参加(10,11月) ② ア)コロナ禍により他法人研修等が実施されなかったため未実施。 イ)神戸聖隷ハンドブックを毎週月曜日の終礼にて輪読実施(9月～)	×

(2) 人材確保育成の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
実習の積極的受け入れ	①保育実習、介護等体験実習、福祉体験学習等の積極的受け入れ(随時)	① 実習の受け入れは、緊急事態宣言発令中は未実施または延期。青陽須磨支援学校実習は10月実施 ア)県立総合衛生学院歯科衛生学科実習中止(7月) イ)神戸教育短期大学保育実習受け入れ(8,9月) ウ)豊岡短期大学保育実習受け入れ(11月) エ)神戸常盤大学保育実習受け入れ(3月)	△
内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施、外部研修への参加(随時)	ア)在宅勤務時間を利用し、事例検討会用資料の作成、研修動画(Lean on Me)利用等の実施(5月) イ)内部研修： 新採用臨時職員対象「記録の取り方研修」(6月)、フォローアップ研修(10月) 虐待防止事例検討会に向けた学習会(8月) 第三者評価事後セミナー(8月) 虐待防止事例検討会(11,12月)	

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施、外部研修への参加（随時）	㊦) 外部研修：新任職員向け研修[市民福祉大学](9月) 地域生活チャレンジ研修[市民福祉大学](10月) 近畿社会就労センター総合研究大会(10月) 高次脳機能障害ケア研修(1月) ㊦) 法人内研修：主任研修(10月) 食品衛生責任者養成講習会(11月) 成年後見制度研修会(11, 12月) 近畿社会就労センター職員研修会(1月) WLB基礎研修(2月) 総合職員研修(3月)	○

(3) QOLの視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
安定した作業支援の提供	①工賃支払額4,700千円/年(利用者39名) (利用者一人当たり1万円/月の維持)	コロナ禍で受注作業減少の中、 ㊦) 下請作業：新規作業(業者)の受託(6月) ㊦) ベーカリー部門 新規メニュー開発、まつぼっくりでのパン販売開始(6月) 神戸市福祉局障害者支援課ふくぺこ販売開始(7月) ㊦) 自主生産品(焼き菓子、紙製品等)をはっぴねすコーナー[しあわせの村]へ販売委託(3月) ㊦) 工賃支払額4,820千円/年平均支給額10,299円/月(39名)	◎
生活ニーズ支援、社会参加支援の提供	①利用者との面談(2回/年)実施	㊦) 緊急事態宣言中、在宅利用者に対して毎日電話支援実施(4, 5月) ㊦) 個別面談実施(8, 9, 2, 3月)	◎

(4) 経営強化の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
修繕工事の実施	①工事内容の検討(費用計算・予算計画)	㊦) 神戸市福祉局障害福祉課管理係へ問い合わせ実施(8月)	○

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
年間営業日と利用率の管理	①訓練等給付費の月毎管理、販売等による休日稼働の実施	ア) 訓練等給付費の毎月管理 イ) 緊急事態宣言時、在宅利用日報・報告書を作成、送付(5, 6月) ウ) 休日稼働：健康診断(8月)、お大師販売(6, 9, 12, 2, 3月)、社会活動[土曜レク](10, 11月)クリスマス会(12月) 利用者自治会(10, 11, 12, 1, 2, 3月)	△

(5) 地域貢献の視点

実行計画	2020年度計画	実施状況	達成度
大正筋商店街が企画するイベントに積極的に参加	①随時、企画に参加 (大正筋商店街、株式会社くまづか等の企画イベント)	ア) まつぼっくり：緊急事態宣言発令に伴い臨時休業(4/13～5/26) 5/27～営業再開 イ) 長田育児アプリ，大正筋商店街ホームページ掲載(変更) (6月) ウ) 大正筋商店街縁日中止(7月) 大正筋商店街臨時総会出席(7月) ワンコイン商店街中止(11月) エ) こうべ商店街・小売市場お買物券店舗登録(9月)・使用期間(10～1月) 商店街発行の商品券に協力店舗として登録(3月)	△
イベントの企画・開催(部会との連携)	①情報収集・検討 (年間を通して地域からの情報収集)	ア) 長田区ボランティアセンターにボランティア募集の手順等を確認(6月) イ) 認知症カフェ設置(2021年8月)に向け認知症サポーター研修受講(8月) 認知症介護基礎研修受講(1月) 他の認知症カフェの見学(10月) 近隣地域(新長田・真野・真陽)のあんしんすこやかセンターからの情報収集(10月) 市社協、神戸市担当打合せ(12月)	△

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
ホームページの定期更新 (イベント企画時の広報活動)	①ホームページの定期更新 (自主生産品の販路拡大と「まつぼっくり」のイベント紹介)	ア) ホームページの写真と焼き菓子チラシ・注文書更新(10月) イ) 法人Facebookへの投稿(9, 12月)	△

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	2020 年度計画	実施状況	達成度
大災害発生時の対応準備	①マニュアル作成、訓練実施	ア) 避難訓練実施(消防署への届出)(6, 11月) イ) 災害時マニュアル整備[気象警報発令, 風水害, 地震, 火災](7月) ウ) 避難所への移動訓練(まつぼっくりメンバー)を実施[長田区自立支援協議会防災部会と共同](2月)	○
防犯対策の整備	①防犯対策学習会の実施(1回/年)	ア) 防犯対策学習会について未実施	×
有給消化率のアップ (取得率50%以下の職員)	①2019年度取得日数より1日増(取得率50%以下の職員)	ア) 各職員の有給取得率(昨年度)の確認(5月) イ) 有給休暇取得率の低い職員に対して計画的な有給取得を依頼・実施(9, 3月)	○
ノー残業日の週2回実施	①ノー残業日の週1回の確実な取得・課題点検討	ア) 毎週水曜日のノー残業日の継続実施	○

2. 出来た事案

特にありません。

2020 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 せいれいやさかだい
施設長 岩井 誠一

第4期中期計画のビジョン

『利用者の生きがい・やりがい・働きがいを叶える支援と居場所づくり』

せいれいやさかだいでは、利用者の生きがい・やりがい・働きがいを叶える支援と居場所づくりを目標に2020年度を送りました。新型コロナウイルスの影響は想像以上に大きく、利用者の生命の安心・安全の確保を優先したことにより、年間を通し活動に制限を掛けることになりました。楽しみや喜び、やりがいを分かち合うには不十分な結果になったと感じています。

利用者による自治会「ぎんが会」の立ち上げに伴い、せいれいやさかだい支援指針にもあがっている「主体性の発揮」、「自己表現できる集団作り」の実現に向けた機会を設けられたと感じていたのですが、結果は感染症拡大予防の観点から、この機会を抑制することとなり、利用者の皆さんには不満が残る残念な1年になったのではないのでしょうか。しかし、幸いなことに、事業所内・各ご家庭で感染症罹患者が出なかったことは、利用者をはじめご家族・職員が一致して予防対策の履行に努めていただいた結果であると感謝しております。

事業では、就労継続支援B型事業の定員数確保を課題としていました。精神的な不調からご利用が途絶えていた利用者の移行先が年度末に決まり、その後ほどなくして新規利用者のご登録が叶いました。定員数は満たされましたが、就労支援B型から生活介護にサービス移行する予定者がいることから、新規でご利用いただける方の補充を目指して参ります。

また、今年度グループホーム入居者が就労継続支援B型で1名、生活介護では3名増えました。将来に不安を抱えながら過ごされている利用者・高齢化するご家族の負担軽減につながり、安心と安全を提供して行けるよう、グループホームとの連携を更に強めてまいります。特に他法人との連携においては、週末帰省をはじめとする対応等について事情等が違うこともありますので、丁寧な対応を行ってまいります。

地域との関係については、バス停清掃の機会を得ることが出来ましたが、感染拡大が減少・収束しワクチン接種が進むようになれば、改めて地域交流の機会を求め積極的に参加を果たし、地域の一員として活躍できるよう取り組んで参りたいと思います。

今年度は企業（㈱林タオール販売・㈱シミズ）の業績にも新型コロナの影響が大きく表れました。特に上半期の業績に関しては、海外からの輸入・輸出がストップし大きな被害をもたらしました。その煽りで利用者の作業提供にも影響が出ました。改めて企業だけに頼る作業量の確保に課題を感じた一年でもありました。

そうした中、新たな試みとして農家の収穫作業を応援する取り組みを行いました。農家からの反応もよく、次年度の契約の話をも早々に頂きました。作業に変化をもたらし、新しい可能性を探る機会になりました。

コロナ禍における事業の実施状況については常に変化する感染状況と向き合いながら、予防措置・対応がここまで緊張感をもって継続するといった経験は大変でしたが、事業所にとって大きな財産となりました。気を緩めることなく次年度も取り組んで参りたいと思います。

1. 推進状況

(1) 理念の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
利用者・家族の悩みに積極的な支援を実施	利用者・ご家族の課題に丁寧に丁寧に向き合い必要な支援を一緒に考える	①利用者及びご家族の悩みに対し積極的支援の提供 ②提供状況について見直しと共有	① ア) 家族の高齢化に伴い、グループホーム利用について支援を実施 イ) 独居者の医療ケア、在宅ケアを関係機関と連携し実施。高齢家族への計画相談とサービス導入補助 ウ) 成年後見制度利用のために家族と事業所、NPO 法人と連携し、利用に繋げた ② ア) 提供状況は随時共有	○
学習会・施設見学を通しキリスト教福祉に触れる機会を確保	研修機会の企画と提供	①法人内事業所見学の実施 ②キリスト教福祉基礎研修、キリスト教に係る研修機会の受講	① ア) 法人内事業所見学はコロナの感染拡大に伴い未実施 ② ア) 基礎研修受講者 1 名参加 イ) 他研修参加は未実施 ウ) 次年度に向け、研修を企画	△
唱和・読み合わせに留まらず働きを考える学びの実施	理念・接遇ハンドブックの活用	①理念を毎週月曜日に唱和、接遇内容の読み合わせの実施 ②理念、接遇についての研修実施 ③研修の見直し	① ア) 理念唱和・接遇ハンドブックの読み合わせを実施 イ) 神戸聖隷ハンドブックの読み合わせを実施 ② ア) 研修は未実施 ③ ア) 研修の見直し実施。新年度打合わせ実施	△

(2) 人材育成の視点

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
職員個々のスキルに応じた研修計画立案と自己研鑽の推進 (介護支援術・就労・地域生活・資格等)	職員のスキルに応じた年間研修計画の作成・一人一研修受講	①研修計画の立案(階級、個々のスキルに応じた研修参加)と調整 ②市民福祉大学等の研修情報の提供と受講推進	① ア)研修計画立案を実施。コロナ禍にあり研修が減少、調整未実施 ② ア)一般及び専門的研修情報を提供 イ)7名の職員が研修に参加	○
障害理解と専門的支援の実践 (ABA 研修会等の内部研修)	年3回の研修企画・開催	①青陽須磨支援学校協力のもと障害理解に必要な研修継続 ②研修内容の見直し・研修受講者による研修内容の共有、時間確保と報告の実施	① ア)協力を頂いている講師との連絡調整を実施するが、コロナ感染拡大に伴い中止 イ)年間2回、講師から頂いた資料を職員会議で配布 ② ア)コロナ感染拡大に伴い中止	△
課題解決に向けた定期的な進捗管理とOJTの実施	3事業所毎のサービス提供会議を実施、年2回の面接	①一般職以上には考課課題の進捗を含む面接実施、臨時・パート職は仕事についての聞きとり等実施 ②OJTを活用し課題への取組みを一緒に考える ③実習生への丁寧な指導、支援の実施	① ア)上半期の面接は未実施 イ)下半期の面接を実施(12月) ② ア)OJT、OFF・JTを交えながら課題への取組み検討を実施 ③ ア)神戸教育短期大学実習生4名を受入れ、実習指導を実施 イ)下期の実習生受入れは未実施	○
事業所間の課題理解と支援交流	行事企画・活動・参加者調整等	①3事業所間の利用者、職員の交流活動の検討と実施	① ア)土曜活動を半日から1日へ変更し、活動内容の検討を実施。交流機会の確保を図る	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
事業所間の課題理解と支援交流	行事企画・活動・参加者調整等	①3事業所間の利用者、職員の交流活動の検討と実施 ②活動内容の見直し	イ)4.5.6月は活動中止。7月より土曜活動(1日)を再開。 11月は2回に分けて日帰り旅行を実施 12月クリスマス会中止、1月活動中止。2月より半日の土曜交流活動実施 ロ)利用者の作業内容とモチベーションアップに他事業所への活動参加を検討。3名実施 ② ア)友が丘事業所にてプログラム内容の見直し実施	○
支援力に不安を持つ者・実習生らへのより丁寧な支援の実施	積極的介入と共有	①支援員の抱える課題に積極的なアプローチの実施 ②実習生らの実習課題等に丁寧な支援・働きかけの実施 ③アプローチ見直しと共有	① ア)随時、課題を抱える職員の聞き取りを実施 イ)パート支援員を1名補充し支援の幅を広げる ② ア)実習生の疑問に対し随時説明を実施 ③ ア)未実施	○

(3) QOLの視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
各事業所の利便性の向上	改修・購入等の実施	①各事業所の改修改善 ②ニーズの収集、試算と検討による提案の実施	① ア)林タオル事業所のトイレ改修工事、網戸の設置等を実施 イ)シミズ事業所の食堂、事務所の床材の張替えを実施 ② ア)友が丘事業所のプリンター買い替え	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
社会を意識した活動提供	活動計画の作成と実施	①生活を送る上で必要となるマナー(モラル・ルール)に関する活動、取り組みの検討と提案 ②活動計画案の共有	① ア)生活する上で必要なマナー講習会を各事業所で実施 8月「コロナと熱中症」 9月～10月「嬉しい言葉、嫌な言葉」 ② ア)活動計画案は職員会議で共有	○
	利用者自治会の設置	①自治会設置に向けた勉強会等の実施 ②自治会代表の選出 ③自治会の運営方法等について利用者・職員間で共有	①②③ ア)職員会議にて利用者自治会設置について説明。設置によるメリット等について共有 ・9/12 第1回総会を開催、代表・副代表を選出。規約を作成し、会の趣旨と進め方について利用者・職員共に共有を図る ・9/17 第1回代表者会を開催。 ・10/8、10/20、11/5、11/17、12/3 第2回～第6回代表者会を実施 ・12月後半以降自粛	◎
事業所外ワーク(作業)の確保	工賃額の向上	①現状の作業量確保 ②新規作業の積極的な検討と準備	① ア)コロナウイルスの影響にて作業量は減少 ② ア)関係機関等への働きかけ実施するも成果なし イ)ゆうちょ ATM 清掃、新たな清掃先の確保(4月) ウ)淡路島玉ねぎ収穫作業手伝い実施(6月) エ)ゆうちょ ATM 清掃の回数増(12月)	△
独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	不安の聞きとり・支援提供	①独居者・高齢家族への支援と制度利用及び活用の促進	ア)新規で成年後見制度利用1名開始。後見人・関係者によるカンファレンス実施	◎

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	不安の聞きとり・支援提供	①独居者・高齢家族への支援と制度利用及び活用の促進	イ) 独居利用者自宅改修について保佐、その他関係機関と改修案検討。(12月～) ロ) 独居利用者の金銭管理について聞き取り実施。保佐と調整の話し合い実施	◎
関係機関との支援強化 (総合相談センター、支援センター、福祉事務所等)	担当者への積極的アプローチ	①関係機関と積極的に関わりを持ち、利用者の支援状況把握と支援関係を強化	ア) 区役所をはじめとする関係機関への訪問および総合相談センターとの連携を行い支援に対応 イ) 関係機関と調整し、支援区分の見直しを実施(10月、2月)	○

(4) 財務の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
3 事業所活動拠点の継続	状況の分析・情報収集	①3 事業所の関係者(企業・自治会)との関係構築 ②物件情報等収集を継続	① ア) 異物混入・マスク取扱いをきっかけに担当者との関係を構築(林タオル) イ) 北須磨団地自治会において民生委員の会合に参加。地域担当者との交流を実施(友が丘・6月、1月) ② ア) 活動及び作業の必要性に合わせて物件を検討	○
企業、近隣との関係づくり	担当者への積極的アプローチ	①各事業所における関係企業への訪問(定期含む)	① ア) 林タオル販売株式会社・株式会社シミズへの企業訪問を実施	○
企業、近隣との関係づくり	担当者への積極的アプローチ	②地域自治会及び行事等への訪問と関係者からの要望(クレーム含む)に迅速に対応	② ア) 自治会・児童館への訪問を定期的に行い、次亜水の配布等を実施 イ) 竜が台7丁目自治会長交代後、会長訪問、事業所案内を実施	○

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
高額工賃支給による給付費収入増を目指す	給付費増収への取り組み	①外部作業の試験的取組みを繰り返し検討 ②作業実施による収入と工賃配分金額の検証	① ア) 外部企業からの新しい作業導入は未実施。6月試験的に玉ねぎの収穫作業を実施 ② ア) コロナ禍により収入減少、検証は未実施	△
作業及び活動の取り組み状況を利用者に達成感を提供	目標の可視化	①作業は月々の売り上げ目標値と達成状況を視覚化して表示 ②活動は年間予定や月予定の達成状況について利用者と確認	① ア) 作業収入について可視化を実施 ② ア) 自治会活動を通じて年間予定について共有	○
事業所の魅力をアピール	刊行物発行・ホームページ更新	①定期的にホームページ更新 ②ミニ広報紙の編集と発行	① ア) ホームページの更新を実施 ② ア) ミニ広報誌を6・9月に発行	○

(5) 地域の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域行事・活動等への参加・準備・協力を積極的に取り組む(行事・活動・清掃活動含む)	積極的な参加	①支援者による参加・協力以外に、利用者参加の推進を計画	① ア) 地域行事等への利用者の参加はコロナの影響により未実施 イ) 地域夏祭りの準備・片付けに施設長が出席 ウ) 安全安心コミュニティー像の集いに施設長が出席 ② ア) 未実施	△
地域コミュニティーの活用と関係構築	地域資源(コミュニティー)の活用	①地域のコミュニティー施設の活用を通して関係者との関係性を向上 ②新たな活用方法等について提案と情報発信	① ア) 老人の家・地域福祉会館等の活用はコロナ禍に於いて見合わせる ② ア) 地域福祉センターをイベントで利用予定とするが感染防止のため、利用中止(12月)	△

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
地域高齢者の生活支援要請を活動に反映	地域・高齢者等のニーズ収集・試行	①近隣高齢者のニーズを把握、支援内容と利用者活動について検討 ②実現可能な事を試行し共有	① ア) 民生員から地域高齢者の困りごと・必要な支援についての情報収集を実施 イ) 民生委員を含む 30 名の地域住民より情報収集を行う ② ア) 未実施。内容の検討のみ行う	○
林タオル販売、シミズに対し除草・掃き掃除等の奉仕活動を実施し、更に周辺企業へアピール	奉仕活動	①除草、落ち葉掃き、ゴミ拾い等奉仕活動の提供 ②実施内容の見直し	① ア) 2ヶ月に1回ペースで除草作業を実施 イ) 北須磨団地前バス停の清掃実施(7月～翌3月) ② ア) 未実施	○

(6) 人事・労務・危機管理の視点

実行計画	計画内容	2020年度計画	実施状況	達成度
日常的な関り(挨拶・労い)を大切にした関係づくりと労務配慮の実施	管理者の訪問	①訪問・支援ヘルプ等を通じた職員との信頼構築と声掛けによる関係作り ②労務状態(体調・家族看護・介護等)を早期に把握し、負担軽減等を実施	① ア) 不定期で訪問を行い顔の見える関係作りを実施 ② ア) 血圧・体調不良・家族の看護等による急な勤務変更に対応	○
労務状況の改善と効率的な働き方の提案	土曜活動の活動内容・時間・日数等の検討と実施	①行事・活動の計画実施を支援し労いと感想を共有 ②収入を含めた効率的な働き方を提案する	① ア) 代休及び有給休暇取得のアナウンスを行うと共に、労いの言葉掛けを実施 ② ア) 土曜活動の一日化に伴い、代休と時間有休の取得を統一した提案を実施	○
福祉避難場所としての役割	各事業所の役割	①運用マニュアルの整備	ア) 未実施	×

実行計画	計画内容	2020 年度計画	実施状況	達成度
訓練の実施	避難訓練	①避難訓練	ア)3 事業所にて避難計画作成、 訓練を実施(9月、10月)	○
備蓄品の確認 と補充	備蓄品の検 討	①備蓄品の補充	ア)コロナ禍に於ける備蓄品の 確認を実施。補充に関しても 随時更新を実施	○

2. 出来した事案
特にありません。

2020年度 事業報告別表 1(事業実績)

※稼働日数が協定等で定められている事業以外は
法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位=人		単位=%		単位=人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績
特養 平生園	60	21,243	21,333	97.0	97.4		
" さくらの苑	29	10,161	10,516	96.0	99.3		
GH わらしべ	18	6,439	6,487	98.0	98.7		
入所 恵生園	60	21,162	20,766	96.6	94.8	0	0
" 真生園	60	21,438	20,716	97.9	94.6	0	0
" 神戸愛生園	50	17,002	16,666	93.2	91.3	1	1
" 神戸明生園	70	22,390	22,021	87.6	86.2	3	2
GH グループホームもみの木	5	1,663	1,728	91.1	94.7		
" グループホームかしの木	7	2,394	2,285	93.7	89.4		
" グループホームかしの木II	5	1,333	1,406	73.0	77.0		
" せいれいやまて	7	2,284	2,141	89.4	83.8		
" たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,752	1,584	96.0	86.8		
" 南落合	5	1,444	1,480	79.1	81.1		
" アリエッタ北須磨	10	2,756	2,908	75.5	79.7		
" きたすま	5	1,765	1,747	96.7	95.7		
" みなみたもん	5	1,682	1,695	92.2	92.9		
" ふくだ	10	3,276	3,468	89.8	95.0		

短期入所支援事業	定員数	単位=人		単位=%	
		利用延べ人数		利用率①	
		2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績
高齢 さくらの苑	10	3,543	3,309	97.1	90.7
障害 恵生園	3	420	562	38.4	51.3
" 真生園	4	268	474	18.4	32.5
" 神戸愛生園	5	1,059	477	58.0	26.1
" 神戸明生園	10	2,933	1,538	80.4	42.1
" アクシスひょうご	6	2,506	2,086	114.4	95.3

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)	定員数	単位=人		単位=%	
		利用延べ人数		利用率②	
		2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績
通所 さくらの苑	18	4,744	4,899	85.0	87.8
" デイセンターひょうご(共生型)	25	597	534	8.9	7.9
" 神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	101	81	0.6	0.5
生活 恵生園	60	16,292	15,779	100.9	97.8
" 真生園	60	16,076	15,599	99.6	96.6
" 神戸愛生園	60	15,056	15,082	93.3	93.4
" 神戸聖生園	47	14,928	13,377	118.1	105.8
" せいれいやさかだい	25	6,052	5,354	90.0	79.6
" 神戸光生園	54	13,103	12,413	90.2	85.5
" 神戸明生園	80	20,100	19,529	93.4	90.7
" デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,918	4,262	73.1	63.4
" 自立センターひょうご	60	13,114	11,937	81.3	74.0
" トゥモロー	8	1,132	1,218	58.7	63.2
" インクルージョンひょうご	20	3,240	2,634	60.2	49.0
日中 真生園	5	12	3	0.7	0.2
" 神戸明生園	10	48	16	1.3	0.4
" アクシスひょうご	6	36	40	1.6	1.8
児童 すまいる	20	3,128	3,160	69.5	70.2
" らみい	10	1,743	1,899	67.6	73.6
" エスポワールこじか	10	1,963	2,020	84.6	87.1

年間稼働日数 310日

市との協定日数 241日

市との協定日数 225日

市との協定日数 258日

市との協定日数 232日

単位＝人

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		単位＝人	
		利用延べ人数		利用率②		就職者数		就労定着支援 利用延べ人数	
		2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績
移行 和生園	6	1,574	1,428	97.5	88.5	2	1	25	15
〃 神戸光生園	6	770	921	47.7	57.1	2	1	30	33
〃 ワークセンターひょうご	30	3,903	4,863	48.4	60.3	13	14	336	328
相談 しごとサポート中部	—	—	—	—	—	80	87	—	—
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
		利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
		2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績	2020年度 目標	2020年度 実績
就B 和生園	34	8,872	8,654	97.0	94.6	179	106	22,000	14,314
〃 せいれいやさかだい	15	3,414	2,685	84.6	66.5	44	37	5,555	4,512
〃 神戸友生園	37	8,986	7,196	90.3	72.3	82	207	10,800	10,736
〃 神戸光生園	30	7,463	6,647	92.5	82.4	112	171	11,162	14,447
〃 デイセンターひょうご	10	3,074	2,827	114.3	105.1	120	125	2,483	2,231
〃 ワークセンターわかまつ	40	8,730	8,801	81.1	81.8	112	116	10,042	10,229

単位＝件

居宅介護支援・相談支援	支援内容・対象	支援件数	
		2020年度 目標	2020年度 実績
居宅 居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,110	1,173
障害 ぴあほくたん	障害者	498	507
〃 発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	900	400
〃 エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	230	222
〃 恵生園相談支援事業所	障害者	198	223
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	9,500	7,381
〃 しごとサポート中部	障害者	—	—
〃 ひょうご障害者地域生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	5,300	6,119
〃 神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,100	1,008
〃 すま障害者地域生活支援センター	相談・緊急対応	7,600	7,298
〃 神戸聖隷総合相談センター	相談	3,000	2,989

単位＝件

生活援助・介護予防・職場開拓	項目	件数	
		2020年度 目標	2020年度 実績
障害 あったかブラザ(飲食店)	来店人数	6,450	4,283
〃 障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	300	198

単位＝人

診療所		診療延べ人数	
		2020年度 目標	2020年度 実績
医療 真生園診療所		990	1,788
〃 風クリニック		1,250	1,437
〃 神戸愛生園診療所		3,000	3,186

法定年間稼働日数	365日
法定年間稼働日数	269日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷[定員数×(365日-8日×12ヶ月)]

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合
利用率＝1250人÷(20人×(23日+22日+23日))＝91.9%

2020年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

No.	施設名	施設 件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額 (千円)	財源			
							サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
1	恵生園	1	スプリンクラー消火水槽入替工事	整備後31年が経過しており、老朽化が進んでいます。また、消防本部より有効容量を16㎡に整備するよう指導を受けたため	2020年6月	10,230	生活介護	施設整備等補助金収入 介護給付費収入	社会福祉施設等施設整備費補助金	7,671
2	真生園	1	トイレ部分的改修工事及び厨房床改修工事	・本館トイレ老朽箇所の部分的な修繕 ・厨房床改修工事	2020年12月	8,600	生活介護	積立資産取崩収入		
3	真生園	2	天井走行リフト更新(新館)	天井走行リフトの老朽化及び修理困難機種への更新	2020年7月	6,787	生活介護	積立資産取崩収入		
4	平生園	1	平生園改修計画策定・設計・監理料	・屋上防水改修 ・外壁塗装改修 ・内装及び設備改修 ・上記各改修工事に係る工事概算算出 ・設計・監理料	2021年3月	13,296	平生園(特別養護老人ホーム)	減価償却積立資産取崩収入		
5	神戸愛生園	1	ナースコール更新	現在のナースコール設備が開園当初導入のものであり、老朽化のため不具合多発している。システム全体の更新を行う。	2021年 1月Wi-Fi工事 2月	7,632	生活介護	減価償却積立資産取崩収入		
6	神戸愛生園	2	眠リスクャン購入設置	ご利用者の健康状態を把握するシステム。8台とWi-Fi工事	2021年3月	906	生活介護	減価償却積立資産取崩収入	神戸市ロボット等導入支援事業	906
7	神戸愛生園	3	職員寮窓枠改修、廊下非常照明改修	職員寮の窓枠が設立当初の設備で、老朽化により不具合が多発している。友が丘総合事業の工事に合わせ実施。(カバー工法) 廊下照明灯老朽化してており、その更新	2021年2月	4,000	支部	建設積立資産取崩収入 家賃(職員寮)収入		
8	神戸光生園	1	おおまち屋内改修	トイレ改修(ウォシュレット3基新設・ トイレ内老朽化対応) 専用電源新設	2020年8月	542	生活介護	修繕積立資産取崩収入		
9	神戸明生園	1	神戸明生園新館大規模改修工事	新館外壁塗装及び防水工事	2020年6月	25,993	生活介護	施設整備等補助金収入 及び運営資金	神戸市民間社会福祉施設整備費等補助金	17,589
10	神戸明生園	2	眠リスクャン整備	眠リスクャン3台	2021年4月	339	生活介護	施設整備等補助金収入 及び運営資金	令和2年度神戸市障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業補助金	339
11	せいれいやさかだい	1	林タオル事業所3階男性トイレ改修工事	和式便座から様式便座への取替工事(2基)	2020年6月	579	生活介護:434 就 B:144	修繕費		